

審査意見への対応を記載した書類(9月)

(目次)和歌山保健医療学部 看護学科

2.【第一次専門審査意見3、6の回答について】

1年次前期に履修する授業科目とされている「チーム医療論」について、その教育内容に含まれる「チームを組む専門職種の役割」や「多職種連携に求められる専門能力」に係る教育効果を十分に得るためには、当該科目の配当年次以降に配置されている授業科目を通じて看護の基礎知識を修得した上での履修が前提になると考えられる。また、1年次後期に履修する授業科目とされている「看護倫理学」についても、その到達目標が「看護の展開科目」に区分される授業科目の履修を経なければ到達が困難な目標と見受けられる。このため、これらの授業科目について、その教育内容や関連する他の授業科目の配当年次を勘案した上で、適切な配当年次を改めて設定するとともに、必要に応じて履修に支障のない教育内容に改めること。(是正事項)・・・3

3.【第一次専門審査意見4の回答について】

アドミッションポリシー(4)に掲げる「看護職にとって重要なコミュニケーション能力」について、「主に面接における『聞く』、『意見をまとめる』、『話す』といったコミュニケーションスキルで得点化」する旨の説明があるが、面接を含まない一般選抜において、学科試験により一定程度測定できると仮定しても、適切に当該能力を測ることができるのか不明確である。このため、一般選抜においてアドミッション・ポリシー(4)に掲げる能力を適切に測定可能であることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(是正事項)・・・15

6.【第一次専門審査意見7の回答について】

各実習科目や「看護研究Ⅱ」の成績評価に用いる「評価表(案)」を資料として添付している旨記載があるが、当該資料が添付されていないため、その妥当性が判断できず、該当科目における成績評価が適切になされるかが不明確である。「評価表(案)」を提示した上で、具体的な評価方法等について改めて明確に説明すること。(是正事項)・・・20

1.【第一次専門審査意見1の回答について】

3つのポリシーの中に「看護師」や「看護専門職」など、同趣旨だが異なる記載が散見されるため、表記を統一すること。(改善事項)・・・22

4.【第一次専門審査意見4の回答について】

アドミッション・ポリシーに掲げる「コミュニケーション能力」と、本学部の教育課程の履修により涵養(かんよう)する「コミュニケーション能力」との差異が判然としないことから、異なる用語を用

いるなど、学内外に対して誤解が生じないように適切に改めることが望ましい。(改善事項)・・・25

5.【第一次専門審査意見5の回答について】

シラバスについて、以下の点を踏まえて、シラバス全体を網羅的に点検した上で、適切な記載に改めること。

(1) 授業科目とディプロマ・ポリシーとの関連に係る記載が新たに追加されたが、例えば「基礎ゼミナール」では、当該授業科目と関連があるとされるディプロマ・ポリシー(2)に関わる授業内容が存在しないと見受けられる。また、その授業内容から、複数のディプロマ・ポリシーと関連すると見受けられる授業科目においても、1つのディプロマ・ポリシーしか記載されていないなど、ディプロマ・ポリシーとの関連が必ずしも整合したものとは判断できない。

(2) 「担当教員」欄について、「看護研究Ⅱ」など、担当する教員の氏名が適切に記載されていないものが見受けられる。また、「全准教授」や「全講師」等の記載は、学生に分かりにくく、教員組織に変更が生じた際に齟齬が生じることが懸念される。(改善事項)・・・26

7.【第一次専門審査意見10の回答について】

「開設後から計画的な若手教員の昇任・公募・採用活動を行う。」という記載があるが、例えば、どの職位区分・分野の教員の昇任や公募を、どのようなスケジュールで行うことを想定しているのかなど、具体的な計画内容が必ずしも明らかではないため、本学部で実施する教育研究の継続性を踏まえ、将来構想をより具体的に説明すること。(改善事項)・・・26

(是正事項)和歌山保健医療学部 看護学科

2. 【第一次専門審査意見3、6の回答について】

1年次前期に履修する授業科目とされている「チーム医療論」について、その教育内容に含まれる「チームを組む専門職種の役割」や「多職種連携に求められる専門能力」に係る教育効果を十分に得るためには、当該科目の配当年次以降に配置されている授業科目を通じて看護の基礎知識を修得した上での履修が前提になると考えられる。また、1年次後期に履修する授業科目とされている「看護倫理学」についても、その到達目標が「看護の展開科目」に区分される授業科目の履修を経なければ到達が困難な目標と見受けられる。このため、これらの授業科目について、その教育内容や関連する他の授業科目の配当年次を勘案した上で、適切な配当年次を改めて設定するとともに、必要に応じて履修に支障のない教育内容に改めること。

(対応)

今回の指摘を受け、授業科目について、その教育内容や関連する他の授業科目の配当年次を勘案した上で、「チーム医療論」については3年次前期に変更する。

「看護倫理学」については前回(6月)の指摘も踏まえ、配当年次は1年次後期とし、授業計画の見直しを行う。また、教育内容を見直し、1年次での履修にふさわしい内容に改める。

本学は「看護倫理学」を当初、4年生で臨地実習修了後に実習を経たうえで理解を深める科目として位置付けていたが、看護実践をする上で倫理は共通して不可欠な知識・態度であり、また4年間継続的に涵養することが必要であることから、1年次後期に必修科目として配置する。「看護倫理学」の基礎知識は、4年次にはそれまでの経験を問いながら展開する予定であったが、1年次では基礎的な知識を入学間もない学生にもわかりやすい工夫をしながら展開することになる。基礎的な内容は、項目としては同じであり、シラバス上は大きく変えていない。ただ、4年生ならではの事例による討論は1年生では難しいため、事例を用いて説明するという内容に変更した。

これらの見直し、修正を行うと共に、設置の趣旨を記載した書類における教育課程の編成の考え方及び特色において、科目配置の考え方などについて説明を加える。

これに伴い、教育課程の概要【資料1】、シラバス【資料2】、指定規則との対比表【資料3】、履修モデル【資料4】、履修系統図(カリキュラムマップ)【資料5】、時間割案【資料6】について修正する。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(10ページ)

新	旧
(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成 看護に必要な科学的な知識を体系的に理解するために、人体の構造や機能、	(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成 看護に必要な科学的な知識を体系的に理解するために、人体の構造や機能、

病態生理とその治療や看護の方法など、健康・疾病・障害に関する基礎的な知識を修得するため、専門基礎科目において、「解剖学」「生理学」「生化学」「臨床栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理・治療学」の各科目を配置する。また、保健・医療・福祉に関する制度や支援方法に対する理解の増進に向けて、「公衆衛生学」「疫学」「関係法規」「社会保障制度」「医療情報学」などの科目を配置する。

専門科目では、最新の知見に基づき、看護を実践し得る専門知識と技術を教授するために、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の各科目群を講義・演習・実習と段階的に配置する。「看護の基礎科目」である「看護学概論」「基礎看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護過程論」「ヘルスアセスメント」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」においては、看護師として必要な科学的知識と技術・態度について、実践に向けて必要な基礎的な内容を修得する「看護の展開科目」では、「成人看護学」「高齢者看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」の科目ごとに、概論・各論で行う講義・演習をとおして、実践的な知識・技術・態度を修得する。

「感染看護学」はどの領域においても共通して重要であり、かつ感染予防に関する知識は看護実践に不可欠であることから、基礎看護学実習Ⅱ・領域別の実習が開始される前の２年生後期に必修として配置した。「チーム医療論」は、現代の医療において、看護を実践するには不可欠な考え方であり、常に

病態生理とその治療や看護の方法など、健康・疾病・障害に関する基礎的な知識を修得するため、専門基礎科目において、「解剖学」「生理学」「生化学」「臨床栄養学」「薬理学」「病理学」「微生物学」「病態生理・治療学」の各科目を配置する。また、保健・医療・福祉に関する制度や支援方法に対する理解の増進に向けて、「公衆衛生学」「疫学」「関係法規」「社会保障制度」「医療情報学」などの科目を配置する。

専門科目では、最新の知見に基づき、看護を実践し得る専門知識と技術を教授するために、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の各科目群を講義・演習・実習と段階的に配置する。「看護の基礎科目」である「看護学概論」「基礎看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護過程論」「ヘルスアセスメント」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」においては、看護専門職として必要な科学的知識と技術・態度について、実践に向けて必要な基礎的な内容を修得する。「チーム医療論」は、看護を展開する上で早期に必要な知識であるため、１年次に配置した。現代の医療において、看護を実践するにはチーム医療は不可欠な考え方であり、常にチームでどう展開するかを考えて実践に結び付けることができるように組み立てた。「看護の展開科目」では、「成人看護学」「高齢者看護学」「小児看護学」「母性看護学」「精神看護学」「地域・在宅看護学」の科目ごとに、概論・各論で行う講義・演習をとおして、実践的な知識・技術・態度を修得する。「感染看護学」はどの領域においても

<p>チームでどう展開するかを考えて実践に結び付けることができるように、領域別実習開始前の3年次前期に配置した。「看護理論と実践」は、学生の看護理論への興味を高めるため、看護理論の概要と理論が実践でどのように応用されているのかを理解するため領域別実習の前に配置した。</p>	<p>共通して重要であり、かつ感染予防に関する知識は看護実践に不可欠であることから、基礎看護学実習Ⅱ・領域別の実習が開始される前の2年生後期に必修として配置した。</p>
---	---

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(10ページ)

新	旧
<p>(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる能力の育成 看護実践において不可欠な論理的に判断する能力は、学部共通科目、専門基礎科目から、専門科目へと学生の参加型授業を通じ育成する。看護を実践できる能力の育成のために臨地実習を展開する。</p>	<p>(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる能力の育成 看護実践において不可欠な論理的に判断する能力は、学部共通科目、専門基礎科目から、専門科目へと学生の参加型授業を通じ育成する。</p>

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(11ページ、13ページ)

新	旧
<p>4-2 カリキュラムの構成 4-2-1 科目群の構成 (省略) (3) 専門科目 専門科目は、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の2つに区分した。 ① 「看護の基礎科目」(11科目、必修16単位) はじめて看護を学修する1年次生が、看護とは何かを知り、看護への興味を深める科目として「看護学概論」を、実際に患者へ実施する生活援助と治療援助の技術を演習で学ぶために「基礎看護技術学Ⅰ」「基礎看護技</p>	<p>4-2 カリキュラムの構成 (省略) (3) 専門科目 専門科目は、「看護の基礎科目」「看護の展開科目」の2つに区分した。 ① 「看護の基礎科目」(11科目、必修16単位) はじめて看護を学修する1年次生が、看護とは何かを知り、看護への興味を深める科目として「看護学概論」を、実際に患者へ実施する生活援助と治療援助の技術を演習で学ぶために「基礎看護技術学Ⅰ」「基礎看護技</p>

<p>術学Ⅱ」「基礎看護技術学Ⅲ」「基礎看護技術学Ⅳ」を設置している。患者のアセスメントを行い、看護過程を展開する演習科目として「ヘルスアセスメント」「看護過程論」を行う。これら学修した成果を統合するために、病院の構造や療養環境、看護の実際をみる「基礎看護学実習Ⅰ」、患者を受け持って看護過程を展開する「基礎看護学実習Ⅱ」を設置している。また、「チーム医療論」では、本学のリハビリテーション学科の協力を得て、チームを組む職種を理解するなど、大学の強みを生かした科目として展開する。「看護倫理学」は、人材養成の目的である看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけるための科目であり1年次に必修としている。</p> <p>② 「看護の展開科目」（43科目、必修59単位、選択5単位）</p> <p>看護の基礎科目で学修した知識・技術を基盤に、領域別に対象者にあわせて看護が展開できるように学修する。そのため、各領域別に対象者を理解する概論を2年次前期、援助方法を理解する各論を2年次後期と3年次前期に配置している。さらに、講義・演習での学修を統合して、領域ごとに3年次後期から4年次前期にかけて実習を行う。配置科目は、「成人看護学概論」「成人看護学各論ⅠA（急性期：周手術期）」「成人看護学各論ⅠB（急性期：救急看護・クリティカルケア）」「成人看護学各論Ⅱ（慢性期）」「リハビリテーション看</p>	<p>術学Ⅱ」「基礎看護技術学Ⅲ」「基礎看護技術学Ⅳ」を設置している。患者のアセスメントを行い、看護過程を展開する演習科目として「ヘルスアセスメント」「看護過程論」を行う。これら学修した成果を統合するために、病院の構造や療養環境、看護の実際をみる「基礎看護学実習Ⅰ」、患者を受け持って看護過程を展開する「基礎看護学実習Ⅱ」を設置している。また、「チーム医療論」では、本学のリハビリテーション学科の協力を得て、チームを組む職種を理解するなど、大学の強みを生かした科目として展開する。「看護倫理学」は、人材養成の目的である看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけるための科目であり必修としている。</p> <p>② 「看護の展開科目」（43科目、必修59単位、選択5単位）</p> <p>看護の基礎科目で学修した知識・技術を基盤に、領域別に対象者にあわせて看護が展開できるように学修する。そのため、各領域別に対象者を理解する概論を2年次前期、援助方法を理解する各論を2年次後期と3年次前期に配置している。さらに、講義・演習での学修を統合して、領域ごとに3年次後期から4年次前期にかけて実習を行う。配置科目は、「成人看護学概論」「成人看護学各論ⅠA（急性期：周手術期）」「成人看護学各論ⅠB（急性期：救急看護・クリティカルケア）」「成人看護学各論Ⅱ（慢性期）」「リハビリテーション看</p>
---	---

<p> 護学」「高齢者看護学概論」「高齢者看護学各論Ⅰ」「高齢者看護学各論Ⅱ」「成人・高齢者看護学実習Ⅰ（急性期）」「成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期）」「成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリ期）」「成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援）」「成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携）」 「小児看護学概論」「小児看護学各論Ⅰ」「小児看護学各論Ⅱ」「小児看護学実習」「母性看護学概論」「母性看護学各論Ⅰ」「母性看護学各論Ⅱ」 「母性看護学実習」「精神看護学概論」「精神看護学各論Ⅰ」「精神看護学各論Ⅱ」「精神看護学実習」「地域・在宅看護学概論」「地域・在宅看護学各論Ⅰ」「地域・在宅看護学各論Ⅱ」 「地域・在宅看護学実習」である。領域別の実習開始前に、実習と結び付けて理解する「看護理論と実践」と看護実践に不可欠な知識として「感染看護学」を配置した。 </p> <p> 学生の専門性やキャリアにつながる基盤として、4年次に「緩和ケア」「災害看護論」「看護管理学」「看護教育学」「地域精神保健学」「国際看護論」を履修できるように配している。学生の興味に従って選択することを基本とするが、「災害看護学」は今後の日本（特に本学が立地する和歌山県）に欠かせない看護内容であるため必修としている。また、「看護管理学」は、「看護の統合Ⅰ（実習）」において管理実習を行うため、必修としている。 </p>	<p> 護学」「高齢者看護学概論」「高齢者看護学各論Ⅰ」「高齢者看護学各論Ⅱ」「成人・高齢者看護学実習Ⅰ（急性期）」「成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期）」「成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリ期）」「成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援）」「成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携）」 「小児看護学概論」「小児看護学各論Ⅰ」「小児看護学各論Ⅱ」「小児看護学実習」「母性看護学概論」「母性看護学各論Ⅰ」「母性看護学各論Ⅱ」 「母性看護学実習」「精神看護学概論」「精神看護学各論Ⅰ」「精神看護学各論Ⅱ」「精神看護学実習」「地域・在宅看護学概論」「地域・在宅看護学各論Ⅰ」「地域・在宅看護学各論Ⅱ」 「地域・在宅看護学実習」である。 </p> <p> 学生の専門性やキャリアにつながる基盤として、2年次から4年次にかけて「緩和ケア」「災害看護論」「看護管理学」「感染看護学」「看護教育学」「看護理論と実践」「地域精神保健学」「国際看護論」を履修できるように配している。学生の興味に従って選択することを基本とするが、「災害看護学」は今後の日本（特に本学が立地する和歌山県）に欠かせない看護内容であるため必修としている。また、「感染看護学」はどの領域においても共通して重要であり、かつ感染予防に関する知識は看護実践に不 </p>
---	--

<p>4年間の集大成として、これまでの学修を統合する「看護の統合Ⅰ（演習）」「看護の統合Ⅱ（演習）」「看護の統合Ⅰ（実習）」「看護の統合Ⅱ（実習）」を配置している。演習では、事例によるシミュレーションで看護を展開しながら、学修を深め、看護実践能力を養う。多重課題など実践に即した状況に対応できるか、技術の試験も行い、卒業時の実践能力向上に努める。実習は、看護管理と各自の課題やキャリア開発に資する臨地において組み立てる。</p> <p>さらに、4年生では看護を探究する姿勢を身につけるために、「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」を配置している。</p>	<p>可欠であることから、必修として配置した。「看護管理学」は、「看護の統合Ⅰ（実習）」において管理実習を行うため、必修としている。</p> <p>4年間の集大成として、これまでの学修を統合する「看護の統合Ⅰ（演習）」「看護の統合Ⅱ（演習）」「看護の統合Ⅰ（実習）」「看護の統合Ⅱ（実習）」を配置している。演習では、事例によるシミュレーションで看護を展開しながら、学修を深め、看護実践能力を養う。多重課題など実践に即した状況に対応できるか、技術の試験も行い、卒業時の実践能力向上に努める。実習は、看護管理と各自の課題やキャリア開発に資する臨地において組み立てる。</p> <p>さらに、4年生では看護を探究する姿勢を身につけるために、「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」を配置している。</p>
--	---

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(14ページ)

新	旧
<p>4-2-2 カリキュラム構成とディプロマポリシーとの関連</p> <p>本学科のカリキュラム構成とディプロマポリシーとの関連については、履修系統図（カリキュラムマップ）【資料4-2】のとおりであり、本学のディプロマポリシーに沿って各学年にバランスよく配置されている。</p>	<p>本学科のカリキュラム構成とディプロマポリシーとの関連については、履修系統図（カリキュラムマップ）【資料4】のとおりであり、本学のディプロマポリシーに沿って各学年にバランスよく配置されている。</p>

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(14ページ)

新	旧
<p>学部共通科目において、主にディプロマポリシー「(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い 倫理観・道徳心を身につけている。」の知識の獲得を目指す。特に、倫理観・道徳心の育成は、看護師を目指す学生には不可欠であり、1 年次前期には「基礎ゼミナール」「看護学概論」において看護における倫理の意義や重要性についての気づきを促し、1 年次後期になって「看護倫理学」の授業で看護倫理の基礎的知識と倫理的葛藤場面での意思決定方法について教授する。意思決定方法についてはそのプロセスをわかりやすい事例を通して説明し、将来の臨地実習のときに生かせるように教育を行う。1 年次に看護倫理の基礎的知識を理解し、2 年次以降に看護の専門領域における倫理的な課題や問題についてさらに学修を深めた上で、臨地実習が開始できるように組み立てている。4 年間の講義・演習・実習を通して倫理観や道徳心を深められるよう教育を行う。</p> <p>専門基礎科目において、主にディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」の知識の獲得を目指す。専門科目の中で「看護の基礎科目」においては、看護実践の基盤となる基本的な知識と技術を学修し、ディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」の知識の獲得を</p>	

目指す。「看護の基礎科目」においては、1年生の後期に基礎看護学実習Ⅰを早期体験実習として実施する。先に臨地の現場を見ることによって、病院や療養環境、看護師が実践していること、チーム医療の実際について、今後の学修の中でイメージしやすく、学内での学習意欲を高めることを意図して開講する。基礎看護学実習Ⅱは、看護の基礎科目として積み上げてきた、講義・演習を統合する実習として、はじめて患者を受け持ち看護過程の展開を体験する。これによって、基礎看護の段階におけるディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる。」の獲得へとつなげる計画である。

「看護の展開科目」は、専門領域別に、概論・各論という講義・演習を段階的に積み上げ、ディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」の知識の獲得を目指す。領域ごとに、講義・演習を統合する実習として、臨地実習を3年生後期から4年生前期にかけて開講し、ディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる。」の実践力の獲得を目指す。実践力は臨地実習を継続的に実施することによって強化・定着するため、3年後期から4年前期にかけて1年間臨地実習を配置する。また、看護師の活躍する場は、病院から地域へと広がっている。大学卒業後すぐに訪問看護師として就職する道も開かれている。その重要性に鑑み、

本学科では地域・在宅看護学実習は訪問看護ステーションにおいて、訪問看護における看護過程の展開を体験する実習内容とした。さらに、この実習の前には、成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携）の実習を配置し、病院から地域への移行支援が理解できるようにしている。

4 年生前期には、領域別の実習修了後、看護管理に関する看護の統合Ⅰ（実習）と学生が自分の課題や将来を見据えて深めたい内容で企画する看護の統合Ⅱ（実習）を配置した。これは、ディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」の獲得にもつながると同時に、ディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」の獲得に深く関連する実習である。

このように看護の統合Ⅰ・Ⅱ（実習）は、実習の集大成として組み込まれた科目である。

看護の統合Ⅰ・Ⅱ（演習）は、卒業を控えた4年生に、臨床現場で求められる臨床判断や多重課題に備えて、実践力を強化する目的で、臨地実習を終えたからこそできる、高度な設定での学内演習である。確かな実践能力を身に付け卒業できることを意図しており、ディプロマポリシー「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」との関連が深い科目

である。

このように、看護の統合Ⅰ・Ⅱ（実習）は実習の集大成として、看護の統合Ⅰ・Ⅱ（演習）は、卒業前に看護技術を磨き、看護実践能力を確かなものとして身に付けるために準備されている。

さらに、4年生後期には、卒後のキャリアを支援する科目を配置した。将来、教育分野や専門看護師、保健師・助産師資格取得、さらには国際看護や災害看護に興味があるなど、学生の興味や関心に従って、履修する科目を準備した。必修の科目も含めて、4年生後期だから腑に落ちる、わかるという内容の科目群となっている。4年生までに、各分野や領域で触れられてきた内容を、実習を終えてみて、改めて基礎を深く学習し、それを基盤に実践にあてはめて考えることによって、知識の定着と興味と責任感がさらに広がることを意図している。ディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」との関連が深い科目である。

大学教育として、4年生では看護を探究する看護研究Ⅰ・Ⅱを1年間で展開する。前期は実習もあり主に、研究を実施するために知識を学修するが、後期には実際に研究を行い、発表するところまで体験し、ディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」の能力獲得を目指す。看護研究は

<p>領域別にゼミに所属し、指導教員のもと学生同士で切磋琢磨し、発表を目指し、看護研究への興味を高め、将来に渡り看護研究や看護の探求を継続できる人材を養成する。</p>	
--	--

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(16ページ)

新	旧
<p>③ 専門科目</p> <p>専門科目については、看護の基礎科目として 11 科目、看護の展開科目として 43 科目を配置している。</p> <p>看護の基礎科目は、1 年次に看護学の概要と看護倫理、生活援助に関する基礎看護技術を学ぶように配置し、入学当初から看護への興味を高めるように設定している。さらに、1 年次には、1 年間の学びの統合として「基礎看護学実習Ⅰ」を配置している。2 年次には、治療援助に関わる「基礎看護技術」を学び、看護過程の展開ができるように「看護過程論」と「ヘルスアセスメント」を配置している。看護の基礎に関する学修の統合として、患者を受け持って基礎的な看護技術を実践する「基礎看護学実習Ⅱ」を 2 年次修了前に配置している。</p> <p>看護の展開科目は、成人、老年、小児、母性、精神、地域・在宅看護学領域ごとに、概論の科目を 2 年次前期、各論Ⅰを 2 年次後期、各論Ⅱを 3 年次前期に配置し、各領域における授業を段階的に積み上げながら学修できるように設定している。3 年次前期には、領域別の実習に備えて「チー</p>	<p>③ 専門科目</p> <p>専門科目については、看護の基礎科目として 11 科目、看護の展開科目として 43 科目を配置している。</p> <p>看護の基礎科目は、1 年次に看護学の概要と看護倫理、チーム医療及び生活援助に関する基礎看護技術を学ぶように配置し、入学当初から看護への興味を高めるように設定している。さらに、1 年次には、1 年間の学びの統合として「基礎看護学実習Ⅰ」を配置している。2 年次には、治療援助に関わる「基礎看護技術」を学び、看護過程の展開ができるように「看護過程論」と「ヘルスアセスメント」を配置している。また、治療援助技術の根拠が学べるように看護物理学も配置している。看護の基礎に関する学修の統合として、患者を受け持って基礎的な看護技術を実践する「基礎看護学実習Ⅱ」を 2 年次修了前に配置している。</p> <p>看護の展開科目は、成人、老年、小児、母性、精神、地域・在宅看護学領域ごとに、概論の科目を 2 年次前期、各論Ⅰを 2 年次後期、各論Ⅱを 3 年次前期に配置し、各領域における授業を段階的に積み上げながら学修で</p>

<p>ム医療論」を配置し、実習に結び付けてチーム医療の理解が深まるようにした。</p>	<p>きるように設定している。</p>
---	---------------------

3. 【第一次専門審査意見4の回答について】

アドミッションポリシー(4)に掲げる「看護職にとって重要なコミュニケーション能力」について、「主に面接における『聞く』、『意見をまとめる』、『話す』といったコミュニケーションスキルで得点化」する旨の説明があるが、面接を含まない一般選抜において、学科試験により一定程度測定できると仮定しても、適切に当該能力を測ることができるのか不明確である。このため、一般選抜においてアドミッション・ポリシー(4)に掲げる能力を適切に測定可能であることを明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(対応)

審査意見を受け、一般選抜における入学者選抜の方法、特にアドミッション・ポリシー(4)に掲げる能力を適切に測定する方法について検討した結果、他の全ての入学選抜において面接を実施し、アドミッションポリシーに基づき学力の3要素を総合的に評価することとしていることから、一般選抜における選抜手段について見直しを行い、面接を実施することが適当であると判断した。

この変更に伴い、当初、選抜の方法及び配点を、「学力の3要素(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度)の内、①と②を評価することを主眼に、学科試験(200点)に重点を置いた選抜方法とする。特に③は調査書を主体とした書類審査(50点)により評価する」こととしていたが、「①を評価するために学科試験(200点)を、②を評価するために面接(25点)を、③を評価するために書類審査(25点)を実施する」と改める。

これにより、当初計画していた試験科目・配点の設定を見直し、一般選抜においては、学科試験に重点を置きながら、アドミッション・ポリシー(4)に掲げる能力を面接によって適切に測定・評価する。

各試験の得点設定については、他の入学選抜試験(社会人入学試験を除く。)及び既存学科の一般選抜と同様に、選抜試験全体で、250点満点での評価をすることとした。

一般選抜が学科試験に重点を置く入試であることを鑑み、学科試験に最も比重を置き、200点とする。これに加えて、面接を25点とするとともに、書類審査を25点とする。面接と書類審査については、一般選抜における評価において、既存学科の一般選抜における得点配分が学科試験200点、書類審査50点となっていることから、多面的な評価を行うために同じ比重で判断することが適当であると考えことから、同じ得点配分とした。

この変更に伴い、入学者選抜の評価方法と学力の3要素及びアドミッションポリシーとの関係【資料7】についても修正する。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(30ページ)

新	旧
③ 一般選抜(一般入試・大学入学共通テスト利用入試) オープンキャンパス及び学生募集	③ 一般選抜(一般入試・大学入学共通テスト利用入試) オープンキャンパス及び学生募集

<p>要項等においてアドミッションポリシーを周知徹底し、主として学科試験によって「知識・技能」、を評価し、面接によって「思考力・判断力・表現力」を、書類審査により「主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度」を併せて評価し、総合評価により合否を判定する。</p> <p>ア 一般入試学科試験科目 「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」「国語総合」「数学Ⅰ・A」「化学基礎」「生物基礎」から2科目選択とする（*「化学基礎」と「生物基礎」の組み合わせは不可）。</p> <p>学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）の内、①を評価することを主眼に、学科試験（200点）に重点を置いた選抜方法とする。②を評価するために面接（25点）により評価する。③は調査書を主体とした書類審査（25点）により評価する。</p> <p>イ 大学入学共通テスト利用の入試学科試験科目は 「国語」「数学（Ⅰ or Ⅰ・A）」 「英語」「理科（「物理基礎」・「化学基礎」・「生物基礎」、「物理」、「化学」、「生物」から2科目）から高得点2教科2（3）科目選出の成績により合否を判定する。</p> <p>学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性をもって多様な人々と協働して学</p>	<p>要項等においてアドミッションポリシーを周知徹底し、学科試験によって「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を評価し、書類審査により「主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度」を併せて評価する。</p> <p>ア 一般入試学科試験科目 「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」「国語総合」「数学Ⅰ・A」「化学基礎」「生物基礎」から2科目選択とする（*「化学基礎」と「生物基礎」の組み合わせは不可）。</p> <p>学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度）の内、①と②を評価することを主眼に、学科試験（200点）に重点を置いた選抜方法とする。特に②は記述で解答する設問により評価することとする。③は調査書を主体とした書類審査（50点）により評価する。</p> <p>イ 大学入学共通テスト利用の入試学科試験科目は 「国語」「数学（Ⅰ or Ⅰ・A）」 「英語」「理科（「物理基礎」・「化学基礎」・「生物基礎」、「物理」、「化学」、「生物」から2科目）から高得点2教科2（3）科目選出の成績により合否を判定する。</p> <p>学力の3要素（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性をもって多様な人々と協働して学</p>
--	--

<p>ぶ態度)の内、①を評価することを主眼に、学科試験(200点)に重点を置いた選抜方法とする②を評価するために面接(25点)により評価する。③は調査書を主体とした書類審査(25点)により評価する。</p>	<p>ぶ態度)の内、①と②を評価することを主眼に、大学入学共通テスト(200点)に重点を置いた選抜方法とする。③は調査書を主体とした書類審査(50点)により評価する。</p>
---	---

また、当該修正を受け、「(表)入学試験区分と募集定員、出願要件、選抜方法」(設置の趣旨を記載した書類(30ページ))について、以下のとおり修正する。

入学試験区分	募集定員	出願要件等	選抜方法
<p>総合型選抜 (AO 基礎能力試験 A・専願型)</p>	<p>15</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本学を専願とし、高等学校・中等教育学校を令和4年3月に卒業見込みの者 ・本学が規定する「大学入学資格」を有する者 	<p>総合型選抜事前説明会を受講した者を対象に、1次試験では基礎能力試験・面接・書類審査(調査書・本人が記述した志望理由書・活動報告書等)により、2次試験では課題レポートを審査することにより、2段階選抜を行う。</p> <p>【配点】</p> <p>基礎能力試験 100点 面接 100点 書類審査 50点 課題レポート A~Dの4段階で評価</p>
<p>総合型選抜(AO 基礎能力試験 B・専願型)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜事前説明会を受講した者 	<p>総合型選抜事前説明会を受講した者を対象に、本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、基礎能力試験・面接・書類審査の総合評価により選抜を行う。</p> <p>【配点】</p> <p>基礎能力試験 100点 面接 100点 書類審査 50点</p>

<p>総合型選抜(AO 基礎能力試験 C・ 併願型)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校・中等教育学校を令和4年3月に卒業見込みの者 ・本学が規定する「大学入学資格」を有する者 ・総合型選抜事前説明会を受講した者 	<p>総合型選抜事前説明会を受講した者を対象に、本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、基礎能力試験・面接・書類審査の総合評価により選抜を行う。</p> <p>【配点】</p> <p>基礎能力試験 100点 面接 100点 書類審査 50点</p>
<p>学校推薦型選抜 (指定校推薦入試)</p>	15	<ul style="list-style-type: none"> ・本学を専願とし、高等学校・中等教育学校を令和4年3月に卒業見込みの者 ・学校長の推薦を受けられもの 	<p>本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、小論文・面接・書類審査の総合評価により選抜を行う。</p> <p>【配点】</p> <p>小論文 100点 面接 100点 書類審査 50点</p>
<p>一般選抜 (一般入試)</p>	15	<p>本学が規定する「大学入学資格」を有する者</p>	<p>調査書・本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、学科試験(コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ、国語総合、数学ⅠA、化学基礎、生物基礎から2科目選択 *化学基礎と生物基礎の組み合わせは不可)と面接及び書類審査の総合評価により選抜を行う。</p> <p>【配点】</p> <p>学科試験 100点×2 面接 25点 書類審査 25点</p>
<p>一般選抜 (大学入学共通テスト利用入試)</p>	5		<p>調査書・本人が記述した志望理由書・活動報告書等を参考にして、大学入学共通テスト 英・国・数(Ⅰ or ⅠA)・理(物基・化基・生基・物・化・生から2科目)から高得点2教科2(3)科目選出の成績と面接及び書類審査の総合評価により選抜</p>

			を行う。 【配点】 学力試験 100点×2 ＊全ての科目を100点に換算する。 面接 25点 書類審査 25点
社会人入学試験	若干	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年4月2日時点で満20歳に達しており、本学が規定する「大学入学資格」を有する者 ・概ね2年以上の就業経験があること(主婦・家事従事者・アルバイト等を含む) 	小論文・面接の総合評価により選抜を行う。 【配点】 小論文 100点 面接 100点

6. 【第一次専門審査意見7の回答について】

各実習科目や「看護研究Ⅱ」の成績評価に用いる「評価表(案)」を資料として添付している旨記載があるが、当該資料が添付されていないため、その妥当性が判断できず、該当科目における成績評価が適切になされるかが不明確である。「評価表(案)」を提示した上で、具体的な評価方法等について改めて明確に説明すること。

(対応)

評価表(案)を資料として添付する。また、具体的な評価の方法については、シラバスに記載する。

評価表(案)の作成に当たっては、各授業科目の到達目標を踏まえ、配当年次、授業計画などを考慮し、適切な評価基準となるよう配慮すると共に、客観的評価が行えるよう具体的な評価基準と得点化を図った。

当該評価表については、本審査意見への対応を記載した書類(9月)の【資料8】として添付すると共に設置の趣旨を記載した書類について、以下のとおり改め、評価表を【資料 4-1】として添付する。また、資料の追加に伴い、資料番号の修正を行う。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(11 ページ)

新	旧
成績評価にあたっては、科目ごとに到達目標と成績評価基準をシラバスに明示し、定期試験、課題レポート、実技試験など、評価の割合も示して、公正さと透明性を確保する。 なお、看護研究Ⅱ及び学外で実施する実習科目については、科目の特性を踏まえ評価表を作成し、指導を担当した教員が評価表に基づき評価を行う。科目の責任者は評価表を精査し、指導教員と意見を調整して、単位認定を行う。 【資料 4-1】評価表	成績評価にあたっては、科目ごとに到達目標と成績評価基準をシラバスに明示し、定期試験、課題レポート、実技試験など、評価の割合も示して、公正さと透明性を確保する。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(14 ページ)

新	旧
本学科のカリキュラム構成とディプロマポリシーとの関連については、履修系統図(カリキュラムマッ	本学科のカリキュラム構成とディプロマポリシーとの関連については、履修系統図(カリキュラムマッ

<p>プ) 【資料 4-2】 のとおりであり、 本学のディプロマポリシーに沿って 各学年にバランスよく配置されてい る。 【資料 4-2】履修系統図(カリキュラムマッ プ)</p>	<p>プ) 【資料 4】 のとおりであり、本学 のディプロマポリシーに沿って各学 年にバランスよく配置されている。 【資料 4】履修系統図(カリキュラムマップ)</p>
--	---

(改善事項)和歌山保健医療学部 看護学科

1.【第一次専門審査意見1の回答について】

3つのポリシーの中に「看護師」や「看護専門職」など、同趣旨だが異なる記載が散見されるため、表記を統一すること。

(対応)

設置の趣旨等を記載した書類の「看護専門職」を「看護師」に修正し表記の統一を行う。

修正点は以下のとおりである。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(10ページ)

新	旧
<p>(1)幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成</p> <p>看護学の基本的な知識を理解するためには、その知識の意味を人文科学、社会科学、自然科学および多文化・異文化に関する知識と関連付けて理解することが必要となる。看護の対象である人や人が置かれている社会環境について理解するために、「心理学」「日本国憲法」「社会福祉学」を、医療との関連も深く現代の社会における教養として求められている「統計学」「情報処理演習Ⅰ」を、医療に必要な「コミュニケーション演習」「医学英語Ⅰ」を、学生の健康作りのために「体育実技Ⅰ」の科目を必修として設置している。医療人としての幅広い教養を養い、豊かな人間性を育成する観点から、学部共通科目として、その他にも、「哲学」「文化人類学」「生物学」など、人文・社会・自然の分野から選択できるように一般教育科目を配置している。また、看護師として必要な倫理観や道徳心を初年度から育成するため、1年次に「看護倫理学」を必修として配置した。1年次には「基礎ゼミナール」「看護学概論」「基礎看護学実習Ⅰ」においても、倫理観や道徳心を涵養する。1年次に倫理観をしっかりと養っておくことによって、2年次以降の専門科目の演習・実習を通して倫理観や道徳心を深められるよう教育を行う。</p>	<p>(1)幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成</p> <p>看護学の基本的な知識を理解するためには、その知識の意味を人文科学、社会科学、自然科学および多文化・異文化に関する知識と関連付けて理解することが必要となる。看護の対象である人や人が置かれている社会環境について理解するために、「心理学」「日本国憲法」「社会福祉学」を、医療との関連も深く現代の社会における教養として求められている「統計学」「情報処理演習Ⅰ」を、医療に必要な「コミュニケーション演習」「医学英語Ⅰ」を、学生の健康作りのために「体育実技Ⅰ」の科目を必修として設置している。医療人としての幅広い教養を養い、豊かな人間性を育成する観点から、学部共通科目として、その他にも、「哲学」「文化人類学」「生物学」など、人文・社会・自然の分野から選択できるように一般教育科目を配置している。また、看護専門職として必要な倫理観や道徳心を初年度から育成するため、1年次に「看護倫理学」を必修として配置した。1年次には「基礎ゼミナール」「看護学概論」「基礎看護学実習Ⅰ」においても、倫理観や道徳心を涵養する。1年次に倫理観をしっかりと養っておくことによって、2年次以降の専門科目の演習・実習を通して倫理観や道徳心を深められるよう教育を行う。</p>

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(10ページ)

新	旧
<p>(2)質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成 (省略)</p> <p>「看護の基礎科目」である「看護学概論」「基礎看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護過程論」「ヘルスアセスメント」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」においては、看護師として必要な科学的知識と技術・態度について、実践に向けて必要な基礎的な内容を修得する。</p>	<p>(2)質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成 (省略)</p> <p>「看護の基礎科目」である「看護学概論」「基礎看護技術学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「看護過程論」「ヘルスアセスメント」「基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ」においては、看護専門職として必要な科学的知識と技術・態度について、実践に向けて必要な基礎的な内容を修得する。</p>

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(11ページ)

新	旧
<p>4-2 カリキュラムの構成</p> <p>4-2-1 科目群の構成</p> <p>学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために学部共通科目、専門基礎科目、専門科目の3区分に授業科目を配置し、各学年(年次)に体系的に配置する。</p> <p>学部共通科目は、地域への理解、幅広い教養と医療人として必要な高い倫理観・道徳心を身につけることを目的とした科目で構成され、主に1年次から2年次において開講する。専門基礎科目では、看護師として必要な人体構造・機能、疾病論、保健・福祉・情報関係の基礎を学び、看護の基礎となる内容を身につけることを目的として配置する。専門科目は、看護学の専門領域の知識及び技術を身につけることを目的に看護学の理論と実践を学ぶとともに、科学的根拠に基づき、課題を発見し、解決策を見いだす能力を養う。</p> <p>カリキュラム全体をとおして看護師にふさわしい人間性と倫理観を持ち、社会の要請に応えられる社会人を育成する。</p>	<p>4-2 カリキュラムの構成</p> <p>学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために学部共通科目、専門基礎科目、専門科目の3区分に授業科目を配置し、各学年(年次)に体系的に配置する。</p> <p>学部共通科目は、地域への理解、幅広い教養と医療人として必要な高い倫理観・道徳心を身につけることを目的とした科目で構成され、主に1年次から2年次において開講する。専門基礎科目では、看護専門職として必要な人体構造・機能、疾病論、保健・福祉・情報関係の基礎を学び、看護の基礎となる内容を身につけることを目的として配置する。専門科目は、看護学の専門領域の知識及び技術を身につけることを目的に看護学の理論と実践を学ぶとともに、科学的根拠に基づき、課題を発見し、解決策を見いだす能力を養う。</p> <p>カリキュラム全体をとおして看護専門職にふさわしい人間性と倫理観を持ち、社会の要請に応えられる社会人を育成する。</p>

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(16 ページ)

新	旧
<p>(3)配当年次について</p> <p>① 学部共通科目</p> <p>学部共通科目は、30 科目中 22 科目を 1 年次に配置し、高大接続に配慮しながら幅広い教養を身につける。2 年次以降に配置する授業科目は 1 年次での学修を基礎として発展させた内容の授業科目を配置している。「基礎ゼミナール」は、大学生としての学修方法を知り、将来の看護師を目指す者としての学修意欲を高められるように、入学当初に必修として設定している。</p>	<p>(3)配当年次について</p> <p>① 学部共通科目</p> <p>学部共通科目は、30 科目中 22 科目を 1 年次に配置し、高大接続に配慮しながら幅広い教養を身につける。2 年次以降に配置する授業科目は 1 年次での学修を基礎として発展させた内容の授業科目を配置している。「基礎ゼミナール」は、大学生としての学修方法を知り、将来の看護専門職を目指す者としての学修意欲を高められるように、入学当初に必修として設定している。</p>

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(20ページ)

新	旧
<p>② 目標</p> <p>ア 他者に対する道徳心を持ち、看護師として高い倫理観を身につける。</p> <p>イ 学修した看護学の知識・技術・態度を統合し、看護を実践する能力を養う。</p> <p>ウ 学修した看護学の知識・技術をもとに、論理的判断に基づいて看護実践ができる能力を養う。</p>	<p>② 目標</p> <p>ア 他者に対する道徳心を持ち、看護専門職として高い倫理観を身につける。</p> <p>イ 学修した看護学の知識・技術・態度を統合し、看護を実践する能力を養う。</p> <p>ウ 学修した看護学の知識・技術をもとに、論理的判断に基づいて看護実践ができる能力を養う。</p>

4. 【第一次専門審査意見4の回答について】

アドミッション・ポリシーに掲げる「コミュニケーション能力」と、本学部の教育課程の履修により涵養(かんよう)する「コミュニケーション能力」との差異が判然としないことから、異なる用語を用いるなど、学内外に対して誤解が生じないように適切に改めることが望ましい。

(対応)

第一次専門審査意見4において、アドミッション・ポリシーに「看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人」が掲げられている一方で、教育課程にも基礎的なコミュニケーションを学ぶ科目が配置されており、入学者選抜段階でコミュニケーション能力を担保した上で、入学後に改めて当該能力の涵養(かんよう)を目的とした科目が配置されていることの趣旨が判然としない。このため、審査意見1への対応を踏まえ、コミュニケーション能力に係る教育について、アドミッション・ポリシーや入学者選抜との関係を明らかにした上で、その妥当性を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。」との意見があった。

これに対して、審査意見に対応した書類(6月)において回答したが、「コミュニケーション能力」についてアドミッションポリシーに掲げる「コミュニケーション能力」と学科の教育課程の履修により涵養する「コミュニケーション能力」の差異について、明確になっていなかった。

そこで、審査意見に対応して以下のとおり修正する。

アドミッションポリシー「看護職にとって重要なコミュニケーション能力を持っている人」を「看護職にとって重要なコミュニケーション能力の基礎となる素養を持っている人」に改める。もともと、アドミッションポリシーにおいては看護職に必要なコミュニケーション能力を入学後身に付けていくために、その基礎となる素養があるかを問うていたのであるが、誤解をまねく表現であったため、記述を改める。

これに伴い、宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・人材養成像・3つのポリシー【資料9】、宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・3つのポリシー関連図【資料10】、入学者選抜の評価方法と学力の3要素及びアドミッションポリシーとの関係【資料7】について修正する。

5.【第一次専門審査意見5の回答について】

シラバスについて、以下の点を踏まえて、シラバス全体を網羅的に点検した上で、適切な記載に改めること。

(1) 授業科目とディプロマ・ポリシーとの関連に係る記載が新たに追加されたが、例えば「基礎ゼミナール」では、当該授業科目と関連があるとされるディプロマ・ポリシー(2)に関わる授業内容が存在しないと見受けられる。また、その授業内容から、複数のディプロマ・ポリシーと関連すると見受けられる授業科目においても、1つのディプロマ・ポリシーしか記載されていないなど、ディプロマ・ポリシーとの関連が必ずしも整合したものとは判断できない。

(2) 「担当教員」欄について、「看護研究Ⅱ」など、担当する教員の氏名が適切に記載されていないものが見受けられる。また、「全准教授」や「全講師」等の記載は、学生に分かりにくく、教員組織に変更が生じた際に齟齬が生じることが懸念される。

(対応)

改善意見を踏まえて、シラバス全体を網羅的に点検した上で以下のとおり、適切な記載に改める。

- (1) 「基礎ゼミナール」のシラバスを修正すると共に、全てのシラバスについて見直しを行い、シラバスの記載内容とディプロマポリシーとの記載の整合を図る。
- (2) 担当教員欄については、各授業を担当する全ての教員名を記載する。

7.【第一次専門審査意見10の回答について】

「開設後から計画的な若手教員の昇任・公募・採用活動を行う。」という記載があるが、例えば、どの職位区分・分野の教員の昇任や公募を、どのようなスケジュールで行うことを想定しているのかなど、具体的な計画内容が必ずしも明らかではないため、本学部で実施する教育研究の継続性を踏まえ、将来構想をより具体的に説明すること。

(対応)

本学の定年は満65歳である。ただし「宝塚医療大学教員の定年の特例に関する申合せ」に基づき、新たに学部、学科を設置する場合は定年年齢を75歳までの任意の年齢とすることができることとしている。

就任時に65歳を超えている教員と5名と、完成年度までに65歳を超える教員1名とを合わせて6名が当該申し合わせの対象となり、個別に雇用契約を締結する。

完成年度である令和7年度開始時点で当該申し合わせによる定年年齢である75歳となる教員が1名いる他は75歳を下回っているため、少なくとも完成年度までは教員組織は担保出来る計画である。

一方で、教員の定年に伴い、学内昇任及び公募等による新規採用については、教員と連携して教育研究ができるよう、開設後から専門領域の職位及び年齢構成の適正化、教育研究の継続性の維持を図る。

(新旧対照表)設置の趣旨を記載した書類(33 ページ)

新	旧
<p>完成年度と同時に退職する教員の後任については、計画的に公募等を行い教員の補充を行う。教員の補充は、各専門領域における退職予定者の人数に合わせて必要な職位に関する公募等による採用計画を立て、令和7(2025)年度から公募等を実施すると共に、内部での教員の昇任を推進する。内部での昇任が出来ない場合は、必要に応じて適切な職位の教員を公募等により採用することとする。こうした取組をとおして教育が継続して実施できるように配慮する。また、現任教員が昇格できるように、研究資金や研究時間の確保を行う。学位の取得を目指す教員へは、学位取得のためのサポートを行う。退職する教員から業務が継承され、教育研究の質が下がることのないように、先を見越した支援を計画的に実施する。</p>	<p>完成年度と同時に退職する教員の後任については、計画的に公募等を行い教員の補充を行う。</p> <p>教育が継続して実施できるように、計画的に採用を行う。また、現任教員が昇格できるように、研究資金や研究時間の確保を行う。学位の取得を目指す教員へは、学位取得のためのサポートを行う。退職する教員から業務が継承され、教育研究の質が下がることのないように、先を見越した支援を計画的に実施する。</p>

具体的には、以下の計画に沿って行う。

(1) 基礎看護学分野

教授1名が令和7年(2025)年度に65歳を超えるため、令和7(2025)年度から公募等により教授1名を採用予定である。

また、講師1名が大学院後期課程に在籍中であることから、学位の取得を推進すると共に、令和8年度に准教授への昇任ができるよう支援する。

講師の昇任に伴う後任として講師または助教を公募等により採用予定である。

(2) 老年看護学分野

教授 1 名と准教授 1 名が就任時に 65 歳を超えていることから、令和7(2025)年度から公募等により教授 1 名を採用予定である。

准教授 1 名の後任として、講師 1 名が大学院後期課程に在籍中であることから、学位の取得を推進すると共に、令和 8 年度に准教授への昇任ができるよう支援する。

講師の昇任に伴う後任として講師または助教を公募等により採用予定である。

(3) 小児看護学分野

教授 1 名が就任時に 65 歳を超えていることから、令和7(2025)年度から公募等により教授 1 名を採用予定である。

講師 1 名が大学院後期課程に在籍中であることから、学位の取得を推進すると共に、令和 8 年度に准教授への昇任ができるよう支援する。

講師の昇任に伴う後任として講師または助教を公募等により採用予定である。

(4) 精神看護学分野

教授 2 名が就任時に 65 歳を超えていることから、令和7(2025)年度から公募等により教授 2 名を採用予定である。

助教 1 名が大学院後期課程に在籍中であることから、学位の取得を推進すると共に、令和 8 年度に講師への昇任ができるよう支援する。

助教の承認に伴う後任として、助教または助手を公募等により採用予定である。

(5) 助手の継続的な採用及び昇任の支援

開設年次から、助手の積極的な学位の取得を支援すると共に、教授による教育研究活動への助言、指導を行う。これらをとおして助教への昇任が出来るよう支援する。合わせて昇任する助手の後任者についても公募等による採用を行い、教員組織の若返りと継続性を担保する。

上記(1)～(5)の取組みを実施した結果、在職中の教員の昇進が見込まれない事態となった場合は、各分野において定年で退職する教員の後任者として、退職者と同じ職種に就任可能な者を公募等により採用する計画である。

なお、教員の選考及び昇任に当たっては、宝塚医療大学教員選考規程に基づき教員選考委員会を設置し、当該委員会において協議し、学長に報告する。

選考委員会は、学科長の推薦のもとに学長が指名する3名以上の教授をもって構成し、学長が指名する副学長がその委員長となることとしていることから看護学科の教授を中心に委員会を設置する計画である。

審査意見への対応を記載した書類（9月）別添資料 目次

- 資料1 教育課程の概要
- 資料2 シラバス
- 資料3 指定規則との対比表
- 資料4 履修モデル
- 資料5 履修系統図（カリキュラムマップ）
- 資料6 時間割案
- 資料7 入学者選抜の評価方法と学力の3要素及びアドミッションポリシーとの関係
- 資料8 評価表
- 資料9 学科教育理念・人材養成像・3つのポリシー
- 資料10 学科教育理念・3ポリシー関連図

【資料1】

別記様式第2号（その2の1）

（用紙 日本産業規格A4縦型）

教育課程等の概要																	
(和歌山保健医療学部看護学科)																	
科目区分	授業科目の名称			単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手	
学部共通科目	一般教育科目	人文	哲学	1前		2		○							兼1		
			東洋思想論	1前		2		○							兼1		
			日本の文化	1後		2		○							兼1	メディア	
			文化人類学	1後		2		○							兼1	メディア	
		社会	日本国憲法	1前	2			○								兼1	メディア
			社会と法	1後		2		○								兼1	メディア
			社会福祉学	1前	2			○								兼1	メディア
			わかやま未来学	1後		2		○								兼1	メディア
			自然	統計学	1前	2			○								兼1
				数学	1前		2		○								兼1
	物理学	1後			2		○								兼1		
	化学	1前			2		○								兼1		
	生物学	1後			1		○								兼1		
	外国語科目	英語		1前	1			○								兼1	
	医学英語Ⅰ	1後	1			○								兼1			
	医学英語Ⅱ	2後		1		○								兼1	メディア		
	英会話	1後		1		○								兼1	メディア		
	処情報	情報処理演習Ⅰ	1前	1				○							兼1	メディア	
		情報処理演習Ⅱ	1後		1			○							兼1	メディア	
	スポーツ・健康	健康と体力づくり	2前		2		○								兼1	メディア	
		スポーツトレーニング学	3前		2		○								兼1	メディア	
		健康トレーニング演習	2後		1			○							兼1		
		体育実技Ⅰ	1後	1					○						兼1		
	総合教養科目	体育実技Ⅱ	2前		1					○					兼1		
		コミュニケーション演習	1後	1					○						兼1		
		心理学	2後	2			○								兼1	メディア	
		医療経営学	4後		2		○								兼1	メディア	
		メディカルツアーズ論	2前		2		○								兼1		
		伝統医療論	1後		2		○								兼1		
	基礎ゼミナール	1前	1				○			2	1	1	1		共同		
小計（30科目）			—	14	34	0	—			2	1	1	1	0	15		
専門基礎科目	人体と機能および疾病と回復	解剖学Ⅰ	1前	1			○								兼1		
		解剖学Ⅱ	1後	1			○								兼1		
		生理学	1後	1			○								兼1		
		生化学	1後	1			○								兼1		
		臨床栄養学	1後	1			○				1				兼1		
		薬理学	1後	1			○								兼1		
		病理学	1後	1			○								兼1		
		微生物学	1後	1			○								兼1		
		看護物理学	2後		1		○								兼1		
		病態生理・治療学Ⅰ（成人急性期）	2前	2			○								兼1		
		病態生理・治療学Ⅱ（成人慢性期）	2前	2			○								兼1		

教育課程等の概要

(和歌山保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康支援と制度	病態生理・治療学Ⅲ(老年)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅳ(小児)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅴ(母性)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅵ(精神)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅶ(リハビリテーション)	2後	1			○									兼1
	公衆衛生学	3前	1			○									兼1
	疫学	3前	1			○									兼1
	関係法規	1後	1			○									兼1
	社会保障制度	2前	2			○			1			1			兼1 オムニバス
	医療情報学	1後	1			○									兼1
	人間関係論	1前		1		○			1						兼1
カウンセリング論(赤星)	3前	1			○			1						兼1	
小計(23科目)	—	24	2	0	—	—	—	2	0	0	1	0	15		
看護の基礎科目	看護学概論	1前	2			○			1						
	基礎看護技術学Ⅰ	1前	2				○		1		1	1	3		共同
	基礎看護技術学Ⅱ	1後	2				○		1		1	1	3		共同
	基礎看護技術学Ⅲ	2前	2				○		1		1	1	3		共同
	基礎看護技術学Ⅳ	2後	1				○		1		1	1	3		共同
	看護過程論	2後	1				○		1		1	1	3		共同
	ヘルスアセスメント	2前	1				○		1						
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1					○	1		6	4	3		共同
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2					○	1		6	4	3		共同
	チーム医療論	3前	1				○		1						
	看護倫理学	1後	1				○		1						
小計(11科目)	—	16	0	0	—	—	—	2	0	6	4	3	0		
専門科目 看護の展開科目	成人看護学概論	2前	2			○			1						
	成人看護学各論ⅠA(急性期:周手術期)	2後	1				○		1		1				共同
	成人看護学各論ⅠB(急性期:救急看護・クリティカルケア)	3前	1				○		1		1				共同
	成人看護学各論Ⅱ(慢性期)	2後	1				○		1						
	リハビリテーション看護学	3前	1				○		1	1					オムニバス
	高齢者看護学概論	2前	2				○			2					オムニバス
	高齢者看護学各論Ⅰ	2後	1				○			1	2	1			共同
	高齢者看護学各論Ⅱ	3前	1				○			1	2	1			共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅰ(急性期)	3後・4前	2					○	1		1		1		共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅱ(慢性期)	3後・4前	2					○			1		2		共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅲ(リハビリ期)	3後・4前	2					○		1	1	2			共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅳ(生活支援)	3後・4前	2					○		1	1	2	3		共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅴ(地域連携)	3後・4前	1					○		1	1	1	3		共同
	小児看護学概論	2前	2				○			1					
	小児看護学各論Ⅰ	2後	1					○		1		1			共同
	小児看護学各論Ⅱ	3前	1					○		1		1			共同
小児看護学実習	3後・4前	2					○		1		1			共同	
母性看護学概論	2前	2				○			1						

教育課程等の概要

(和歌山保健医療学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	母性看護学各論Ⅰ	2後	1				○		1	2					共同
	母性看護学各論Ⅱ	3前	1				○		1	2					共同
	母性看護学実習	3後・4前	2					○	1	2					共同
	精神看護学概論	2前	2			○			1						
	精神看護学各論Ⅰ	2後	1				○		1			1			共同
	精神看護学各論Ⅱ	3前	1				○		1			1			共同
	精神看護学実習	3後・4前	2					○	1			1			共同
	地域・在宅看護学概論	2前	2			○			1						
	地域・在宅看護学各論Ⅰ	2後	2			○			1		1				オムニバス
	地域・在宅看護学各論Ⅱ	3前	2				○		1		1				共同
	地域・在宅看護学実習	3後・4前	2					○	1		1	2	3		共同
	緩和ケア	4後		1		○			1		1				オムニバス
	災害看護論	4後	1			○				1				兼1	オムニバス
	看護管理学	4前	1			○			1						
	感染看護学	2後	1			○			1						
	看護教育学	4後		1		○			1		1				オムニバス
	看護理論と実践	3前		1		○			2	1					オムニバス
	地域精神保健学	4後		1		○			1			1			オムニバス
	国際看護論	4後		1		○								兼1	
	看護の統合Ⅰ（演習）	4前	2				○		8	3	6	4	3		共同
	看護の統合Ⅱ（演習）	4後	2				○		8	3	6	4	3		共同
	看護の統合Ⅰ（実習）	4前	1					○	1		6	3	3		共同
	看護の統合Ⅱ（実習）	4前	2					○	8	3	6	4	3		共同
	看護研究Ⅰ	4前	2			○			3	1					オムニバス
	看護研究Ⅱ	4後	2				○		8	3	6	3			共同
	小計（43科目）	—	59	5	0	—	—	—	8	3	6	4	3	2	
	合計（107科目）	—	113	41	0	—	—	—	8	3	6	4	3	29	
	学位又は称号		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
	卒業要件及び履修方法						授業期間等								
必修科目として、学部共通科目から14単位、専門基礎科目から24単位、専門科目から75単位、合計113単位を修得し、全ての選択科目から12単位以上（専門科目から2単位以上）を修得し、合計125単位以上を修得すること。 履修登録の上限は、各学期（セメスター）の上限を24単位とし、年間の履修登録の上限は、48単位とする。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要

（和歌山保健医療学部看護学科）

中之島校舎

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学部共通科目	一般教育科目	哲学	1前	2		○									兼1	
		人文	東洋思想論	1前	2		○								兼1	
		日本の文化	1後	2		○									兼1	
		文化人類学	1後	2		○									兼1	
		社会	日本国憲法	1前	2		○									兼1
		社会と法	1後	2		○										兼1
		社会福祉学	1前	2		○										兼1
		わかやま未来学	1後	2		○										兼1
		自然	統計学	1前	2		○									兼1
	数学	1前	2		○										兼1	
	物理学	1後	2		○										兼1	
	化学	1前	2		○										兼1	
	生物学	1後	1		○										兼1	
	外国語科目	英語	1前	1		○									兼1	
	医学英語Ⅰ	1後	1		○										兼1	
	医学英語Ⅱ	2後	1		○										兼1	
	英会話	1後	1		○										兼1	
	処情報	情報処理演習Ⅰ	1前	1			○								兼1	
	情報処理演習Ⅱ	1後	1				○								兼1	
	スポーツ・健康	健康と体力づくり	2前	2		○									兼1	
	スポーツトレーニング学	3前	2		○										兼1	
	健康トレーニング演習	2後	1			○									兼1	
	体育実技Ⅰ	1後	1					○							兼1	
	体育実技Ⅱ	2前	1						○						兼1	
	総合教養科目	コミュニケーション演習	1後	1				○							兼1	
	心理学	2後	2			○									兼1	
	医療経営学	4後	2			○									兼1	
	メディカルツアーズ論	2前	2			○									兼1	
	伝統医療論	1後	2			○									兼1	
	小計（29科目）	—	13	34	0		—		0	0	0	0	0	15		
専門基礎科目	人体と機能および疾病と回復	解剖学Ⅰ	1前	1			○								兼1	
		解剖学Ⅱ	1後	1			○								兼1	
		生理学	1後	1			○								兼1	
		生化学	1後	1			○								兼1	
		薬理学	1後	1			○								兼1	
		病理学	1後	1			○								兼1	
		微生物学	1後	1			○								兼1	
		看護物理学	2後		1			○							兼1	
		病態生理・治療学Ⅰ（成人急性期）	2前	2			○								兼1	
		病態生理・治療学Ⅱ（成人慢性期）	2前	2			○								兼1	
		病態生理・治療学Ⅲ（老年）	2後	1			○								兼1	
		病態生理・治療学Ⅳ（小児）	2後	1			○								兼1	

教育課程等の概要

(和歌山保健医療学部看護学科)

中之島校舎

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
健康支援と制度	病態生理・治療学Ⅴ(母性)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅵ(精神)	2後	1			○									兼1
	病態生理・治療学Ⅶ(リハビリテーション)	2後	1			○									兼1
	公衆衛生学	3前	1			○									兼1
	疫学	3前	1			○									兼1
	関係法規	1後	1			○									兼1
	医療情報学	1後	1			○									兼1
	小計(19科目)	—	20	1	0	—			0	0	0	0	0	0	14
合計(48科目)		—	33	35	0	—			0	0	0	0	0	29	
学位又は称号			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
必修科目として、学部共通科目から14単位、専門基礎科目から24単位、専門科目から75単位、合計113単位を修得し、全ての選択科目から12単位以上(専門科目から2単位以上)を修得し、合計125単位以上を修得すること。 履修登録の上限は、各学期(セメスター)の上限を24単位とし、年間の履修登録の上限は、48単位とする。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要															
(和歌山保健医療学部看護学科)														西庄校舎	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	総合教養 基礎ゼミナール	1前	1					○			2	1	1	1	共同
	小計（1科目）	—	1	0	0			—			2	1	1	1	0
専門基礎科目	人体と機能および疾病と回復 臨床栄養学	1後	1					○			1				
	健康支援と 社会保障制度	2前	2					○			1		1	兼オムニバス	
	人間関係論	1前		1				○			1				
	カウンセリング論	3前	1					○			1				
	小計（4科目）	—	4	1	0			—			2	0	0	1	0
看護の基礎科目	看護学概論	1前	2					○			1				
	基礎看護技術学Ⅰ	1前	2					○			1	1	1	3	共同
	基礎看護技術学Ⅱ	1後	2					○			1	1	1	3	共同
	基礎看護技術学Ⅲ	2前	2					○			1	1	1	3	共同
	基礎看護技術学Ⅳ	2後	1					○			1	1	1	3	共同
	看護過程論	2後	1					○			1	1	1	3	共同
	ヘルスアセスメント	2前	1					○			1				
	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1						○		1	6	4	3	共同
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2						○		1	6	4	3	共同
	チーム医療論	3前	1					○			1				
	看護倫理学	1後	1					○			1				
小計（11科目）	—	16	0	0			—			1	0	6	4	3	0
専門科目	成人看護学概論	2前	2					○			1				オムニバス
	成人看護学各論ⅠA（急性期：周手術期）	2後	1					○			1	1			共同
	成人看護学各論ⅠB（急性期：救急看護・クリティカルケア）	3前	1					○			1	1			共同
	成人看護学各論Ⅱ（慢性期）	2後	1					○			1				
	リハビリテーション看護学	3前	1					○			1	1			オムニバス
	高齢者看護学概論	2前	2					○				2			オムニバス
	高齢者看護学各論Ⅰ	2後	1					○			1	2	1		共同
	高齢者看護学各論Ⅱ	3前	1					○			1	2	1		共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅰ（急性期）	3後・4前	2						○		1	1		1	共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期）	3後・4前	2						○			1		2	
	成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリ期）	3後・4前	2						○		1	1	2		共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援）	3後・4前	2						○		1	1	2	3	共同
	成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携）	3後・4前	1						○		1	1		3	共同
	小児看護学概論	2前	2					○			1				
小児看護学各論Ⅰ	2後	1					○			1	1			共同	
小児看護学各論Ⅱ	3前	1					○			1	1			共同	

教育課程等の概要

(和歌山保健医療学部看護学科)

西庄校舎

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	小児看護学実習	3後・4前	2					○	1		1				共同
	母性看護学概論	2前	2			○			1						共同
	母性看護学各論Ⅰ	2後	1				○		1	2					共同
	母性看護学各論Ⅱ	3前	1				○		1	2					共同
	母性看護学実習	3後・4前	2					○	1	2					共同
	精神看護学概論	2前	2			○			1						共同
	精神看護学各論Ⅰ	2後	1				○		1		1				共同
	精神看護学各論Ⅱ	3前	1				○		1		1				共同
	精神看護学実習	3後・4前	2					○	1		1				共同
	地域・在宅看護学概論	2前	2			○			1						オムニバス
	地域・在宅看護学各論Ⅰ	2後	2			○			1	1					共同
	地域・在宅看護学各論Ⅱ	3前	2				○		1	1					共同
	地域・在宅看護学実習	3後・4前	2					○	1	1	2	3			共同
	緩和ケア	4後		1		○			1	1					オムニバス
	災害看護論	4後	1			○				1				兼1	オムニバス
	看護管理学	4前	1			○			1						
	感染看護学	2後	1			○			1						
	看護教育学	4後		1		○			1		1				オムニバス
	看護理論と実践	3前		1		○			2	1					オムニバス
	地域精神保健学	4後		1		○			1			1			オムニバス
	国際看護論	4後		1		○								兼1	
	看護の統合Ⅰ（演習）	4前	2				○		8	3	6	4	3		共同
	看護の統合Ⅱ（演習）	4後	2				○		8	3	6	4	3		共同
	看護の統合Ⅰ（実習）	4前	1					○	1		6	3	3		共同
	看護の統合Ⅱ（実習）	4前	2					○	8	3	6	4	3		共同
	看護研究Ⅰ	4前	2			○			2	1					オムニバス
	看護研究Ⅱ	4後	2				○		8	3	6	4			共同
	小計（45科目）	—	59	5	0	—	—	—	8	3	6	4	3	2	
	合計（107科目）	—	80	6	0	—	—	—	8	3	6	4	3	3	
	学位又は称号		学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係）									
	卒業要件及び履修方法						授業期間等								
必修科目として、学部共通科目から14単位、専門基礎科目から24単位、専門科目から75単位、合計113単位を修得し、全ての選択科目から12単位以上（専門科目から2単位以上）を修得し、合計125単位以上を修得すること。 履修登録の上限は、各学期（セメスター）の上限を24単位とし、年間の履修登録の上限は、48単位とする。						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

シラバス目次

1.	基礎ゼミナール	3
2.	臨床栄養学	7
3.	社会保障制度	10
4.	人間関係論	14
5.	カウンセリング論	16
6.	看護学概論	19
7.	基礎看護技術学Ⅰ	22
8.	基礎看護技術学Ⅱ	27
9.	基礎看護技術学Ⅲ	32
10.	基礎看護技術学Ⅳ	37
11.	看護過程論	41
12.	ヘルスアセスメント	46
13.	基礎看護学実習Ⅰ	50
14.	基礎看護学実習Ⅱ	52
15.	チーム医療論	56
16.	看護倫理学	59
17.	成人看護学概論	62
18.	成人看護学各論ⅠA（急性期：周手術期）	66
19.	成人看護学各論ⅠB（急性期：救急看護・クリティカルケア）	70
20.	成人看護学各論Ⅱ（慢性期）	74
21.	リハビリテーション看護学	79
22.	高齢者看護学概論	83
23.	高齢者看護学各論Ⅰ	87
24.	高齢者看護学各論Ⅱ	91
25.	成人・高齢者看護学実習Ⅰ（急性期）	95
26.	成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期）	99
27.	成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリ期）	103
28.	成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援）	107
29.	成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携）	111
30.	小児看護学概論	114
31.	小児看護学各論Ⅰ	118

32.	小児看護学各論Ⅱ	123
33.	小児看護学実習	127
34.	母性看護学概論	130
35.	母性看護学各論Ⅰ	134
36.	母性看護学各論Ⅱ	139
37.	母性看護学実習	143
38.	精神看護学概論	147
39.	精神看護学各論Ⅰ	151
40.	精神看護学各論Ⅱ	156
41.	精神看護学実習	160
42.	地域・在宅看護学概論	164
43.	地域・在宅看護学各論Ⅰ	168
44.	地域・在宅看護学各論Ⅱ	173
45.	地域・在宅看護学実習	177
46.	緩和ケア	180
47.	災害看護論	183
48.	看護管理学	186
49.	感染看護学	189
50.	看護教育学	192
51.	看護理論と実践	195
52.	地域精神保健学	198
53.	看護の統合Ⅰ（演習）	201
54.	看護の統合Ⅱ（演習）	206
55.	看護の統合Ⅰ（実習）	211
56.	看護の統合Ⅱ（実習）	213
57.	看護研究Ⅰ	216
58.	看護研究Ⅱ	220

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎ゼミナール		
講義開講時期	前期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	關戸啓子、堤かおり、高田美子、 那須さとみ、大内由梨			授業形態	演習

到達目標

1. 大学における学習方法やライフスタイルについて述べられる。
2. 自己評価を行い、自分の課題と改善方法について述べられる。
3. 看護を目指す学生として倫理観を身に付ける。
4. 看護を目指す学生として将来展望をもつ。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「◎ (1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。」 「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」 「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」が達成できるように、4年間に渡る学習への導入教育として、基本的な倫理観の育成、主体的な目標を持った学習方法を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

大学で学ぶための基礎及び学習内容について、課題の理解、調査、レポート作成、文献検索、過去の歴史的転換点となった論文抄読などを通して、大学で学ぶための学習方法や知識、ライフスタイルに気づかせる。それと同時に、総合的に自分の考えをまとめ、伝える能力を培う。そして、国際および情報社会に対応できる基本的な能力について、自己評価し、自分に必要なことを踏まえて、様々な問題や課題を自ら発見し、発展させられる能力を身に付ける。これらをとおして、科学的・論理的思考を育てて主体的な判断、行動する能力を培う。看護を目指す学生としての自覚と倫理観、将来展望を持ち、今後大学で目標をもって学べるように、職業観を育む。

この授業をとおして、看護を学ぶ大学生としての自覚を身に付け、大学での学びの具体的な実践能力を養う。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：大学における学び方 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
2	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：大学における学び方 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
3	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：大学における学び方 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
4	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：望ましい大学生生活 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
5	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：望ましい大学生生活 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
6	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：望ましい大学生生活 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
7	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：自己の学修課題 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理

8	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：自己の学修課題 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
9	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：自己の学修課題 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
10	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：倫理観について 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
11	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：倫理観について 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
12	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：倫理観について 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
13	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：将来展望 内 容：小グループにわかれて意見交換	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
14	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：将来展望 内 容：グループごとに意見をまとめる	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理

15	關戸啓子、堤 かおり、高田 美子、那須さ とみ、大内由 梨	テーマ：将来展望 内 容：グループ発表	予習：テーマに関連 する文献を読む 復習：出された意見 をノートに整理
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>自己の学修課題についての個人レポート（50%）、倫理観についての個人レポート（50%）の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>いずれのレポートも、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p style="text-align: center;">なし。適宜プリントを配布する。</p>			
<p>オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>グループで十分意見交換して、お互いに知り合う機会にもなると思います。積極的に参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	臨床栄養学		
講義開講時期	後期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	關戸啓子			授業形態	講義

到達目標

1. 5大栄養素の体内における役割と栄養学的意義について説明できる。
2. 日本人の食事摂取基準の考え方と利用方法について説明できる。
3. 栄養アセスメントの意義と方法について説明できる。
4. 健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活について説明できる。
5. 疾病回復のための食事療法について説明できる。
6. 食事指導および食育の方法について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、対象者の健康支援・疾病の回復に寄与する栄養学の基礎的な知識の獲得を目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護の対象者の食生活や栄養状態をアセスメントし、適切な看護援助を提供するために必要な栄養学の基本知識について修得する。5大栄養素の体内における役割と栄養学的意義、日本人の食事摂取基準の考え方と利用方法、栄養アセスメントの意義と方法、健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活、疾病回復のための食事療法についての根拠と方法、疾病予防・健康増進のための食事指導および食育の留意点と方法を学ぶ。

この授業をとおして、対象者の健康支援・疾病の回復に寄与する栄養学の基礎的な知識を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	關戸啓子	テーマ：5大栄養素 内 容：体内における役割と栄養学的意義	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

2	關戸啓子	テーマ：5大栄養素 内 容：体内における役割と栄養学的意義	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	關戸啓子	テーマ：日本人の食事摂取基準 内 容：考え方と利用方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	關戸啓子	テーマ：栄養アセスメント 内 容：意義と方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	關戸啓子	テーマ：健康生活を支える栄養 内 容：意義と望ましい食生活	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	關戸啓子	テーマ：疾病回復のための食事療法 内 容：根拠と方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	關戸啓子	テーマ：疾病回復のための食事療法 内 容：根拠と方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	關戸啓子	テーマ：食事指導および食育 内 容：留意点と方法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験（100％）で評価し、60％以上の評価で単位を認定する。

教科書

ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち(4)：臨床栄養学 第5版 (メディカ出版)

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)

自分の食生活の振り返りにもなります。興味を持って学修してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	社会保障制度		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○岡本加奈子(兼任)、赤星誠、吉村牧子			授業形態	講義

到達目標

1. 社会保障制度の4つの柱について説明できる。
2. 社会保障制度の現状と課題について説明できる。
3. 障害者福祉制度について説明できる。
4. 障害者福祉制度の現状と課題について説明できる。
5. 介護保険制度について説明できる。
6. 介護保険制度の現状と課題について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、我が国の社会保障制度について基礎的な知識を得ると共に、各制度の現状及び課題についての理解を目指す科目である。

授業概要

この授業では、我が国の社会保障制度の4つの柱である「社会保険」、「公的扶助」、「社会福祉」、「保健医療・公衆衛生」について概説し、劇的に変化する社会において最新のニュースやトピックスを紹介しながら、社会保障制度の現状と課題を考える。とりわけ医療、介護の制度に関して、学生自身やその家族がどのような関わりがあるのか、具体的な例を元に我が国の状況と将来の課題について自ら考え、理解を深めることを目指す。

この授業をとおして、我が国の社会保障制度について基礎的な知識を得ると共に、客観的視点で各制度の現状及び課題について説明する能力の獲得を目指す。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習及び課題
1	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度とは 内 容：「社会保険」、「公的扶助」、「社会福祉」、「保健医療・公衆衛生」について	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

2	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度とは 内 容：「社会保険」、「公的扶助」、「社会福祉」、 「保健医療・公衆衛生」について	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：「社会保険」について	予習：関連資料を探して読む 復習：現状と課題をまとめる
4	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：「公的扶助」について	予習：関連資料を探して読む 復習：現状と課題をまとめる
5	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：「社会福祉」について	予習：関連資料を探して読む 復習：現状と課題をまとめる
6	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：「保健医療・公衆衛生」について	予習：関連資料を探して読む 復習：現状と課題をまとめる
7	岡本加奈子	テーマ：社会保障制度の現状と課題 内 容：まとめ	予習：現状と課題を整理する 復習：授業内容をノートにまとめる
8	岡本加奈子	テーマ：現代社会の変化と社会保障 内 容：現状の分析	予習：関連資料を探して読む 復習：授業内容をノートにまとめる

9	岡本加奈子	テーマ：現代社会の変化と社会保障 内 容：今後の動向	予習：関連資料を探して読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	岡本加奈子	テーマ：現代社会の変化と社会保障 内 容：まとめ	予習：関連資料を探して読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	赤星誠	テーマ：障害者福祉制度 内 容：障害者福祉制度の変遷とその背景	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	赤星誠	テーマ：障害者福祉制度 内 容：現在の制度の概要と課題	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	吉村牧子	テーマ：介護保障 内 容：介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	吉村牧子	テーマ：介護保障 内 容：介護保険制度の概要	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	吉村牧子	テーマ：介護保障 内 容：介護保険制度の課題と展望	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験60%、社会保障制度の現状と課題のレポート40%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは現状を適確にとらえ、その現状分析から課題が矛盾なく導き出されていることを評価基準とする

教科書

健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 (医学書院)

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)

社会保障制度の現状と課題について、学生のみなさんと意見交換しながら考えていきます。日ごろから、興味をもってテレビや新聞などを見ておいてください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	人間関係論		
講義開講時期	前期	学年	1	必修/選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○赤星誠			授業形態	講義

到達目標

1. 人間関係構築の基礎的方法について説明できる。
2. 地域を作る人間関係について説明できる。
3. 人間関係を作る理論と技法について説明できる。
4. 保健医療における人間関係について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、人間関係構築に関連する知識と技術、コミュニティにおける人間関係のあり方、成長・発達に伴って変化する人間関係のあり方についての基本的知識の獲得を目指す科目である。

授業概要

この授業では、人間関係構築に関連する知識と技術、コミュニティにおける人間関係のあり方、成長・発達に伴って変化する人間関係のあり方についての基本的知識を習得する。

その上で、実際の人間関係の構築に寄与できるよう、また、将来看護師として倫理的な諸問題に対して適切な対応が出来るように、講義を通じて対人関係能力の向上を目指す。合わせて基礎的なコミュニケーションスキルについて紹介し、自己表現能力を涵養する。

この授業をとおして、自らの考えや思いを正確に伝えながら看護師として望まれる誠実な傾聴する態度を身につけるための基礎的な素養を学ぶ。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	赤星誠	テーマ：人間関係構築の基礎 内 容：人間関係の中の自己と他者	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	赤星誠	テーマ：人間関係構築の基礎 内 容：対人関係と役割、対人行動	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

3	赤星誠	テーマ：地域を作る人間関係 内 容：コミュニティにおける人間関係のあり方	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	赤星誠	テーマ：地域を作る人間関係 内 容：成長・発達に伴って変化する人間関係のあり方	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	赤星誠	テーマ：人間関係を作る理論と技法 内 容：コミュニケーションの技法	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	赤星誠	テーマ：人間関係を作る理論と技法 内 容：コーチング	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	赤星誠	テーマ：保健医療における人間関係 内 容：保健医療チームの人間関係	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	赤星誠	テーマ：保健医療における人間関係 内 容：患者を支える人間関係	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、「人間関係の構築に必要なこと」に関する課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

シリーズ 系統看護学講座-基礎分野 人間関係論（医学書院）

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

看護師になって役に立つ内容です。これまでの自分のコミュニケーションを振り返りながら学修しましょう。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	カウンセリング論		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○赤星誠			授業形態	講義

到達目標

1. カウンセリングの基本的な姿勢や技法について説明できる。
2. 発達段階における感情と情動の発達、自我形成、行動の発達の变化について説明できる。
3. 看護における心理的援助のあり方について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、カウンセリングの基本的な理論及び各発達段階における心理的特性について理解すると共に、看護師として必要な援助的態度の理解の獲得を目指す科目である。

授業概要

この授業では、カウンセリングの諸理論について教授する。合わせてカウンセリング場面の基本的姿勢や技法を学ぶ。カウンセリングの基礎知識に基づき、自己理解を深め、コミュニケーション能力の向上を図ると共に、看護における心理的援助のあり方についても理解する。また、各発達段階における感情と情動の発達、自我形成、行動の発達の变化についての基本的な知識についても学ぶ。

この授業をとおして、カウンセリングの基本的な理論及び各発達段階における心理的特性について理解すると共に、看護師として必要な援助的態度を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	赤星誠	テーマ：カウンセリングとは 内 容：定義、重要な構成概念、基本的なコミュニケーション	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	赤星誠	テーマ：カウンセリングの基礎 内 容：技法とプロセス	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる

3	赤星誠	テーマ：カウンセリングの基礎 内 容：自己理解と他者理解	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	赤星誠	テーマ：カウンセリングの基礎 内 容：感情と情動の発達、自我形成、行動の発達の变化	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	赤星誠	テーマ：看護場面に生かす心理的援助 内 容：事例 患者の問題を共有する	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	赤星誠	テーマ：看護場面に生かす心理的援助 内 容：事例 メンタルヘルスを支援する	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	赤星誠	テーマ：看護場面に生かす心理的援助 内 容：事例 援助関係を築く	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	赤星誠	テーマ：看護場面に生かす心理的援助 内 容：事例 行動変容への支援	予習：授業内容に関連する文献を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>定期試験50%、「カウンセリングを看護に生かす必要性」課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>なし 適宜プリントを配布する</p>			

オフィスアワー

毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

簡単なロールプレイングも取り入れながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	1	必修/選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子			授業形態	講義

到達目標

1. 専門職としての看護の役割が説明できる。
2. 看護の責務と独自性、看護を实践する場と社会的機能が説明できる。
3. 看護の理論と実践について説明できる。
4. 災害看護・国際看護について概要が説明できる。
5. 看護の課題と展望について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。」「◎ (2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、専門職としての看護の役割、責務と独自性、看護の理論と実践、看護を实践する場と社会的機能の理解を目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護の歴史や看護理論から、看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」「生活（看護）」を捉えたうえで、専門職としての看護とは何かを学ぶ。対象者を理解し、医療・看護倫理、医療保健福祉に関する法・制度、社会福祉システムとの関係などから、看護の責務と独自性、看護を实践する場と社会的機能としての看護について学び、看護職に必要とされる役割や機能について学修する。災害看護・国際看護についても概要を学ぶ。看護の歴史の変遷から現代までの分析をとおして、看護の課題と将来の展望についても考察を行う。

この授業をとおして、適切な看護実践のあり方、継続看護、有効な看護過程の進め方まで、実践活動の基盤となる知識を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	關戸啓子	テーマ：専門職としての看護 内 容：看護とはなにか、看護の概念、看護の定義	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	關戸啓子	テーマ：専門職としての看護 内 容：人間と健康、健康の概念、健康関連行動	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

3	關戸啓子	テーマ：看護ケア（看護援助）の基本的役割 内 容：看護の対象とその理解	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	關戸啓子	テーマ：看護ケア（看護援助）の基本的役割 内 容：看護の提供者、看護提供のしくみ	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：看護の変遷	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：近代看護の基盤を作った看護理論	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：萌芽期における理論家の業績	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：開発期における理論家の業績	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
9	關戸啓子	テーマ：看護の理論と実践 内 容：発展期における理論家の業績	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	關戸啓子	テーマ：社会的機能としての看護 内 容：保健・医療・福祉システム	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

11	關戸啓子	テーマ：社会的機能としての看護 内 容：看護管理、医療安全、看護の倫理	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	關戸啓子	テーマ：社会的機能としての看護 内 容：災害看護・国際看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	關戸啓子	テーマ：ライフサイクルと健康 内 容：健康を守る制度（1）	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	關戸啓子	テーマ：ライフサイクルと健康 内 容：健康を守る制度（2）	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	關戸啓子	テーマ： 看護の統合と今後の展望 内 容：これからの看護の課題と展望	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論（メディカ出版） 社会・環境と健康 健康管理概論 第3版（講談社サイエンティフィク）</p>			
<p>オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護技術学Ⅰ		
講義開講時期	前期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、那須さとみ、大内由梨			授業形態	演習

到達目標

1. コミュニケーション技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
2. 教育指導技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
3. 感染予防に関して感染源への対策、感染経路への対策について説明できる。
4. 感染予防の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
5. 感染予防の技術（手洗い、防護用具、滅菌物の取り扱い）が演習で実施できる。
6. 安全管理、安楽確保の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
7. 安楽な体位の保持と安全確保の技術が演習で実施できる。
8. 環境を整える技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
9. 環境を整える技術（ベッドメイキング）が演習で実施できる。
10. 活動・休息の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
11. 活動・休息の援助技術（体位変換、移動、移送）が演習で実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、コミュニケーション技術、教育指導技術、感染予防の技術、安全管理の技術、安楽確保の技術、環境を整える技術、活動・休息の援助技術について、技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点を理解し、演習で実施できることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、生活援助に関する基礎看護技術の中でも、コミュニケーション技術、教育指導技術、感染予防の技術、安全管理の技術、安楽確保の技術、環境を整える技術、活動・休息の援助技術について学ぶ。講義において、看護技術の理論的な根拠を理解し、対象者の健康状態や心理状態、発達段階等の個別性に応じて、安全・安楽・自立に向けた生活援助の方法について学び、演習において実践を行うことによって基礎的技術の方法を学修する。

この授業をとおして、対象者の安全・安楽・自立に向けた生活援助に対する知識・技術・態度を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1 ・ 2	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：コミュニケーション技術 内 容：コミュニケーション技術の必要性・実施方法と その根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
3 ・ 4	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：教育指導技術 内 容：看護の教育機能と指導技術の基本 教育指導技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
5 ・ 6	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：感染予防の技術 内 容：感染と感染予防策の基礎知識、感染源への対 策、感染経路への対策 感染予防の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
7 ・ 8	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：感染予防の技術 内 容：感染予防の技術演習（手洗い、防護用具、滅菌 物の取り扱い）	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
9 ・ 10	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：安全管理と安楽確保の技術 内 容：看護事故の構造と防止の視点 安全管理と安楽確保の必要性・実施方法とその 根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。

11 ・ 12	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：安全管理と安楽確保の技術 内 容：安楽な体位の保持と安全確保の技術演習	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13 ・ 14	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：環境を整える技術 内 容：環境の諸要素とその調整 病室と病床の環境調整	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
15 ・ 16	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：環境を整える技術 内 容：環境を整える技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
17 ・ 18	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：環境を整える技術 内 容：ベッドメイキングの演習	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
19 ・ 20	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：環境を整える技術 内 容：ベッドメイキングの演習	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

21 ・ 22	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：活動・休息の援助技術 内 容：活動のアセスメント 活動・休息の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・ 留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
23 ・ 24	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：活動・休息の援助技術 内 容：体位変換の演習	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
25 ・ 26	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：活動・休息の援助技術 内 容：移送の演習（車いす）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
27 ・ 28	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：活動・休息の援助技術 内 容：移送の演習（ストレッチャー）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
29 ・ 30	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：基礎看護技術を学修して 内 容：まとめ	予習：これまでの学びをまとめる 復習：授業で理解したことを学びに追記する。

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況 20%、技術テスト 30%、定期試験 50% の合計 100% で評価し、60% 以上の評価で単位を認定する。</p>	
<p>教科書</p> <p>新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）</p> <p>新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>臨床で実際に実施する生活援助技術を学修します。原理原則をふまえて理解してください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護技術学Ⅱ		
講義開講時期	後期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○那須さとみ、關戸啓子、大内由梨			授業形態	演習

到達目標

1. バイタルサインの測定の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
2. バイタルサインの測定の基本が演習で実施できる。
3. 食生活の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
4. 食生活の援助技術の基本が演習で実施できる。
5. 排泄の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
6. 排泄の援助技術の基本が演習で実施できる。
7. 清潔・衣生活の援助技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
8. 清潔・衣生活の援助技術の基本が演習で実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、バイタルサインの測定、食生活の援助技術、排泄の援助技術、清潔・衣生活の援助技術について、技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点を理解し、演習で実施できることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、生活援助に関する基礎看護技術の中でも、バイタルサインの測定、食生活の援助技術、排泄の援助技術、清潔・衣生活の援助技術について学ぶ。講義において、看護技術の理論的な根拠を理解し、対象者の健康状態や心理状態、発達段階等の個別性に応じて、安全・安楽・自立に向けた生活援助の方法について学び、演習において実践を行うことによって基礎的技術の方法を学修する。

この授業をとおして、対象者の安全・安楽・自立に向けた生活援助に対する知識・技術・態度を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 ・ 2	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：バイタルサインの測定技術 内 容：バイタルサインの測定の必要性・実施方法とそ の根拠・留意点方法	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
3 ・ 4	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：バイタルサインの測定技術 内 容：バイタルサインの測定の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
5 ・ 6	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：食生活と栄養摂取の援助技術 内 容：援助の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
7 ・ 8	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：食生活と栄養摂取の援助技術 内 容：援助の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。

9 ・ 10	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：排泄の援助技術 内 容：援助の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
11 ・ 12	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：排泄の援助技術 内 容：援助の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13 ・ 14	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：清拭の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
15 ・ 16	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：清拭の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
17 ・ 18	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：洗髪の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

19 ・ 20	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：洗髪の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
21 ・ 22	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：手浴・足浴の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
23 ・ 24	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：手浴・足浴の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
25 ・ 26	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：シーツ交換・寝衣交換の必要性・実施方法とその根拠・留意点	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
27 ・ 28	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：シーツ交換の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

29 ・ 30	那須さとみ ・ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：清潔・衣生活の援助技術 内 容：寝衣交換の実際（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、技術テスト30%、定期試験50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>			
<p>教科書</p> <p>新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）</p> <p>新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）</p>			
<p>オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>臨床で実際に実施する生活援助技術を学修します。原理原則をふまえて理解してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護技術学Ⅲ		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、那須さとみ、大内由梨			授業形態	演習

到達目標

1. 呼吸・循環を整える技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
2. 呼吸・循環を整える技術の基本が演習で実施できる。
3. 創傷管理の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
4. 創傷管理技術の基本が演習で実施できる。
5. 与薬・輸血の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
6. 与薬・輸血の技術の基本が演習で実施できる。
7. 検査に伴う看護技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
8. 検査に伴う看護技術の基本が演習で実施できる。
9. 救命救急処置の必要性・実施方法とその根拠・留意点が説明できる。
10. 救命救急処置技術の基本が演習で実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬・輸血の技術、検査に伴う看護技術、救命救急処置技術について、技術の必要性・実施方法とその根拠・留意点を理解し、演習で実施できることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、治療援助に関する基礎看護技術を学修する。呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、与薬・輸血の技術、検査に伴う看護技術、救命救急処置技術について学ぶ。講義において、看護技術の理論的な根拠を理解し、対象者の健康状態や心理状態、発達段階等の個別性に応じて、安全・安楽・自立を考えた治療援助の方法について学び、演習において実践やシミュレーションを行うことによって基礎的技術の方法を学修する。

この授業をとおして、対象者の安全・安楽・自立を考慮した治療援助に対する知識・技術・態度を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1 ・ 2	關戸啓子 ・ 那須さとみ 大内由梨	テーマ：呼吸・循環を整える技術 内 容：呼吸・循環を整える技術の必要性・実施方法と その根拠・留意点方法	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
3 ・ 4	關戸啓子 ・ 那須さとみ 大内由梨	テーマ：呼吸・循環を整える技術 内 容：酸素吸入療法、体位ドレナージ（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
5 ・ 6	關戸啓子 ・ 那須さとみ 大内由梨	テーマ：創傷管理技術 内 容：創傷管理の必要性・実施方法とその根拠・留意 点方法	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
7 ・ 8	關戸啓子 ・ 那須さとみ 大内由梨	テーマ：創傷管理技術 内 容：包帯、創傷処置（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
9 ・ 10	關戸啓子 ・ 那須さとみ 大内由梨	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容：与薬・輸血の必要性・実施方法とその根拠・留 意点方法	予習：該当のテキストの内容をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。

11 ・ 12	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容：経口与薬・外用薬（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13 ・ 14	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容：皮内・皮下・筋肉注射（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
15 ・ 16	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容：静脈注射（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
17 ・ 18	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：与薬・輸血の技術 内 容：点滴・輸血（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
19 ・ 20	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：検査に伴う看護技術 内 容：検査に伴う看護の必要性・実施方法とその根拠・留意点方法	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

21 ・ 22	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：検査に伴う看護技術 内 容：排泄物の検査（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
23 ・ 24	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：検査に伴う看護技術 内 容：採血（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
25 ・ 26	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：救命救急処置技術 内 容：救命救急処置の必要性・実施方法とその根拠・留意点方法	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
27 ・ 28	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：救命救急処置技術 内 容：救急蘇生法（演習）	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
29 ・ 30	關戸啓子 那須さとみ 大内由梨	テーマ：治療援助に関する基礎看護技術を学修して 内 容：まとめ	予習：これまでの学びをまとめる 復習：授業で理解したことを学びに追記する。

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、技術テスト30%、定期試験50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>	
教科書	<p>新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）</p> <p>新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）</p>
オフィスアワー	毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>臨床で実際に実施する治療援助に関する技術を学修します。原理原則をふまえて理解してください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護技術学Ⅳ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○那須さとみ、關戸啓子、大内由梨			授業形態	演習

到達目標

1. 健康障害の経過からみた看護の特徴が説明できる。
2. 日常生活に及ぼす障害と看護について説明できる。
3. 治療方法とそれを受ける患者の看護の概要が説明できる。
4. 事例の状況に合わせて、生活援助や治療援助を組み合わせる援助計画を立て、演習で実施することができる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、基礎看護技術で学修した生活援助技術や治療援助技術を事例の必要性に合わせて、組み合わせる用いることができる能力を養うことを目指す科目である。

授業概要

この授業では、学修した基礎看護技術が対象者の事例に合わせて、どのように実施されるのか検討して、生活援助や治療援助を組み合わせる実施する演習を行う。事例ごとに「患者の経過」「有する障害とその程度」「治療方法」を示し、学生が必要な援助を検討した上で、援助を計画し、実施する演習を行う。

この授業をとおして、対象者を看護する上で必要な「臨床推論」の力を養い、この対象者には今、何が必要かを考えて援助を実践する能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：健康障害の経過からみた看護 内 容：健康障害のレベルとしての「経過」とは	予習：関連資料を読む 復習：授業内容を ノートにまとめる

2	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：日常生活に影響を及ぼす障害と看護 内 容：日常生活が障害されるとはどのようなことか	予習：関連資料を読んでおく 復習：授業内容をノートにまとめる
3	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：治療方法とそれを受ける患者の看護 内 容：治療法の多様化とインフォームドコンセント	予習：関連資料を読んでおく 復習：授業内容をノートにまとめる
4	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：急性期で治療処置が多い患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助計画を立てる	予習：事例を理解する 復習：グループの意見を整理する
5	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：急性期で治療処置が多い患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助を実施してみる	予習：援助技術の方法を確認する 復習：実施した内容を振り返る
6	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：急性期で治療処置が多い患者への援助技術 内 容：援助を各グループが行い意見交換する	予習：事例の理解を深める 復習：他グループの方法を整理する
7	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：急性期で治療処置が多い患者への援助技術 内 容：まとめ	予習：他グループの方法を理解する 復習：演習での学びをまとめておく
8	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：慢性期で生活援助が多い患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助計画を立てる	予習：事例を理解する 復習：グループの意見を整理する

9	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：慢性期で生活援助が多い患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助を実施してみる	予習：援助技術の方法を確認する 復習：実施した内容を振り返る
10	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：慢性期で生活援助が多い患者への援助技術 内 容：援助を各グループが行い意見交換する	予習：事例の理解を深める 復習：他グループの方法を整理する
11	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：慢性期で生活援助が多い患者への援助技術 内 容：まとめ	予習：他グループの方法を理解する 復習：演習での学びをまとめておく
12	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：闘病意欲が低下している患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助計画を立てる	予習：事例を理解する 復習：グループの意見を整理する
13	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：闘病意欲が低下している患者への援助技術 内 容：事例に従って、グループで援助を実施してみる	予習：援助技術の方法を確認する 復習：実施した内容を振り返る
14	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：闘病意欲が低下している患者への援助技術 内 容：援助を各グループが行い意見交換する	予習：事例の理解を深める 復習：他グループの方法を整理する
15	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：闘病意欲が低下している患者への援助技術 内 容：まとめ	予習：他グループの方法を理解する 復習：演習での学びをまとめておく

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達参加状況 20%、技術テスト 30%、定期試験 50%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>	
<p>教科書</p> <p>新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）</p> <p>新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>臨床により近い事例設定で、生活援助や治療援助を組み合わせる技術を学修します。積極的に演習を行ってください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護過程論		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○那須さとみ、關戸啓子、大内由梨			授業形態	演習

到達目標

1. 看護過程の概念と意義について説明できる。
2. 看護過程のプロセスと構成要素について説明できる。
3. 看護記録の法的位置づけと記載方法の基本が説明できる。
4. 事例の看護過程の展開が演習によって実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、看護過程の概念と意義、そのプロセスについて、講義と紙上事例による演習で理解することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、様々な健康状態にある対象者に対して、効果的な看護を提供するための科学的な思考過程である看護過程の基礎を学修する。看護過程の概念と意義、そのプロセス、対象者の全体像の把握の仕方、アセスメントの視点、事実に基づいた合理的な判断の仕方、問題解決または目標達成に向けて個別性に合わせた看護を実施するための看護計画立案と実践、評価方法について、講義と紙上事例による演習で体験的に理解する。

この授業をとおして、看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養い、問題解決能力や批判的思考能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：看護過程の基になる考え方と理論 内 容：看護過程の概念と意義	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。

2	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：看護過程の基になる考え方と理論 内 容：看護過程の変遷	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
3	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：プロセスと対象者の把握	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
4	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：アセスメント	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
5	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：看護上の問題	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
6	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：看護計画	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。

7	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：看護過程の構成要素 内 容：実施・評価	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
8	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：看護記録 内 容：看護記録に関する法的規定	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
9	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：看護記録 内 容：看護記録の記載方法	予習：該当のテキストの内容をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記する。
10	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：情報の整理	予習：事例を理解する 復習：情報の整理を見直す
11	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：アセスメント	予習：アセスメントしておく 復習：アセスメントをみなおす

12	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：看護上の問題	予習：看護上の問題を抽出しておく 復習：看護上の問題を見直す
13	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：看護計画	予習：看護計画を立てておく 復習：看護計画をみなおす
14	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：グループ発表	予習：発表の準備をする 復習：他グループの意見を整理する
15	那須さとみ 關戸啓子 大内由梨	テーマ：事例による看護過程の展開（演習） 内 容：グループ発表	予習：事例の理解を深める 復習：演習からの学びをまとめる

成績評価方法及び基準	
演習での到達参加状況 20%、技術テスト 30%、定期試験 50% の合計 100% で評価し、60% 以上の評価で単位を認定する。	
教科書	
新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）	
新体系看護学全書12基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ（メヂカルフレンド社）	
オフィスアワー	毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）	
臨床により近い事例設定で、看護過程の展開を演習します。積極的に演習を行ってください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	ヘルスアセスメント		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子			授業形態	演習

到達目標

1. アセスメントの基本テクニックを実施できる。
2. 面接による情報収集の基本ができる。
3. 系統的な全身のフィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づく実際の方法について説明できる。
4. フィジカルアセスメントの基本的な方法を演習で実施できる。
5. 心理・社会的側面のアセスメント方法を説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、対象者のデータを情報収集しアセスメントする方法として、身体的・生理学的な情報および心理・社会的な情報を系統的かつ客観的に収集するヘルスアセスメントの方法と態度を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、患者に個別的で適切な看護を実施するために、対象者のデータを情報収集しアセスメントする方法として、身体的・生理学的な情報および心理・社会的な情報を系統的かつ客観的に収集するヘルスアセスメントの方法と態度を学ぶ。フィジカルアセスメントは、全身・外観、鼻・耳・眼、乳房・リンパ系、筋・骨格系、神経系、呼吸・心臓・血管系、腹部と系統的に講義と演習を行う。加えて、心理的・社会的側面のアセスメント方法を学ぶ。

この授業をとおして、対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際と援助技術、心理的・社会的側面のアセスメント方法を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	關戸啓子	テーマ：ヘルスアセスメントとは 内 容：アセスメントの基本テクニック	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
2	關戸啓子	テーマ：入院時の情報収集の方法 内 容：面接による情報の聞き方	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
3	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：全身・外観のアセスメントの方法	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
4	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：鼻・耳・眼のアセスメントの方法	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
5	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：鼻・耳・眼のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
6	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：全身・外観のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
7	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：乳房・リンパ系のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる

8	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：筋・骨格系、神経系のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
9	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：筋・骨格系、神経系のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
10	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：呼吸・心臓・血管系のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
11	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：呼吸・心臓・血管系のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
12	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：腹部のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
13	關戸啓子	テーマ：フィジカルアセスメント 内 容：腹部のアセスメントの方法（目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際）	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
14	關戸啓子	テーマ：心理・社会的な情報 内 容：心理的・社会的側面のアセスメント方法	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる

15	關戸啓子	テーマ：認知－知覚のアセスメント 内 容：疼痛・意識障害のアセスメントの方法	予習：情報収集の方法をみておく 復習：アセスメントの方法をまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>新体系看護学全書11基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ（メヂカルフレンド社）</p>			
<p>オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>臨床でも用いる技術です。正しいデータがとれるように、演習には積極的に参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護学実習Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、那須さとみ、大内由梨、川村小千代、温井由美、市後昌代、羽畑正孝、鷺野貴子、横谷知也、林史子、吉村牧子			授業形態	実習
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の持つ設備、機能と療養環境について説明できる。 2. 患者が受けている看護援助の実際について説明できる。 3. 看護師間・他職種間の連携の実際について説明できる。 4. 患者の気持ちや入院生活におけるニーズについて理解できる。 5. 実習から自己の学習課題を明確にする。 <p>【ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、はじめての臨地実習をとおして、病院の機能、患者の療養環境と生活、看護師の役割、チーム医療の実際を知ることを目指す科目である。</p>					
<p>授業概要</p> <p>この授業では、病院で実習を行い、入院患者とのコミュニケーションや看護師との関わりを通して、病院の設備施設、患者の療養環境、看護活動について学修する。病院・病棟・病室内の環境やシステムが、患者の療養生活の安全・安楽・自立に向けて、どのように整えられているのかを学ぶ。看護師と同行実習することによって、患者が受けている看護援助の実際、看護師および他の職種との連携について知る。患者とのコミュニケーションによって、患者の健康障害に対する気持ちや、入院生活における患者の持つニーズについて理解する。</p> <p>この授業をとおして、患者の療養生活や看護師の役割を知り、看護師を目指す自己の課題に対して研鑽する態度を身に付ける。</p>					

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	○關戸啓子 那須さとみ 大内由梨 川村小千代 温井由美 市後昌代	初日は、オリエンテーションと施設見学 外来、薬剤部、検査室、栄養給食部など (各部署で役割について説明を受ける)	予習：見学する部門 の役割を調べておく 復習：見学で学んだ 内容を記録する
2 日 目	羽畑正孝 鷺野貴子 横谷知也 林史子 吉村牧子	病棟で看護師ヘシャドウイングを行う (実習目標を述べてアドバイスを受けた後に同行する。 実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの 時間をもつ)	予習：病棟の療養環 境について調べてお く 復習：シャドウイン グ実習で学んだ内容
3 日 目		病棟で看護師ヘシャドウイングを行う (実習目標を述べてアドバイスを受けた後に同行する。 実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの 時間をもつ)	予習：看護師の一日 の看護の流れについ て調べておく 復習：シャドウイン グ実習で学んだ内容
4 日 目		病棟で看護師ヘシャドウイングを行う (実習目標を述べてアドバイスを受けた後に同行する。 実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの 時間をもつ)	予習：医療チームの 連携について調べて おく 復習：シャドウイン グ実習で学んだ内容
5 日 目		カンファレンスとまとめの発表会	予習：看護師の役割 について調べておく 復習：実習で学んだ 内容をまとめておく
成績評価方法及び基準 評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜参考図書を紹介する			
オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	基礎看護学実習Ⅱ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、那須さとみ、大内由梨、川村小千代、温井由美、市後昌代、羽畑正孝、鷺野貴子、横谷知也、林史子、吉村牧子			授業形態	実習

到達目標

- 病態が複雑ではない患者を一人受け持ち看護過程の展開を体験する。
 - 受け持ち患者の病態を理解し、看護に必要な情報収集が助言のもとできる。
 - 受け持ち患者の情報の分析・アセスメントが助言のもとできる。
 - 受け持ち患者の看護上の問題の明確化が助言のもとできる。
 - 受け持ち患者の看護計画の立案が助言のもとできる。
 - 受け持ち患者の看護計画の実施・評価が助言のもとできる。
- 患者の状態にあった日常生活援助を安全・安楽・自立に留意して実施することを体験的に学ぶ。
- 臨地実習での学修に必要な基本的態度を身に付ける。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」に基づき、はじめて受け持ち患者を持つ臨地実習をとおして、看護過程の展開、安全・安楽かつ自立に向けた日常生活援助を実施する能力を養うことを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟において1人の患者を受け持ち、情報収集、アセスメント、看護上の問題の明確化、援助計画の立案、実施という看護過程を展開することによって、患者の状態にあった日常生活援助を安全・安楽・自立に留意して実施することを体験的に学修する。看護学生として、個人情報の取り扱い、看護師への報告・相談、受け持ち患者との援助関係の構築など、実習に必要な基本的態度についても学ぶ。

この授業をとおして、病棟で治療をうけている患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、個別性に合わせた、安全・安楽かつ自立に向けた日常生活援助を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	○關戸啓子 那須さとみ 大内由梨 川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝 鷺野貴子	初日は、全体オリエンテーション (実習目的・目標、実習の展開方法、実習の留意事項、健康管理、個人情報の取り扱い)	予習：実習の目的・目標をみて、自分の課題について調べておく 復習：オリエンテーションで学んだ内容を記録する
2 日 目	横谷知也 林史子 吉村牧子	病棟オリエンテーション（病棟の機能、患者の特徴、看護体制） 受け持ち患者紹介、情報収集	予習：病棟の主な疾患について調べておく 復習：実習で学んだ内容を整理し記録する
3 日 目		受け持ち患者担当の看護師へシャドウイングを行う 実習目標を述べてアドバイスを受けた後に同行する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。 受け持ち患者の疾患の理解	予習：受け持ち患者の疾患について調べておく 復習：シャドウイング実習で学んだ内容を記録する
4 日 目		受け持ち患者担当の看護師へ、実習目標、本日の実習計画を述べてアドバイスを受けた後に、援助は看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。 受け持ち患者の生活援助を中心に実習情報の整理とアセスメント	予習：受け持ち患者に実施予定のケア方法について調べておく。患者の情報を整理してアセスメントしておく 復習：実習で学んだ内容を整理し記録する

5 日 目	○關戸啓子 那須さとみ 大内由梨 川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝 鷺野貴子	受け持ち患者担当の看護師へ、実習目標、本日の実習計画を述べてアドバイスを受けた後に、援助は看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。 受け持ち患者の生活援助を中心に実習 中間カンファレンス 看護上の問題を抽出	予習：中間カンファレンスの準備を行っておく。看護上の問題点を抽出しておく 復習：実習で学んだ内容を整理し記録する
6 日 目	横谷知也 林史子 吉村牧子	受け持ち患者担当の看護師へ、実習目標、自分が立案した受け持ち患者の看護計画について説明しアドバイスをもらう。計画した看護ケアは看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。 情報収集、計画の見直し	予習：患者の看護計画をたてる 復習：実施したケア内容の振り返りを行う
7 日 目		受け持ち患者担当の看護師へ、実習目標、自分が立案した受け持ち患者の看護計画について説明しアドバイスをもらう。計画した看護ケアは看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。 情報収集、計画の見直し	予習：看護計画を見直す 復習：実施したケア内容の振り返りを行う
8 日 目		受け持ち患者担当の看護師へ、実習目標、自分が立案した受け持ち患者の看護計画について説明しアドバイスをもらう。計画した看護ケアは看護師の指導のもと実施する。実習終了前に、看護師と一緒に実習を振り返るまとめの時間をもつ。 実施の評価	予習：より良いケア方法を模索する。実施したケアの評価を行う。 復習：実習で学んだ内容を整理し記録する
9 日 目		最終カンファレンス	予習：最終カンファレンスの準備 復習：カンファレンスでの学びをまとめる

10 日 目	○關戸啓子 那須さとみ 大内由梨 川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝 鷺野貴子 横谷知也 林史子 吉村牧子	学びの共有 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う	予習：学びの発表の 準備 復習：発表会での学 びをまとめる
成績評価方法及び基準 評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜参考図書を紹介する			
オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	チーム医療論		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子			授業形態	講義

到達目標

1. チーム医療の目的・意義について説明できる。
2. 保健・医療・福祉におけるチーム医療と看護の役割について説明できる。
3. 多職種連携・協働と看護職の役割について説明できる。
4. 地域における関連職種・関係機関の連携・協働について説明できる。
5. チームを組む専門職種の役割を説明できる。
6. 多職種連携に求められる専門能力について説明できる。
7. 多職種連携における看護職の役割について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、チーム医療について必要性を理解し、チーム医療における看護の役割に関する知識の獲得を目指す科目である。

授業概要

この授業では、チーム医療について基礎的知識とチーム医療において果たす看護の専門性と役割について理解する。チーム医療の基礎的知識として、チーム医療の目的・意義、保健・医療・福祉におけるチーム医療と看護、多職種の連携・協働と看護職の役割、連携と協働、地域における関連職種・関係機関の連携・協働について学ぶ。チームを組む専門職種の役割を知り、多職種連携に求められる専門能力と多職種連携における看護職の役割について理解する。

この授業をとおして、チーム医療が必須の現代において、専門職としてチームの中で看護の役割を果たすことができる素地を養う。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	關戸啓子	テーマ：チーム医療の基礎的知識 内 容：チーム医療の目的・意義	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

2	關戸啓子	テーマ：チーム医療の基礎的知識 内 容：保健・医療・福祉におけるチーム医療と看護	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	關戸啓子	テーマ：チーム医療の基礎的知識 内 容：多職種連携・協働と看護職の役割、連携と協働	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	關戸啓子	テーマ：チーム医療の基礎的知識 内 容：地域における関連職種・関係機関の連携・協働	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	關戸啓子	テーマ：チーム医療における看護の役割 内 容：チームを組む専門職種の役割	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	關戸啓子	テーマ：チーム医療における看護の役割 内 容：多職種連携に求められる専門能力	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	關戸啓子	テーマ：チーム医療における看護の役割 内 容：多職種連携における看護職の役割	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	關戸啓子	テーマ：チーム医療における看護の役割 内 容：事例で学ぶ多職種連携における看護職の役割	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

毎週木曜日 13:00~14:30

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

実例も紹介しながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護倫理学		
講義開講時期	後期	学年	1	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸			授業形態	講義

到達目標

1. 看護における倫理の重要性について説明できる。
2. 倫理理論、看護倫理、看護倫理の歴史的推移について説明できる。
3. 道徳的感受性と道徳的レジリエンスについて説明できる。
4. 看護師の職業意識と倫理、患者の尊厳について説明できる。
5. アドボカシー、レスポンシビリティとアカウンタビリティについて説明できる。
6. 倫理的責任と法的責任、インフォームド・コンセントについて説明できる。
7. 情報プライバシーと守秘義務について説明できる。
8. 倫理的意思決定のステップについて、事例を用いた説明をとおして学ぶ。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。」に基づき、看護における倫理の重要性を理解し、看護倫理について知識を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護倫理の基礎的知識と倫理的葛藤場面での意思決定方法について理解する。看護倫理の基礎知識として、倫理理論、看護倫理、看護倫理の歴史的推移、道徳的感受性と道徳的レジリエンス、看護師の職業意識と倫理、患者の尊厳、アドボカシー、レスポンシビリティとアカウンタビリティ、倫理的責任と法的責任、インフォームド・コンセント、情報プライバシーと守秘義務について学ぶ。倫理的意思決定のステップを理解し、倫理的課題を含む事例を用いて、意思決定の過程を学ぶ。

この授業をとおして、看護倫理の基礎知識を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：看護における倫理の重要性 倫理理論、看護倫理、看護倫理の歴史的推移	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：道徳的感受性と道徳的レジリエンス	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：看護師の職業意識と倫理、患者の尊厳	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：アドボカシー、レスポンスビリティとアカウントビリティ	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：倫理的責任と法的責任、インフォームド・コンセント	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	貞岡美伸	テーマ：看護倫理の基礎知識 内 容：情報プライバシーと守秘義務	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	貞岡美伸	テーマ：倫理的な課題を含んだ事例 内 容：用いる事例にどのような倫理的な課題があるのか説明する	予習：ここまでに学修した基礎知識を見直しておく 復習：学びをまとめる

8	貞岡美伸	<p>テーマ：倫理的な課題を含んだ事例</p> <p>内 容：倫理的な課題を含んだ事例に基づいて、倫理的 意思決定のステップを説明する</p>	<p>予習：事例に含まれ ていた倫理的課題に ついてまとめる</p> <p>復習：学びをまとめ る</p>
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>			
<p>教科書</p> <p>なし 適宜プリントを配布する</p>			
<p>オフィスアワー 毎週月曜日 10:40~12:10</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	堤かおり			授業形態	講義

到達目標

1. 成人期にある人の身体的成長発達・身体機能の特徴について説明できる。
2. 成人期にある人の生活・健康観・学習に関する特徴について説明できる。
3. 成人期にある人の生活習慣に関連する健康障害について説明できる。
4. 成人期にある人の職業に関連する健康障害について説明できる。
5. 成人期にある人の生活ストレスに関連する健康障害について説明できる。
6. 成人期にある人のセクシュアリティに関連する健康障害について説明できる。
7. 成人期にある人の余暇活動に伴う健康障害について説明できる。
8. 成人期にある人の更年期にみられる健康障害について説明できる。
9. 成人看護に有用な概念（セルフケア、ストレス、危機、適応、自己効力、ヘルスプロモーション）について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、成人期にある人の身体的心理的社会的特徴、生活と健康課題について理解することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、成人期にある人の身体的心理的社会的特徴、生活と健康課題について理解する。成人期にある人の特徴として、成長発達、身体機能、生活、健康観、学習について学ぶ。成人期における生活習慣、ワーク・ライフ・バランス、更年期などの特徴と健康障害との関連について学修する。成人看護に有用な概念として、セルフケア、ストレス、危機、適応、自己効力、ヘルスプロモーションについて学ぶ。

この授業をとおして、成人期にある人を多面的な視点からアセスメントし、成人期の健康課題の特徴および様々な健康レベルにある成人に対する看護のあり方を理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	堤かおり	テーマ：成人期にある人の理解 内 容：成人期とは	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
2	堤かおり	テーマ：成人期にある人の特徴 内 容：成長発達、身体機能	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	堤かおり	テーマ：成人期にある人の特徴 内 容：生活、健康観、学習	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	堤かおり	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：生活習慣に関連する健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	堤かおり	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：職業に関連する健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	堤かおり	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：生活ストレスに関連する健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	堤かおり	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：セクシュアリティに関連する健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

8	堤かおり	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：余暇活動に伴う健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
9	堤かおり	テーマ：成人期にある人の特徴と健康障害 内 容：更年期にみられる健康障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
10	堤かおり	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：セルフケア	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
11	堤かおり	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：ストレス	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
12	堤かおり	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：危機	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
13	堤かおり	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：適応	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
14	堤かおり	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：自己効力	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

15	堤かおり	テーマ：成人への看護に有用な概念 内 容：ヘルスプロモーション	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
成績評価方法及び基準 定期試験100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 ナーシング・グラフィカ 成人看護学(1)：成人看護学概論 (メディカ出版)			
オフィスアワー 毎週水曜日：12:00～13:00 16:00～17:00			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 成人の理解は、他の領域の基礎になりますから、そのつもりでしっかり学修してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人看護学各論ⅠA（急性期：周手術期）		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、温井由美			授業形態	演習

到達目標

1. 周手術期の生体の変化・生活機能への影響が説明できる。
2. 手術前の患者に対する看護について説明できる。
3. 手術中の看護について説明できる。
4. 手術後の感染予防、合併症の予防・早期発見に関する看護について説明できる。
5. 手術後の回復過程を理解し、回復過程にそった看護について説明できる。
6. 手術時の看護について、シミュレーションを用いて看護過程の展開を実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、成人期にある人に対する周手術期における生体の変化、手術過程に応じた看護支援について理解することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、成人期に疾患や外傷のために手術という侵襲的治療を受けた人に生じる身体機能の障害、生活機能におよぼす影響、ボディイメージの変化について理解し、周手術期にある患者に対する看護を学ぶ。手術療法を受ける患者の特徴と様々な術後合併症をしり、予防的な介入方法、患者の感染予防の看護について理解する。演習として、呼吸器・循環器・消化器・脳神経系・運動器に障害がある人の主要な手術を取り上げ、看護についてシミュレーションを用いて看護過程を展開することによって、周術期の看護を学修する。

この授業をとおして、成人期にある人に対する周手術期の基礎的知識と生体の変化、手術過程に応じた看護支援について理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	堤かおり、 温井由美	テーマ：周術期の基礎知識と生体の変化 内 容：周術期に関連する基礎知識	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

2	堤かおり、 温井由美	テーマ：周術期の基礎知識と生体の変化 内 容：外科的侵襲から回復期の生体反応	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	堤かおり、 温井由美	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術前の看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	堤かおり、 温井由美	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術中の看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	堤かおり、 温井由美	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術中の看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	堤かおり、 温井由美	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術後合併症予防と発症時の援助	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	堤かおり、 温井由美	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術後合併症予防と発症時の援助	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
8	堤かおり、 温井由美	テーマ：手術過程に応じた看護支援 内 容：術後の継続看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

9	堤かおり、 温井由美	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：シミュレーション学修のための準備	予習：手術をうける患者の看護過程について自己学修 復習：シミュレーション学修に向けて
10	堤かおり、 温井由美	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：呼吸器系に障害のある人の手術	予習：呼吸器系に障害のある人の手術について事前学修 復習：本日の学修内容をまとめておく
11	堤かおり、 温井由美	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：循環器系に障害のある人の手術	予習：循環器系に障害のある人の手術について事前学修 復習：本日の学修内容をまとめておく
12	堤かおり、 温井由美	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：消化代謝系に障害のある人の手術	予習：消化代謝系に障害のある人の手術について事前学修 復習：本日の学修内容をまとめておく
13	堤かおり、 温井由美	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：脳神経系に障害のある人の手術	予習：脳神経系に障害のある人の手術について事前学習 復習：本日の学修内容をまとめておく
14	堤かおり、 温井由美	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：運動器系に障害のある人の手術	予習：運動器系に障害のある人の手術について事前学修 復習：本日の学修内容をまとめておく
15	堤かおり、 温井由美	テーマ：各手術時の看護支援 内 容：シミュレーション学修のまとめ	予習：シミュレーション学修の学びをまとめておく 復習：本日の学修内容をまとめておく

成績評価方法及び基準

演習到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

ナーシング・グラフィカ 成人看護学(4)：周術期看護 (メディカ出版)

オフィスアワー

毎週木曜日 16:20~17:50

履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)

実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人看護学各論ⅠB (急性期：救急看護・クリティカルケア)		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、温井由美			授業形態	演習

到達目標

1. 救急医療の歴史と動向、救急医療体制について説明できる。
2. プレホスピタルケア、救急医療と関連法令について説明できる。
3. 集中治療の歴史・種類と場の特徴について説明できる。
4. 救急医療・集中治療下の患者の特徴について説明できる。
5. 救急医療・集中治療下の患者の家族の特徴について説明できる。
6. 救急医療・集中治療における看護と倫理的な課題について説明できる。
7. 救急患者に対するアセスメント、緊急度と重症度の判断について説明できる。
8. 心肺蘇生と救命処置の方法について説明できる。
9. 救急時のアセスメント・緊急度と重症度の判断・心肺蘇生と救命処置について、演習で実施することができる。
10. クリティカルケアの特徴と基本について、事例を通して理解できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、成人期における緊急を要する危機的状況にある人への看護として、救急看護、クリティカルケアについて理解することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、成人期における緊急を要する危機的状況にある人への看護として、救急看護、クリティカルケアについて学修する。救急看護の基礎知識として、救急医療の歴史と動向、救急医療体制、プレホスピタルケア、救急医療と関連法令、集中治療の現状を学んだ上で、救急医療・集中治療における看護として、救急医療・集中治療下の患者の特徴、救急医療・集中治療下の患者の家族の特徴、救急医療・集中治療における看護について学修する。演習では、救急看護の実際として、救急患者に対するアセスメント、緊急度と重症度の判断、心肺蘇生と救命処置について、シミュレーションで実施する。クリティカルケアとして、脳死状態に陥った患者と臓器移植、急性心筋梗塞、くも膜下出血、急性大動脈解離、意識障害、広範囲熱傷などの事例をとおして、病態・診断・治療を理解し、看護方法をシミュレーションする。

この授業をとおして、成人期の救急看護、クリティカルケアを必要とする人への看護について基礎的な能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	堤かおり、 温井由美	テーマ：救急医療の現状 内 容：救急医療の歴史と動向・救急医療体制	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
2	堤かおり、 温井由美	テーマ：救急医療の現状 内 容：プレホスピタル・救急医療と関連法令	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	堤かおり、 温井由美	テーマ：集中治療の現状 内 容：集中治療の歴史・種類と場の特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	堤かおり、 温井由美	テーマ：救急医療・集中治療における看護 内 容：患者・家族の特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	堤かおり、 温井由美	テーマ：救急医療・集中治療における看護 内 容：看護の概要と倫理	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	堤かおり、 温井由美	テーマ：救急看護の実際 内 容：アセスメント・緊急度と重症度の判断	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	堤かおり、 温井由美	テーマ：救急看護の実際 内 容：アセスメント・緊急度と重症度の判断	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

8	堤かおり、 温井由美	テーマ：救急看護の実際 内 容：心肺蘇生と救命処置	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
9	堤かおり、 温井由美	テーマ：救急看護の実際 内 容：心肺蘇生と救命処置	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
10	堤かおり、 温井由美	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：脳死状態に陥った患者と臓器移植	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
11	堤かおり、 温井由美	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：急性心筋梗塞	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
12	堤かおり、 温井由美	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：くも膜下出血	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
13	堤かおり、 温井由美	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：急性大動脈解離	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
14	堤かおり、 温井由美	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：意識障害	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる

15	堤かおり、 温井由美	テーマ：事例で学ぶクリティカルケア 内 容：広範囲熱傷	予習：事例について 事前学修をする 復習：授業の内容を まとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>看護学テキストNiCE 成人看護学 急性期看護II 救急看護・クリティカルケア (南江堂)</p>			
<p>オフィスアワー 毎週月曜 13:00~14:30</p>			
<p>履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人看護学各論Ⅱ（慢性期）		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	堤かおり			授業形態	演習

到達目標

1. 慢性疾患を有する成人期にある人とその家族が抱えている問題について説明できる。
2. 慢性疾患を有する成人期にある人の身体的、心理的、社会的特徴について説明できる。
3. 慢性疾患を有する成人期にある人への看護の役割、チーム医療について説明できる。
4. 慢性疾患を有する成人期にある人の治療・療養行動にかかわる主な理論・概念について説明できる。
5. 慢性疾患を有する成人期にある人に対する社会資源の活用について説明できる。
6. 主な治療法（インスリン療法・人工透析・ペースメーカー・ステロイド療法・化学療法・放射線療法・内分泌療法・肝動脈塞栓療法）と看護が説明できる。
7. 事例をとおして慢性疾患患者の看護の方法が理解できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、この授業では、慢性疾患を有する成人期にある人の身体的、心理的、社会的特徴を理解し、慢性期看護に必要な知識・技術・態度を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、慢性疾患を有する成人期にある人とその家族が抱えている問題を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、慢性期看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。成人期の発達課題、慢性疾患を有する成人期の人に関する保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や生活習慣病など日本が抱える課題について学ぶ。成人期にある人を取り巻く環境を含め幅広く社会の現状をとらえながら、慢性疾患を有する成人期にある人への看護のあり方を修得する。

この授業をとおして、慢性疾患を有する成人期にある人の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	堤かおり	テーマ：慢性期看護とは 内 容：疾患・治療・療養環境の特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
2	堤かおり	テーマ：慢性期看護とは 内 容：看護の役割・専門職とチーム医療	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	堤かおり	テーマ：慢性疾患を有する人とその家族の理解 内 容：身体的・心理社会的特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	堤かおり	テーマ：慢性疾患を有する人への援助・支援の基本 内 容：治療・療養行動にかかわる主な理論・概念	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	堤かおり	テーマ：慢性疾患を有する人への援助・支援の基本 内 容：治療・療養を促進する支援	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	堤かおり	テーマ：慢性疾患を有する人への援助・支援の基本 内 容：社会資源の活用	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	堤かおり	テーマ：主な治療法と患者の看護 内 容：.インスリン療法・人工透析	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

8	堤かおり	テーマ：主な治療法と患者の看護 内 容：ペースメーカー・ステロイド療法	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
9	堤かおり	テーマ：主な治療法と患者の看護 内 容：化学療法・放射線療法	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
10	堤かおり	テーマ：主な治療法と患者の看護 内 容：内分泌療法・肝動脈塞栓療法	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
11	堤かおり	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護 内 容：呼吸器系の障害を有する人	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
12	堤かおり	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護 内 容：循環器系の障害を有する人	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
13	堤かおり	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護 内 容：消化器系の障害を有する人	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる
14	堤かおり	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護 内 容：代謝・内分泌系の障害を有する人	予習：事例について事前学修をする 復習：授業の内容をまとめる

15	堤かおり	テーマ：事例で学ぶ患者・家族への看護テーマ： 内 容：腎・泌尿器系の障害を有する人	予習：事例について 事前学修をする 復習：授業の内容を まとめる
----	------	--	---

成績評価方法及び基準

演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

看護学テキストNiCE成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える（南江堂）

オフィスアワー

毎週木曜日 16:20~17:50

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	リハビリテーション看護学		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、高田美子			授業形態	演習

到達目標

1. リハビリテーションの定義・目的・歴史について説明できる。
2. 国際生活機能分類について説明できる。
3. ノーマライゼーション・エンパワメントの考え方について説明できる。
4. 術後のリハビリテーションにおける身体機能のメカニズムとアセスメント方法について説明できる。
5. 手術後の早期リハビリテーションの意義と方法について説明できる。
6. 術後リハビリテーションを受ける患者の看護について説明できる。
7. 高齢者のリハビリテーションにおける身体機能のメカニズムとアセスメント方法について説明できる。
8. 高齢者のリハビリテーションにおけるチームアプローチと看護の役割について説明できる。
9. 地域で取り組む高齢者のリハビリテーションについて説明できる。
10. 高齢者のリハビリテーション実施時の留意点について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、リハビリテーションを受ける対象に必要な看護援助を計画・実践できるための基礎的な知識・技術・態度を修得する。対象者の障害の構造を国際生活機能分類（ICF）に基づいて把握し、障害のある人の特徴をふまえた安全・安楽の確保、機能回復を支えるリハビリテーション看護の実際を学ぶ。チーム医療における看護職の役割、他職種との連携の方法と必要性について理解する。

この授業をとおして、リハビリテーションを必要とする人の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	堤かおり	テーマ：リハビリテーションとは 内 容：定義・目的・歴史・領域分類	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	堤かおり	テーマ：リハビリテーションに用いられる主要な概念 内 容：国際生活機能分類・セルフケア・QOL	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	堤かおり	テーマ：リハビリテーションに用いられる主要な概念 内 容：ノーマライゼーション・エンパワメント	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	堤かおり	テーマ：手術後リハビリテーション 内 容：身体機能のメカニズムとアセスメント	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	堤かおり	テーマ：手術後リハビリテーション 内 容：早期リハビリテーションの意義と方法	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	堤かおり	テーマ：手術後リハビリテーション 内 容：術後リハビリテーションを受ける患者の看護	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	堤かおり	テーマ：手術後リハビリテーション 内 容：術後リハビリテーションを受ける患者の看護	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる

8	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：身体機能のメカニズムとアセスメント	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
9	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：チームアプローチと看護の役割	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：地域におけるリハビリテーション	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：加齢とリハビリテーション	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：リハビリテーション開始前の注意	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：経過別リハビリテーションの特徴	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：転倒予防	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる

15	高田美子	テーマ：高齢者のリハビリテーション 内 容：生活リハビリテーション	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p style="text-align: center;">なし プリントを配布します</p>			
<p>オフィスアワー 毎週月曜日 14:40~16:10</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>リハビリテーション看護について、実習もあります。実習で生かされるように積極的に学修してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	高齢者看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○藤本由美子、高田美子			授業形態	講義

到達目標

1. 高齢者の身体的・心理社会的特徴と生活の変化について説明できる。
2. 高齢者の看護に活用できる理論・アプローチについて説明できる。
3. 高齢者の生きがい作り・健康生活の維持に対する支援方法について説明できる。
4. 治療を受ける高齢者への看護について説明できる。
5. 認知症の高齢者への看護について説明できる。
6. 高齢者の看取りと家族への支援について説明できる。
7. 高齢者に対する保健医療福祉に関する制度について説明できる。
8. 高齢者看護の展望と課題について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、高齢者看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、高齢者看護のために必要な基本概念を学び、加齢による身体的、心理的、社会的特徴とそれに伴う生活の変化について理解し、高齢者看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。高齢者の発達課題、高齢者に関する保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や超高齢社会の日本が抱える課題について学ぶ。高齢者を取り巻く環境を含め幅広く超高齢社会の現状をとらえながら、健康長寿社会を目指す日本における、高齢者看護のあり方を修得する。

この授業をとおして、高齢者看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	藤本由美子	テーマ：高齢者看護学を理解するための基盤 内 容：“老い”の意味と高齢者の理解	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
2	藤本由美子	テーマ：高齢者の特徴 内 容：身体機能と心理社会的特徴	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	藤本由美子	テーマ：看護に活用できる理論・アプローチ 内 容：.健康の概念・セルフケア・サクセスフルエイジング・ウェルネスアプローチ	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	藤本由美子	テーマ：看護に活用できる理論・アプローチ 内 容：コンフォート・ライフストーリー・レジリエンス・.エンパワメント・.スピリチュアリティ	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	藤本由美子	テーマ：高齢者の健康生活の支援 内 容：.高齢者の健康生活の維持と支援	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	藤本由美子	テーマ：高齢者の療養生活の支援 内 容：治療を受ける高齢者への看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	藤本由美子	テーマ：認知症の高齢者の支援 内 容：認知症の高齢者への看護	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

8	藤本由美子	テーマ：高齢者の尊厳を支える看護 内 容：看取りと家族への支援	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
9	高田美子	テーマ：高齢者の発達課題 内 容：暮らしと生きがい	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	高田美子	テーマ：保健医療福祉の歴史 内 容：高齢者人口の推移	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	高田美子	テーマ：保健医療福祉の歴史 内 容：高齢者の療養生活と医療制度	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	高田美子	テーマ：保健医療福祉の歴史 内 容：高齢者の介護・福祉施策	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	高田美子	テーマ：高齢者看護の展望 内 容：生かし生かされる地域づくり	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	高田美子	テーマ：高齢者看護の課題 内 容：求められる高齢者ケア	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる

15	高田美子	テーマ：高齢者看護の課題 内 容：高齢者ケアの方向性	予習：授業テーマに関連する資料を読む 復習：授業内容をノートにまとめる
成績評価方法及び基準 定期試験100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 看護学テキストNiCE 老年看護学概論 「老いを生きる」を支えることとは (南江堂)			
オフィスアワー 毎週金曜日 13:00~14:30			
履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ) 看護者は高齢者を対象とすることが多くなっています。予習復習を行い、学びを深めてください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	高齢者看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○藤本由美子、川村小千代、市後昌代、吉村牧子			授業形態	演習

到達目標

1. 加齢変化をとらえるフィジカルアセスメントの技術を演習で実施できる。
2. 高齢者に特徴的な症状について、高齢者の身体・精神機能をふまえた発生のメカニズムについて説明できる。
3. 高齢者に特徴的な症状について、予防方法と発症時の看護方法について説明できる。
特徴的な症状（1）起立・歩行障害、（2）感覚機能障害、（3）摂食・嚥下障害、（4）脱水、（5）低栄養、（6）皮膚トラブル、（7）褥瘡、（8）尿失禁、（9）うつ、（10）寝たきり、（11）せん妄、（12）転倒・骨折

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、高齢者に対するフィジカルアセスメントの技術、高齢者に特徴的な症状に対する予防と看護方法を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、高齢者に対して必要な看護技術について学ぶ。加齢変化をとらえるフィジカルアセスメントの技術を修得する。高齢者に特徴的な症状として、起立・歩行障害、感覚機能障害、摂食・嚥下障害、脱水、低栄養、皮膚トラブル、褥瘡、尿失禁、うつ、寝たきり、せん妄、転倒・骨折について、基礎知識を学び、予防と看護方法について演習を行いながら修得する。
この授業をとおして、高齢者の健康レベルに応じた看護技術を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者の生活と看護 内 容：加齢変化とフィジカルアセスメントの技術	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

2	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者の生活と看護 内 容：加齢変化とフィジカルアセスメントの技術	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
3	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者の生活と看護 内 容：加齢変化とフィジカルアセスメントの技術	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
4	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：起立・歩行障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
5	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：感覚機能障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
6	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：摂食・嚥下障害	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
7	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：脱水	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
8	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：低栄養	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

9	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：皮膚トラブル	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
10	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：褥瘡	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
11	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：尿失禁	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
12	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：うつ	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
13	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：寝たきり	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
14	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：せん妄	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする
15	藤本由美子、 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な症状と看護 内 容：転倒・骨折	予習：該当のテキスト内容をまとめる 復習：授業による学びを追記してノート作りをする

成績評価方法及び基準

演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

看護学テキストNiCE老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する（南江堂）

オフィスアワー

毎週金曜日 10:40~12:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

看護者として必要な演習です。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	高齢者看護学各論Ⅱ		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○高田美子、川村小千代、市後昌代、 吉村牧子			授業形態	演習

到達目標

1. 高齢者に特徴的な疾患の紙上事例について、生活機能に関する加齢変化や、高齢者に特徴的な老年症候群が、高齢者の生活にどのような影響を与えるのかを考慮しながら看護過程の展開ができる。

- (1) 事例の病態生理が説明できる。
- (2) 事例についてアセスメントを実施できる。
- (3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。
- (4) 援助をシミュレーションによって実施する。
- (5) 実施した援助の評価を行う。

2. 高齢者看護に関する動向と課題について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、高齢者の紙上事例を用いて、高齢者の特徴をふまえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、高齢者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護技術をシミュレーションで実施する。生活機能に関する加齢変化や、高齢者に特徴的な老年症候群が、高齢者の生活にどのような影響をもたらすのかという視点で看護過程を展開し、高齢者の状況や健康レベルに応じたケア計画を具体的に実施することによって、看護技術を修得する。この授業をとおして、高齢者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：急性期の看護（胃がん）	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる
2	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：急性期の看護（胃がん）	予習：事例について看護計画を立てる 復習：授業の学びを生かして看護計画を修正する
3	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：リハビリテーション看護（大腿骨頸部骨折）	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる
4	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：リハビリテーション看護（大腿骨頸部骨折）	予習：事例について看護計画を立てる 復習：授業の学びを生かして看護計画を修正する
5	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：慢性期の看護（慢性閉塞性肺疾患）	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる
6	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：慢性期の看護（慢性閉塞性肺疾患）	予習：事例について看護計画を立てる 復習：授業の学びを生かして看護計画を修正する
7	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：認知機能障害の看護（アルツハイマー病）	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる

8	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：認知機能障害の看護（アルツハイマー病）	予習：事例について 看護計画を立てる 復習：授業の学びを 生かして看護計画を 修正する
9	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：緩和ケア（大腸がん）	予習：事例について病 態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
10	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：緩和ケア（大腸がん）	予習：事例について 看護計画を立てる 復習：授業の学びを 生かして看護計画を 修正する
11	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：パーキンソン病の看護	予習：事例について病 態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
12	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：パーキンソン病の看護	予習：事例について 看護計画を立てる 復習：授業の学びを 生かして看護計画を 修正する
13	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：薬物療法を受ける高齢者の看護	予習：事例について病 態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
14	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：高齢者に特徴的な疾患と看護－事例展開 内 容：薬物療法を受ける高齢者の看護	予習：事例について 看護計画を立てる 復習：授業の学びを 生かして看護計画を 修正する
15	高田美子 川村小千代、 市後昌代、 吉村牧子	テーマ：新たな動向と課題 内 容：感染症をめぐる新たな動向と課題	予習：関係する資料 を読む 復習：授業内容をま とめる

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>	
<p>教科書</p> <p>看護学テキストNiCE老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する（南江堂）</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週火曜日 10:40~12:10</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>看護者として必要な演習です。積極的に参加してください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅰ（急性期）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、温井由美、助手			授業形態	実習

到達目標

1. 周手術期の患者1人を受け持ち、指導を受けながら看護過程の展開を実施できる。
 - (1) 手術を控えた患者に対する情報収集・アセスメント・看護問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。
 - (2) 手術前の患者への説明や患者の準備について説明できる。
 - (3) 手術後の療養生活の準備が実施できる。
 - (4) 手術後の患者に対する情報のアセスメント・看護問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。
 - (5) 手術後の患者の状態変化に合わせて、情報のアセスメントを行い、計画を修正することができる。
2. 受け持ち患者の手術にあわせて、手術室・ICUにも同行し、手術前、手術中、手術後の患者への援助の概要を説明できる。
3. 急性期にある患者に対して、適切にアセスメントし、日々変化する患者への看護ケアが指導を受けながら実施できる。
4. 急性期にある患者に対して、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」に基づき、病棟で周手術期にある患者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の手術前後における看護問題を抽出し、計画を立案・実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟で周手術期にある患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、周手術期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。周手術期にある受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の手術前後における看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。

この授業をとおして、手術後という急性期にある患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、急性期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	堤かおり、 温井由美、 助手	病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：「成人看護学 各論ⅠA（急性期：周 手術期）」の授業 ノートを読んでおく 復習：受け持ち患者 の病態生理を調べて まとめる
2 日 目		受け持ち患者担当の看護師へシャドウイング実習 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者 の情報を整理して、 アセスメントする 復習：受け持ち患者 のアセスメントを見 直す
3 日 目		受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち患者 の看護問題を抽出し 看護計画を立てる 復習：看護計画を見 直しておく
4 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施	予習：看護計画実施 に必要な看護技術を 見直しておく 復習：実施した看護 ケアを振り返り、記 録する
5 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 中間カンファレンス、計画の見直し	予習：中間カンファ レンスの準備を行っ ておく 復習：カンファレン スからの学びを整理 しておく

6 日 目	堤かおり、 温井由美、 助手	受け持ち患者の手術見学、ICUにて見学実習 情報収集、術後の看護計画立案	予習：受け持ち患者 の手術と看護につい て調べておく 復習：見学実習から の学びを記録する
7 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 情報収集、計画の見直し	予習：術後の看護計 画を立てる 復習：実施したケア 内容の振り返りを行 い、看護計画を見直 す
8 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 退院に向けた指導を計画・実施	予習：患者指導計画 を立案し準備する 復習：実施した指導 の振り返りを行う
9 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 実施の評価 最終カンファレンス（まとめ）	予習：看護計画実施 の評価を行い、最終 カンファレンスの準 備 復習：カンファレン スでの学びをまとめ る
10 日 目		学びの発表会 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う	予習：学びの発表の 準備 復習：発表会での学 びをまとめる

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>
<p>教科書</p> <p style="text-align: center;">なし 適宜参考図書を紹介する</p>
<p>オフィスアワー</p> <p style="text-align: center;">実習記録及びカンファレンスにて対応する</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○川村小千代、助手			授業形態	実習

到達目標

- 慢性期にある患者1人を受け持ち、指導を受けながら看護過程の展開を実施できる。
 - 慢性期にある患者に対する情報収集・アセスメント・看護問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。
 - 退院後の生活を見越した援助計画の必要性について説明できる。
 - 受け持ち患者の状況に合わせて、退院後の生活に必要な指導を計画し、指導を受けて実施できる。
 - 慢性期にある患者へのチームアプローチの実際を見学する。
- 慢性期にある患者に対して、適切にアセスメントし、患者への看護ケアが指導をうけながら実施できる。
- 慢性期にある患者に対して、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、病棟で慢性期にある患者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の看護問題を抽出し、退院後の生活をふまえて看護計画を立案・実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟で慢性疾患を有する患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、慢性期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。慢性疾患を有する受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。

この授業をとおして、慢性疾患を有する患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、慢性期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	川村小千代 助手	病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：「成人看護学 各論Ⅱ（慢性期）」 の授業ノートを読んで おく 復習：受け持ち患者 の病態生理を調べて まとめる
2 日 目	川村小千代 助手	受け持ち患者担当の看護師へ随行実習 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者 の情報を整理して、 アセスメントする 復習：受け持ち患者 のアセスメントを見 直す
3 日 目	川村小千代 助手	受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち患者 の看護問題を抽出し 看護計画を立てる 復習：看護計画を見 直しておく
4 日 目	川村小千代 助手	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施	予習：看護計画実施 に必要な看護技術を 見直しておく 復習：実施した看護 ケアを振り返り、記 録する

5 日 目	川村小千代 助手	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 中間カンファレンス、計画の見直し	予習：中間カンファ レンスの準備を行っ ておく 復習：カンファレン スからの学びを整理 しておく
6 日 目	川村小千代 助手	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 受け持ち患者への退院後の生活に必要な指導計画につい て、指導看護師・教員へ相談し助言をもらう	予習：受け持ち患者 の退院後の生活に必 要な指導計画を立て る 復習：実施したケア の振り返りを行い記 録する
7 日 目	川村小千代 助手	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 受け持ち患者への指導を実施	予習：受け持ち患者 に必要な指導計画を 助言に従って見直す 復習：実施した指導 の振り返りを行い記 録する
8 日 目	川村小千代 助手	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 指導内容の評価	予習：看護計画実施 に必要な看護技術を 見直しておく 復習：実施した指導 の評価を行い記録す る
9 日 目	川村小千代 助手	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 実施の評価 最終カンファレンス（まとめ）	予習：看護計画実施 の評価を行い、最終 カンファレンスの準 備 復習：カンファレン スでの学びをまとめ る

10 日 目	川村小千代 助手	学びの発表会 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う	予習：学びの発表の 準備 復習：発表会での学 びをまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>			
<p>教科書</p> <p style="text-align: center;">なし 適宜参考図書を紹介する</p>			
<p>オフィスアワー 実習記録及びカンファレンスにて対応する</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリ期）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○高田美子、市後昌代、林史子、吉村牧子			授業形態	実習

到達目標

- リハビリテーションを実施している高齢者の患者1人を受け持ち、指導を受けながら看護過程の展開を実施できる。
 - リハビリテーションを実施している患者に対する情報収集・アセスメント・看護問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。
 - リハビリテーションの目的を理解し、病棟での援助もリハビリテーションの状況をふまえて自立を促すように支援する。
 - 高齢者に特徴的な課題（例えば残存機能の維持・増進、転倒予防、意欲低下予防、地域への復帰、介護保険制度の利用など）を取り上げて、援助を計画する。
 - 受け持ち患者の状況に合わせて、退院後の生活に必要な指導を計画し、指導を受けて実施できる。
- リハビリテーション専門職とのチームアプローチの実際を見学し、連携の重要性について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、病棟でリハビリテーションを実施している高齢患者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の看護問題を抽出し、退院後の生活をふまえて自立を支援する看護計画を立案・実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病院でリハビリテーションを必要としている高齢患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、リハビリテーション期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。リハビリテーションを必要とする高齢受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者のリハビリテーションにおける看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。残存機能の維持・増進、転倒予防、意欲低下予防、地域への復帰、介護保険制度の利用など、高齢者の特徴をふまえてリハビリテーションを支える看護を体験する。

この授業をとおして、リハビリテーションを必要とする高齢患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、回復期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	高田美子、 市後昌代、 林史子、 吉村牧子	病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：「リハビリ テーション看護学」 の授業ノートを読んで おく 復習：受け持ち患者 の病態生理を調べて まとめる
2 日 目		受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 受け持ち患者のリハビリテーションに同行 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者 の情報を整理して、 アセスメントする 復習：受け持ち患者 のリハビリテーショ ンの目的・目標をア セスメントから理解 する
3 日 目		受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 受け持ち患者のリハビリテーションに同行 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち患者 の看護問題を抽出し 看護計画を立てる 復習：リハビリテー ションに関連した看 護計画を見直してお く
4 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 受け持ち患者のリハビリテーションに同行	予習：看護計画実施 に必要な看護技術を 見直しておく 復習：実施した看護 ケアを振り返り、記 録する
5 日 目		自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施 受け持ち患者のリハビリテーションに同行 中間カンファレンス、計画の見直し	予習：中間カンファ レンスの準備を行っ ておく 復習：カンファレン スからの学びを整理 しておく

6 日 目		<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>受け持ち患者のリハビリテーションに同行</p> <p>受け持ち患者への看護計画で高齢者に特徴的な支援（例えば残存機能の維持・増進、転倒予防、意欲低下予防、地域への復帰、介護保険制度の利用など）を取り上げて、指導看護師・教員へ相談し、支援方法について助言をもらう</p>	<p>予習：受け持ち患者の高齢者に特徴的な支援について実施計画を立てる</p> <p>復習：実施したケアの振り返りを行い記録する</p>
7 日 目		<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>受け持ち患者のリハビリテーションに同行</p> <p>助言をもらった支援について、看護師の指導のもと実施</p>	<p>予習：高齢期にある受け持ち患者に必要な看護計画を助言に従って見直す</p> <p>復習：実施した指導の振り返りを行い記録する</p>
8 日 目	高田美子、市後昌代、林史子、吉村牧子	<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>受け持ち患者のリハビリテーションに同行</p> <p>支援内容の評価</p>	<p>予習：看護計画実施に必要な看護技術を見直しておく</p> <p>復習：実施した指導の評価を行い記録する</p>
9 日 目		<p>自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施</p> <p>実施の評価</p> <p>受け持ち患者のリハビリテーションに同行</p> <p>最終カンファレンス（まとめ）</p>	<p>予習：看護計画実施の評価を行い、最終カンファレンスの準備</p> <p>復習：カンファレンスでの学びをまとめる</p>
10 日 目		<p>学びの発表会</p> <p>実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う</p>	<p>予習：学びの発表の準備</p> <p>復習：発表会での学びをまとめる</p>

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>
<p>教科書</p> <p style="text-align: center;">なし 適宜参考図書を紹介する</p>
<p>オフィスアワー</p> <p style="text-align: center;">実習記録及びカンファレンスにて対応する</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○藤本由美子、市後昌代、林史子、吉村牧子			授業形態	実習

到達目標

1. 施設に入所している高齢者を1人を受け持ち、指導を受けながら看護過程の展開を実施できる。
 (1) 高齢者に対する情報収集・アセスメント・生活上の問題の抽出・計画立案・実施・評価を行う。
 (2) 認知症のある高齢者への対応、残存機能の維持・増進、転倒予防、誤嚥予防、いきがい作りなど、入所高齢者の特徴をふまえて、対象者の生活を支える支援を実施する。
2. 高齢者の特徴を踏まえたコミュニケーションを図ることができる。
3. 施設利用者の家族状況について説明できる。
4. 看護職の役割について説明できる。
5. 介護職の役割について説明できる。
6. 施設の環境面での配慮について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」に基づき、施設に入所している高齢者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち患者の生活上の問題を抽出し、高齢者の生活を支える安全・安楽で、自立に向けた援助を實踐する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、高齢者入所施設において、高齢者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、高齢者とその家族について理解し、状況に応じた適切な生活支援を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。入所高齢者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、受け持ち高齢者における生活上の問題を抽出し、計画を立案・実践する。認知症のある高齢者への対応、残存機能の維持・増進、転倒予防、誤嚥予防、いきがい作りなど、入所高齢者の特徴をふまえて、対象者を支える支援を体験する。

この授業をとおして、入所高齢者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、高齢者における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を實施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	【介護老人保健施設】 施設オリエンテーション 施設見学 担当する高齢者の紹介・高齢者の情報収集	予習：介護老人保健施設について調べる 復習：担当高齢者の情報を整理しておく
2 日 目	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 リハビリテーションの見学 担当高齢者の情報整理・アセスメント	予習：担当高齢者の情報を整理して、アセスメントする 復習：担当高齢者への援助方法を振り返る
3 日 目	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 リハビリテーションの見学・施設の行事への参加 担当高齢者の生活上の問題の明確化・援助計画の立案	予習：担当高齢者の生活上の問題を抽出し援助計画を立てる 復習：担当高齢者の個別性に合わせた計画になっているか援助計画を見直しておく
4 日 目	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 リハビリテーションの見学 自分が立案した援助計画について、指導のもと実施	予習：担当高齢者に必要な援助技術を見直しておく 復習：実施した援助を振り返り、記録する

5	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 自分が立案した援助計画について、指導のもと実施・評価 まとめのカンファレンス	予習：まとめのカンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
6	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	【介護老人福祉施設】 施設オリエンテーション 施設見学 担当する高齢者の紹介・高齢者の情報収集	予習：介護老人福祉施設について調べる 復習：担当高齢者の情報を整理しておく
7	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助（入浴、排泄、食事等の介護や、機能訓練、健康管理および療養上の世話）を実施 担当高齢者の情報整理・アセスメント	予習：担当高齢者の情報を整理して、アセスメントする 復習：担当高齢者への援助方法を振り返る
8	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 担当高齢者の生活上の問題の明確化・援助計画の立案	予習：担当高齢者の生活上の問題を抽出し援助計画を立てる 復習：担当高齢者の個別性に合わせた計画になっているか援助計画を見直しておく
9	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 自分が立案した援助計画について、指導のもと実施	予習：担当高齢者に必要な援助技術を見直しておく 復習：実施した援助を振り返り、記録する

10 日 目	藤本由美子 市後昌代 林史子 吉村牧子	高齢者施設のスケジュールにあわせて、指導のもと援助を実施 自分が立案した援助計画について、指導のもと実施・評価 まよめのカンファレンス	予習：まよめのカンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまよめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>			
<p>教科書</p> <p style="text-align: center;">なし 適宜参考図書を紹介する</p>			
<p>オフィスアワー 実習記録及びカンファレンスにて対応する</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科

講義コード		講義名	成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携）		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○高田美子、池西和哉、鷺野貴子			授業形態	実習

到達目標

1. 退院支援を必要としている高齢患者を1人を受け持ち、指導を受けながら退院支援に関する看護過程の展開を実施できる。
2. 受け持ち患者に対して、適切にアセスメントし、必要な退院支援が指導をうけながら実施できる。
3. 退院支援センターの必要性・機能・役割について説明できる。
4. 退院調整看護師や福祉の専門職による退院支援に対するチームアプローチや地域連携の実際を体験的に理解する。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」に基づき、退院支援を必要とする高齢患者1人を受け持ち、看護過程を展開することと、退院支援・地域連携に関わるスタッフの役割を知ることによって、退院支援・地域連携を行うために必要な看護実践能力を修得することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、入院中で退院支援を必要とする高齢患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって、退院支援を必要としている高齢患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な退院支援を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。入院時から退院後を想定した援助方法の工夫、退院後を意識した指導、高齢者・家族の意思確認、地域で支える専門職とのミーティングなど、退院支援について受け持ち患者をとおして学ぶ。

この授業をとおして、退院支援を必要とする高齢患者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、退院後に向けた、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	高田美子、 池西和哉、 鷺野貴子	【見学実習】 和歌山県立医科大学附属病院患者支援センターの見学実習	予習：患者支援センターの役割について調べる 復習：見学からの学びを整理しておく
2 日 目	高田美子、 池西和哉、 鷺野貴子	【病棟実習】 病棟オリエンテーション 退院支援を必要としている高齢の患者を1人受け持ち、 情報収集を行う 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：退院調整看護師について調べておく 復習：受け持ち患者の情報を整理して、アセスメントする
3 日 目	高田美子、 池西和哉、 鷺野貴子	受け持ち患者の看護ケアを看護師の指導のもと行う 受け持ち患者の退院支援に関わる問題の明確化・支援計画の立案 退院調整看護師、ソーシャルワーカーによる退院支援・ 地域連携活動に同行して見学する	予習：受け持ち患者の退院支援に関わる問題を抽出し支援計画を立てる 復習：退院調整について見学した学びをまとめる
4 日 目	高田美子、 池西和哉、 鷺野貴子	受け持ち患者の支援計画を看護師の指導のもと実施する 退院調整看護師、ソーシャルワーカーによる退院支援・ 地域連携活動に同行して見学する	予習：受け持ち患者への支援計画に必要な援助技術を見直ししておく 復習：実施した支援を振り返り、記録する

5 日 目	高田美子、 池西和哉、 鷺野貴子	自分が立案した支援計画について、指導のもと実施・評価 退院調整看護師、ソーシャルワーカーによる退院支援・地域連携活動に同行して見学する まとめのカンファレンス	予習：まとめのカンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>			
<p>教科書</p> <p style="text-align: center;">なし 適宜参考図書を紹介する</p>			
<p>オフィスアワー 実習記録及びカンファレンスにて対応する</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	小児看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	下村明子			授業形態	講義
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児に関する基本的な法律・施策、権利擁護の原則について説明できる。 2. 小児の成長・発達に応じた看護の基本について説明できる。 3. 小児に多い症状に対するアセスメントと看護方法の基本について説明できる。 4. 小児の状況に応じた、小児と家族への看護の原則について説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 外来における小児と家族の看護 (2) 入院における小児と家族の看護 (3) 在宅療養している小児と家族の看護 (4) 検査・処置を受ける小児と家族の看護 (5) 手術を受ける小児と家族の看護 (6) 救急における小児と家族の看護 5. 特別な支援を必要とする小児と家族への、基本的な看護方法を説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 先天性障害をもつ小児と家族の看護 (2) がんの小児と家族の看護 (3) 身体障害のある小児と家族の看護 (4) 発達障害のある小児と家族の看護 (5) 感染症をもつ小児と家族の看護 (6) 児童虐待を受けた小児と家族の看護 5. 小児看護の展望について説明できる。 <p>【ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、小児看護の対象である子どもと家族の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。</p>					
<p>授業概要</p> <p>この授業では、小児看護の対象である子どもと家族の特徴ならびに子どもを取り巻く社会・医療・家族・環境状況について学び、小児看護の役割について理解する。小児看護の対象者を理解し、小児に関する法律や政策、子どもの権利擁護について学ぶ。健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響について知り、健康障害や小児各期に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。</p> <p>この授業をとおして、小児看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。</p>					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	下村明子	テーマ：小児看護を実践するための基礎知識 内 容：小児看護とは 小児看護の移り変わり－歴史の変遷と課題 小児の人権	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
2	下村明子	テーマ：小児看護を実践するための基礎知識 内 容：小児看護における理論 小児看護における法律 遊びと教育 小児と家族	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	下村明子	テーマ：小児の病気・事故の予防と健康増進 内 容：健康増進に向けた政策	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	下村明子	テーマ：小児の病気・事故の予防と健康増進 内 容：健康増進のための社会制度－社会資源の活用	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	下村明子	テーマ：小児の成長・発達と看護 内 容：成長・発達の基礎知識 新生児期の看護 乳児期の看護 幼児期の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	下村明子	テーマ：小児の成長・発達と看護 内 容：学童期の看護 思春期の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	下村明子	テーマ：症状別にみる小児の看護 内 容：痛み、発熱、脱水、嘔吐	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

8	下村明子	テーマ：症状別にみる小児の看護 内 容：下痢、発疹、呼吸困難、けいれん	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
9	下村明子	テーマ：状況別にみる小児と家族の看護 内 容：外来における小児と家族の看護 入院における小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	下村明子	テーマ：状況別にみる小児と家族の看護 内 容：在宅療養している小児と家族の看護 検査・処置を受ける小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	下村明子	テーマ：状況別にみる小児と家族の看護 内 容：手術を受ける小児と家族の看護 救急における小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	下村明子	テーマ：特別な支援を必要とする小児と家族の看護 内 容：先天性障害をもつ小児と家族の看護 がんの小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	下村明子	テーマ：特別な支援を必要とする小児と家族の看護 内 容：身体障害のある小児と家族の看護 発達障害のある小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	下村明子	テーマ：特別な支援を必要とする小児と家族の看護 内 容：感染症をもつ小児と家族の看護 児童虐待を受けた小児と家族の看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

15	下村明子	テーマ：これからの小児看護 内 容：小児看護と専門看護師、研究、海外における小児看護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
成績評価方法及び基準 定期試験100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 看護学テキストNiCE 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助 (南江堂)			
オフィスアワー 毎週木曜日 10:40~12:10			
履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ) 小児看護学の実習に必要な内容です。しっかり予習・復習をして授業にのぞんでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	小児看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○下村明子、羽畑正孝			授業形態	演習

到達目標

1. 小児に対するアセスメント技術の基本が演習で実施できる。
2. 小児に対するコミュニケーション技術（プレパレーション）の基本が演習で実施できる。
3. 小児に対する検査・処置技術の基本が演習で実施できる。
4. 小児に対する日常生活援助技術の基本が演習で実施できる。
5. 小児の救急救命処置技術について、基本が演習で実施できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、小児の患者に対して必要な看護技術について学び、小児の発達段階と特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、小児の患者に対して必要な看護技術について学ぶ。アセスメント技術として、健康歴の聴取、小児のバイタルサイン測定、身体計測、コミュニケーション技術（プレパレーション）、検査・処置技術、日常生活援助技術（食事、清潔・衣生活、排泄、呼吸、移動、環境調整）、救急救命処置技術について、基礎知識を学び、小児の発達段階と特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得する。

この授業をとおして、小児の障害や健康レベルに応じた看護技術を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	下村明子 羽畑正孝	テーマ：アセスメント技術 内 容：健康歴の聴取	予習：実施する技術の 手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。

2	下村明子 羽畑正孝	テーマ：：アセスメント技術 内 容：全身状態の把握	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
3	下村明子 羽畑正孝	テーマ：：アセスメント技術 内 容：身体計測	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
4	下村明子 羽畑正孝	テーマ：コミュニケーション技術 内 容：プレパレーション	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
5	下村明子 羽畑正孝	テーマ：検査・処置技術 内 容：採血、採尿・導尿	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
6	下村明子 羽畑正孝	テーマ：検査・処置技術 内 容：骨髄穿刺・腰椎穿刺	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。

7	下村明子 羽畑正孝	テーマ：検査・処置技術 内 容：与薬・注射・点滴	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
8	下村明子 羽畑正孝	テーマ：検査・処置技術 内 容：与薬・注射・点滴	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
9	下村明子 羽畑正孝	テーマ：検査・処置技術 内 容：与薬・注射・点滴	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
10	下村明子 羽畑正孝	テーマ：検査・処置技術 内 容：吸入・酸素療法・抑制	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
11	下村明子 羽畑正孝	テーマ：日常生活援助技術 内 容：食事の援助技術	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。

12	下村明子 羽畑正孝	テーマ：日常生活援助技術 内 容：清潔・衣生活の援助技術	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
13	下村明子 羽畑正孝	テーマ：日常生活援助技術 内 容：排泄の援助技術	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
14	下村明子 羽畑正孝	テーマ：日常生活援助技術 内 容：移動の援助技術、環境調整の技術	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
15	下村明子 羽畑正孝	テーマ：救急救命処置技術 内 容：一次救命処置、二次救命処置	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>	
<p>教科書</p> <p>看護学テキストNiCE 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技（南江堂）</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週金曜日 13:00~14:30</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	小児看護学各論Ⅱ		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○下村明子、羽畑正孝			授業形態	演習

到達目標

1. 小児患者の紙上事例について、小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について、子どもの成長・発達段階の特徴を踏まえて看護過程の展開ができる。

- (1) 事例の病態生理が説明できる。
- (2) 事例についてアセスメントを実施できる。
- (3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。
- (4) 援助をシミュレーションによって実施する。
- (5) 実施した援助の評価を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、小児の紙上事例を用いて、小児とその家族の特徴をふまえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、小児の患者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護技術をシミュレーションで実施する。小児期の健康問題が子どもと家族に及ぼす影響や問題について、子どもの成長・発達段階の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を、小児期に罹患することが多い疾病を事例にあげ看護過程を展開することによって修得する。

この授業をとおして、成長発達をふまえて小児の患者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：熱傷で入院している1歳6ヵ月の男児への看護	予習：事例について病態生理をまとめる 復習：授業内容をまとめる

2	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：熱傷で入院している1歳6ヵ月の男児への看護	予習：事例について 情報を整理する 復習：授業内容をま とめる
3	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：熱傷で入院している1歳6ヵ月の男児への看護	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる
4	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：先天性心疾患をもつ乳児と家族への看護	予習：事例について 病態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
5	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：先天性心疾患をもつ乳児と家族への看護	予習：事例について 情報を整理する 復習：授業内容をま とめる
6	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：先天性心疾患をもつ乳児と家族への看護	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる
7	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：小児1型糖尿病で教育入院となった学童への看護	予習：事例について病 態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
8	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：小児1型糖尿病で教育入院となった学童への看護	予習：事例について 情報を整理する 復習：授業内容をま とめる

9	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：小児1型糖尿病で教育入院となった学童への看護	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる
10	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：化学療法を受ける小児と罪悪感をもつ家族への 看護	予習：事例について 病態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
11	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：化学療法を受ける小児と罪悪感をもつ家族への 看護	予習：事例について 情報を整理する 復習：授業内容をま とめる
12	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：化学療法を受ける小児と罪悪感をもつ家族への 看護	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる
13	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（病態生理の理解） 内 容：発達障害の小学生と家族への看護	予習：事例について 病態生理をまとめる 復習：授業内容をま とめる
14	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（アセスメント） 内 容：発達障害の小学生と家族への看護	予習：事例について 情報を整理する 復習：授業内容をま とめる
15	下村明子 羽畑正孝	テーマ：小児患者の事例展開（介入・評価） 内 容：発達障害の小学生と家族への看護	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる

成績評価方法及び基準

演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

看護学テキストNiCE 小児看護学概論 子どもと家族に寄り添う援助 (南江堂)

看護学テキストNiCE 小児看護技術 子どもと家族の力をひきだす技 (南江堂)

オフィスアワー

毎週木曜日4限 14:40~16:10

履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)

看護者として必要な演習です。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	小児看護学実習		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○下村明子、羽畑正孝			授業形態	実習

到達目標

1. 健康な小児と接し、小児の成長発達の状況を説明できる。
2. 小児の成長・発達に応じた日常生活の援助を実施できる。
3. 小児の成長・発達に応じたコミュニケーションを図ることができる。
4. 支援学校の見学を通して、学習上または生活上の困難を克服しながら通学をしている子どもへの支援のあり方を説明できる。
5. 入院している小児を1人受け持ち、小児の発達段階・疾患・家族への理解を深めながら看護過程を展開できる。
 - (1) 疾患が小児の成長・発達にどのような影響を与えるかを予測することができる。
 - (2) 患者の成長・発達段階に応じた具体的な看護計画を立案できる。
 - (3) 患者の成長・発達段階と家族のニーズを考慮した看護実践できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、健康な小児の成長・発達を理解した上で、病棟で小児の患者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、看護問題を抽出し、小児の成長・発達を考慮した看護計画を立案・実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

この授業では、病棟で小児の患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって小児期にある患者とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。小児の受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。健康な小児と接し、小児の健康な成長発達の状況を学ぶ。支援学校へ通う子どもたちと接し、障害を持ちながら地域で通学する子どもへの支援のあり方を知る。この授業をとおして、小児の患者や家族のニーズを知り、看護過程の展開を通して、小児期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1 日 目	下村明子 羽畑正孝	【幼稚園・保育所】 施設オリエンテーション 施設見学	予習：幼稚園・保育所について調べる 復習：オリエンテーション内容を整理しておく
2 日 目	下村明子 羽畑正孝	幼稚園・保育所のスケジュールにあわせて、指導のもと 幼児と接する	予習：健康な小児の何をみたいのか、実習の視点をまとめる 復習：実習での学びを振り返る
3 日 目	下村明子 羽畑正孝	幼稚園・保育所のスケジュールにあわせて、指導のもと 幼児と接する	予習：健康な小児への関わり方をみておく 復習：実施した関わりを振り返り、記録
4 日 目	下村明子 羽畑正孝	幼稚園・保育所のスケジュールにあわせて、指導のもと 幼児と接する スタッフの方参加のもと、まとめの会（実習での学びや 反省点を発表し助言をもらう）	予習：実習での学びをまとめておく 復習：まとめの会から学んだことを整理する
5 日 目	下村明子 羽畑正孝	【支援学校】 支援学校のオリエンテーション 施設および授業の見学	予習：支援学校について調べておく 復習：見学実習による学びを整理しておく
6 日 目	下村明子 羽畑正孝	【小児病棟】 病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：小児病棟の特徴について調べる 復習：受け持ち患者の病態生理を整理しておく
7 日 目	下村明子 羽畑正孝	受け持ち患者担当の看護師へ随実習 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者の情報を整理して、アセスメントする 復習：受け持ち患者への援助方法を振り

8 日 目	下村明子 羽畑正孝	受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案 (優先順位の高い看護問題について、計画を立案し実施する)	予習：受け持ち患者の看護上の問題を抽出し看護計画を立てる 復習：受け持ち患者が小児であることに合わせた計画になっているか看護計画を
9 日 目	下村明子 羽畑正孝	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施	予習：小児に合わせた援助技術を見直ししておく 復習：実施した援助を振り返り、記録す
10 日 目	下村明子 羽畑正孝	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施・評価 最終カンファレンス（まとめ）	予習：まとめのカンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
成績評価方法及び基準 評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜参考図書を紹介する			
オフィスアワー		実習記録及びカンファレンスにて対応する	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	母性看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	貞岡美伸			授業形態	講義

到達目標

1. 母性看護における理論・概念について概要を説明できる。
2. 母子保健統計と社会資源について概要が説明できる。
3. 生殖に関する形態機能とライフサイクルについて説明できる。
4. 性と生殖をめぐる健康支援の方法について基本を説明できる。
5. 性と生殖をめぐる倫理的課題について概要を説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、母性看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、母性看護のために必要な基本概念を学び、対象者を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、母性看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。母性看護からみた親子・家族関係、親役割獲得、家族移行のプロセス、出産をめぐる歴史、倫理的問題、母子をとりまく文化・社会、ヘルスプロモーションについて学び、母性看護をとりまく現状と課題について学ぶ。対象者の健康状態に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。

この授業をとおして、母性看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	貞岡美伸	テーマ：母性看護学の概念 内 容：母性看護学の基盤となる理論と概念	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

2	貞岡美伸	テーマ：親になること 内 容：親子・家族関係、親役割の獲得	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	貞岡美伸	テーマ：親になること 内 容：家族移行のプロセス、出産の歴史	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	貞岡美伸	テーマ：母子保健統計と社会資源 内 容：母子保健統計、母子をとりまく文化・社会	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	貞岡美伸	テーマ：母子保健統計と社会資源 内 容：母子にかかわる法律と社会資源	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	貞岡美伸	テーマ：生殖に関する形態機能とライフサイクル 内 容：発生・遺伝・性分化のメカニズム	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	貞岡美伸	テーマ：生殖に関する形態機能とライフサイクル 内 容：生殖器の形態と機能、社会心理的特性	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	貞岡美伸	テーマ：性と生殖をめぐる倫理的課題 内 容：性と生殖をめぐる倫理的課題の特徴	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

9	貞岡美伸	テーマ：性と生殖をめぐる倫理的課題 内 容：倫理的課題にアプローチする	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：女性のライフサイクルの全体像	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：思春期	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：成熟期	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：更年期	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	貞岡美伸	テーマ：ライフサイクルにおける性と生殖をめぐる健康支援・女性への看護の視点とヘルスプロモーション 内 容：老年期	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	貞岡美伸	テーマ：母性看護学をとりまく現状と課題 内 容：母性看護学領域の活動の発展、国際化	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験100%で評価し60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

看護学テキストNiCE 母性看護学I 概論・ライフサイクル 生涯を通じた性と生殖の健康を支える
(南江堂)

オフィスアワー

毎週金曜日2限 10:40~12:10

履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)

母性看護学の実習に必要な内容です。しっかり予習・復習をして授業にのぞんでください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	母性看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸、北出千春、木野寛子			授業形態	演習
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期の生理的変化と胎児の健康状態に関するアセスメントと看護の方法が演習で実施できる。 2. 正常分娩のアセスメント、正常経過からの逸脱のアセスメントと看護の方法が演習で実施できる。 3. 産褥期のアセスメント、正常経過からの逸脱のアセスメントと看護の方法が演習で実施できる。 4. 新生児のアセスメント看護の方法が演習で実施できる。 <p>【ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、周産期の対象者と新生児の健康レベルに応じた看護の方法を身に付けることを目指す科目である。</p>					
<p>授業概要</p> <p>この授業では、周産期の対象者に対して必要な看護技術について学ぶ。妊娠期の看護技術として、妊娠に伴う生理的変化と胎児の健康状態に関するアセスメント、ハイリスク妊婦への支援、分娩期の看護技術として、正常分娩の経過とアセスメント、正常経過からの逸脱とアセスメント、出生直後の新生児のアセスメント、褥婦の正常経過からの逸脱とアセスメント、新生児のアセスメントと支援方法について、基礎知識を学び、周産期の各期の特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得する。</p> <p>この授業をとおして、周産期の対象者と新生児の健康レベルに応じた看護技術を身に付ける。</p>					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：妊娠期の看護 内 容：妊娠に伴う生理的变化と胎児の健康状態に関するアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
2	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：妊娠期の看護 内 容：親になっていく過程のアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
3	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：妊娠期の看護 内 容：ハイリスク妊婦への看護の実際	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
4	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：分娩期の看護 内 容：正常分娩の経過とアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

5	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：分娩期の看護 内 容：分娩期の正常経過からの逸脱と看護	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
6	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：分娩期の看護 内 容：出生直後の新生児・ 家族のアセスメントと 援助	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
7	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：産褥期の看護 内 容：産褥期の身体状態 のアセスメントと援助	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
8	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：産褥期の看護 内 容：親になっていく過 程のアセスメントと援助	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。
9	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：産褥期の看護 内 容：褥婦の正常経過 からの逸脱と援助	予習：実施する技術の 手順や留意点をノートに まとめる 復習：授業で理解した ことをノートに追記し、 演習ノートを作成する。

10	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：産褥期の看護 内 容：生まれた子どもが障害をもつ家族の援助，子どもを亡くした家族の援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
11	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：帝王切開を受ける妊産褥婦への看護 内 容：帝王切開時の看護	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
12	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：新生児の看護 内 容：新生児の子宮外生活適応のアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：新生児の看護 内 容：新生児の発達状況のアセスメントと援助	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
14	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：新生児の看護 内 容：新生児の健康問題と看護	予習：実施する技術の手順や留意点をノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

15	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：新生児の看護 内 容：新生児の事故防止と安全	予習：実施する技術 の手順や留意点を ノートにまとめる 復習：授業で理解し たことをノートに追 記し、演習ノートを 作成する。
成績評価方法及び基準 演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60% 以上の評価で単位を認定する。 レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする			
教科書 看護学テキストNiCE 母性看護学II マタニティサイクル 母と子そして家族へのよりよい看護実 践（南江堂）			
オフィスアワー 毎週金曜日4限 14：40～16：10			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	母性看護学各論Ⅱ		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸、北出千春、木野寛子			授業形態	演習

到達目標

1. 周産期にある対象者の紙上事例について、周産期の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、周産期の特徴を踏まえて看護過程の展開ができる。

- (1) 事例の病態生理が説明できる。
- (2) 事例についてアセスメントを実施できる。
- (3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。
- (4) 援助をシミュレーションによって実施する。
- (5) 実施した援助の評価を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、周産期にある対象者の紙上事例を用いて、対象者の特徴をふまえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、周産期の対象者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護技術をシミュレーションで実施する。ハイリスク妊婦、分娩の正常経過からの逸脱、褥婦の正常経過からの逸脱など、周産期の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、周産期の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を修得する。

この授業をとおして、周産期の対象者と新生児の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：事例展開①病態生理の理解、情報の整理・アセスメント	予習：事例について 情報を整理しておく 復習：授業内容をま とめる

2	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：事例展開②看護上の問題の明確	予習：事例について 看護上の問題を抽出 しておく 復習：授業内容をま とめる
3	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：事例展開③看護計画の立案・評価	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる
4	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：看護過程の展開の発表	予習：事例について 看護を発表できるよ うに準備をする 復習：授業内容をま とめる
5	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：妊娠32週で入院となった妊娠中毒症妊婦 内 容：看護過程の展開について意見交換・検討会	予習：事例展開に対 する自分の意見をま とめる 復習：授業内容をま とめる
6	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：事例展開①病態生理の理解、情報の整理・アセ スメント	予習：事例について 情報を整理しておく 復習：授業内容をま とめる
7	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：事例展開②看護上の問題の明確	予習：事例について 看護上の問題を抽出 しておく 復習：授業内容をま とめる
8	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：事例展開③看護計画の立案・評価	予習：事例について 介入方法を考えてま とめる 復習：授業内容をま とめる

9	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：看護過程の展開の発表	予習：事例について看護を発表できるように準備をする 復習：授業内容をまとめる
10	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：緊急帝王切開になった初産婦 内 容：看護過程の展開について意見交換・検討会	予習：事例展開に対する自分の意見をまとめる 復習：授業内容をまとめる
11	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：事例展開①情報の整理・アセスメント	予習：事例について情報を整理しておく 復習：授業内容をまとめる
12	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：事例展開②看護上の問題の明確	予習：事例について看護上の問題を抽出しておく 復習：授業内容をまとめる
13	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：事例展開③看護計画の立案・評価	予習：事例について介入方法を考えてまとめる 復習：授業内容をまとめる
14	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：看護過程の展開の発表	予習：事例について看護を発表できるように準備をする 復習：授業内容をまとめる
15	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	テーマ：児への愛着形成・親役割獲得が困難な褥婦 内 容：看護過程の展開について意見交換・検討会	予習：事例展開に対する自分の意見をまとめる 復習：授業内容をまとめる

成績評価方法及び基準

演習での到達状況 20%、課題レポート 20%、定期試験 60%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする

教科書

事例で学ぶ看護学 事例で学ぶ母性看護学（メヂカルフレンド社）

オフィスアワー

毎週火曜日3限 13:00~14:30

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

看護者として必要な演習です。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	母性看護学実習		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸、北出千春、木野寛子			授業形態	実習

到達目標

1. 妊娠期・分娩期・産褥期にある対象者を1人受け持ち、アセスメントを行い、看護過程を展開する。
 - (1) 情報の分析から、ケアニーズを抽出できる。
 - (2) ウェルネスの視点を適切に取り入れることができる。
 - (3) 周産期にある人の特徴と家族を含めた援助の方法を理解する。
2. 生命の尊厳に触れて、生命の大切さを涵養する。
3. 産婦人科外来の実習をとおして、通院する対象者へのケアについて知る。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎ (3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、周産期にある対象者1人を受け持ち、情報を収集し、アセスメントを行い、ウェルネスの視点を適切に取り入れてケアニーズを抽出し、新生児も含めて退院後の生活を考慮した看護計画を立案・実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟で周産期にある対象者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって周産期にある人とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。周産期にある対象者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、周産期を安全・安楽に経過するための支援方法を計画し、実践する。

この授業をとおして、周産期にある対象者のニーズを知り、看護過程の展開を通して、周産期における、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	【病棟】 病棟オリエンテーション 受け持ちする対象者の紹介・患者の情報収集	予習：「母性看護学各論Ⅱ」の授業ノートを読んでおく 復習：オリエンテーションの内容をまとめる

2 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	受け持ち対象者担当の助産師/看護師へ随行実習 受け持ち対象者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち対象者の情報を整理して、アセスメントする 復習：受け持ち対象者のアセスメントを
3 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	受け持ち対象者のケアを助産師/看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち対象者の看護問題を抽出し看護計画を立てる 復習：看護計画を見直しておく
4 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを助産師/看護師とともに実施	予習：看護計画実施に必要な看護技術を見直しておく 復習：実施した看護ケアを振り返り、記録する
5 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを助産師/看護師とともに実施 中間カンファレンス、計画の見直し ※出産に伴って、産後の計画立案を行う	予習：中間カンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
6 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを助産師/看護師とともに実施 授乳・沐浴など新生児へのケアについて計画し、指導助産師/看護師・教員へ相談し助言をもらう	予習：出産に伴い必要となってくる新生児ケアについて看護計画を立てる 復習：実施したケアの振り返りを行い記

7 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	自分が立案した受け持ち対象者・新生児の看護計画に従って、看護ケアを助産師/看護師とともに実施 新生児への看護ケアを助産師/看護師とともに実施	予習：受け持ち患者と新生児に必要な看護計画を助言に従って見直す 復習：実施した指導の振り返りを行い記録する
8 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施 指導内容の評価	予習：看護計画実施に必要な看護技術を見直しておく 復習：実施した指導の評価を行い記録する
9 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	自分が立案した受け持ち対象者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施 実施の評価 最終カンファレンス（まとめ）	予習：看護計画実施の評価を行い、最終カンファレンスの準備 復習：カンファレンスでの学びをまとめる
10 日 目	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	学びの発表会 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う	予習：学びの発表の準備 復習：発表会での学びをまとめる
	貞岡美伸 北出千春 木野寛子	【産婦人科外来】 対象者を受け持ち、支援を受けながら看護過程を展開するが、受け持ちの状況をみながら、実習中に順次、産婦人科外来2日間を計画する。	予習：外来の役割を調べておき 復習：学びをまとめる

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>	
<p>教科書</p> <p>なし 適宜参考図書を紹介する</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>実習記録及びカンファレンスにて対応する</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	精神看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	山本明弘			授業形態	講義

到達目標

1. ライフサイクルにおける対象者個人及び家族の精神発達やメンタルヘルス上の課題について説明できる。
2. 精神医療の歴史と看護について概要を説明できる。
3. 精神看護における看護の倫理と人権擁護について説明できる。
4. 精神保健医療に関わる法制度の変遷と現在の法制度について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。」「◎(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、精神看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、精神看護のために必要な基本概念を学び、対象者を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、精神看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。日本における精神保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷や日本が抱える課題、精神看護からみたライフサイクルにおける対象者個人及び家族の精神発達やメンタルヘルス上の課題について理解する。患者の人権と安全を守りながら、心の健康状態に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。この授業をとおして、精神看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習及び課題
1	山本明弘	テーマ：精神障害についての基本的な考え方 内 容：障害のとらえ方 社会の変化とメンタルヘルス	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

2	山本明弘	テーマ：人間のこころと行動 内 容：こころと環境	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	山本明弘	テーマ：人格の発達と情緒体験 内 容：対象関係論の立場から	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	山本明弘	テーマ：人生各期の発達課題 内 容：ライフサイクルとメンタルヘルス	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	山本明弘	テーマ：現代社会とこころ 内 容：現代社会の特徴	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	山本明弘	テーマ：ストレスに対する身体的反応 内 容：心身症とは	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	山本明弘	テーマ：家族とその支援 内 容：精神疾患と家族	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	山本明弘	テーマ：嗜癖と依存 内 容：依存のとらえ方	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

9	山本明弘	テーマ：看護の倫理と人権擁護 内 容：精神科医療におけるアドボカシー	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	山本明弘	テーマ：看護の倫理と人権擁護 内 容：精神科医療における権利擁護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	山本明弘	テーマ：精神医療の歴史と看護 内 容：近代までの精神医療	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	山本明弘	テーマ：精神医療の歴史と看護 内 容：近代の精神医療	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	山本明弘	テーマ：精神医療の歴史と看護 内 容：20世紀の精神医療	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	山本明弘	テーマ：精神保健医療福祉をめぐる法律 内 容：精神保健医療に関わる法制度の変遷	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	山本明弘	テーマ：精神保健医療福祉をめぐる法律 内 容：精神保健医療福祉に関わる現在の法制度	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

ナーシング・グラフィカ 精神看護学(1)：情緒発達と精神看護の基本 (メディカ出版)

オフィスアワー

毎週木曜日4限 14:40~16:10

履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)

精神看護学の実習に必要な内容です。しっかり予習・復習をして授業にのぞんでください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	精神看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、横谷知也			授業形態	演習

到達目標

1. 主な精神疾患について、症状・検査・治療・看護の方法について概要が説明できる。
2. 精神疾患患者に用いられる医学的検査と心理検査について説明できる。
3. 精神疾患に特徴的な治療方法について理解し、患者への看護の留意点が説明できる。
4. 精神科での援助におけるアセスメントの視点が説明できる。
5. 精神看護に求められるコミュニケーション技術について説明ができる。
6. 精神科リハビリテーションの考え方について説明できる。
7. 精神疾患患者の社会復帰・社会参加への支援方法の概要が説明できる。
8. 救急医療現場における患者支援について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、精神疾患患者の健康レベルに応じた看護の支援を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、精神疾患患者に対して必要な看護の支援方法について学ぶ。精神症状をとらえるための観察方法、アセスメントに用いられる主な理論、精神看護におけるコミュニケーション技法、生理学的側面からアプローチする検査、心理学的側面からアプローチする検査、社会機能を知る尺度、心理学的側面からアプローチするケア・支援、社会復帰・社会参加の基本と働きかけについて、基礎知識を学び、精神疾患患者の特徴に合わせた看護の支援方法について演習を行いながら修得する。

この授業をとおして、精神疾患患者に対して、精神の健康レベルに応じた看護の支援技術を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：精神疾患総論 自閉症スペクトラム障害	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
2	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：統合失調症 抑うつ障害と双極性障害	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
3	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：不安障害、強迫性障害 解離性障害	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
4	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：ストレス因関連障害 身体症状症および関連症 パーソナリティ障害	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

5	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神疾患とその症状・検査・治療・看護 内 容：摂食障害 睡眠－覚醒障害	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
6	山本明弘 横谷知也	テーマ：医学的検査と心理検査 内 容：医学的検査	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
7	山本明弘 横谷知也	テーマ：医学的検査と心理検査 内 容：心理検査	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
8	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神科での治療 内 容：薬物療法	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
9	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神科での治療 内 容：精神療法	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

10	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神科での治療 内 容：社会療法	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
11	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神科看護における対象の理解 内 容：精神科での援助におけるアセスメントの視点	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
12	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神科看護におけるケアの方法 内 容：「治療的関わり」の考え方 看護師に求められるコミュニケーション技術 日常生活行動の援助	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
13	山本明弘 横谷知也	テーマ：入院環境と治療的アプローチ 内 容：治療の場としての精神科病棟	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
14	山本明弘 横谷知也	テーマ：精神保健活動とリハビリテーション 内 容：精神科リハビリテーションの考え方 社会復帰・社会参加	予習：テキストの該当ページを読み、 ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。

15	山本明弘 横谷知也	テーマ：救急医療現場における患者支援 自殺未遂者・急性薬物中毒	予習：テキストの該当ページを読み、ノートにまとめる 復習：授業で理解したことをノートに追記し、演習ノートを作成する。
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実践 (メディカ出版)</p>			
<p>オフィスアワー 毎週金曜日5限 16：20～17：50</p>			
<p>履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	精神看護学各論Ⅱ		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、横谷知也			授業形態	演習

到達目標

1. 精神疾患患者の紙上事例について、精神の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、精神障害の特徴を踏まえて看護過程の展開ができる。

- (1) 事例の病態生理が説明できる。
- (2) 事例についてアセスメントを実施できる。
- (3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。
- (4) 援助をシミュレーションによって実施する。
- (5) 実施した援助の評価を行う。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、精神疾患患者の紙上事例を用いて、精神の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、精神障害の特徴を踏まえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、精神疾患患者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護の支援技術をシミュレーションで実施する。急性期の統合失調症、在宅における慢性期の統合失調症、うつ病、双極性障害、パニック障害、アルコール使用障害など、精神の健康問題が対象者と家族に及ぼす影響や問題について、精神障害の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を修得する。

この授業をとおして、精神疾患患者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：統合失調症（急性期）患者 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
2	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：統合失調症（急性期）患者 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
3	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：統合失調症（急性期）患者 内 容：学びの発表・意見交換	予習：発表の準備 復習：学びをまとめる
4	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：統合失調症（慢性期）患者・在宅 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
5	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：統合失調症（慢性期）患者・在宅 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
6	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：統合失調症（慢性期）患者・在宅 内 容：学びの発表・意見交換	予習：発表の準備 復習：学びをまとめる
7	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：うつ病患者 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく

8	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：うつ病患者 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
9	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：双極性障害 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
10	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：双極性障害 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
11	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：パニック障害 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
12	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：パニック障害 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる
13	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：アルコール使用障害 内 容：疾患理解・情報整理・問題抽出	予習：事例の病態生理を調べる 復習：情報を整理しておく
14	山本明弘 横谷知也	テーマ：事例：アルコール使用障害 内 容：看護計画立案・評価の視点	予習：介入方法を調べる 復習：介入方法をまとめる

15	山本明弘 横谷知也	テーマ：7回目以降の事例についてまとめ 内 容：学びの発表・意見交換	予習：発表の準備 復習：学びをまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習での到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p> <p>レポートは、課題に添って自分の意見が明確に論理的に述べられているかを評価基準とする</p>			
<p>教科書</p> <p>ナーシング・グラフィカ 精神看護学(2)：精神障害と看護の実践 (メディカ出版)</p>			
<p>オフィスアワー 毎週月曜日4限 14：40～16：10</p>			
<p>履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	精神看護学実習		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、横谷知也			授業形態	実習

到達目標

1. 精神科疾患のある患者を1人受け持ち、情報収集、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案・評価を行い、看護過程を展開する。

- (1) 生活上の困難に対して、必要とされる支援を計画できる。
- (2) 社会復帰に必要な社会資源利用について考えることできる。
- (3) 生活上の困難に対して、必要とされる支援を患者とともに考えて実施できる。
- (4) 患者とのかかわりをとおして、反応を確かめながら看護計画を実施する。

2. 精神科疾患の患者の生きづらさや生活上の困難を理解する。

3. 社会復帰を目指す精神障害者への就労継続支援の役割について説明できる。

4. 地域で生活する精神障害者への生活介護（通所）のもつ役割について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、病棟で精神科疾患のある患者1人を受け持ち看護過程を展開する、自立支援施設を利用しながら地域で生活する精神障害者への支援を理解する、という実習をとおして対象者の生きづらさや生活上の困難を理解し、看護支援を実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、病棟で精神疾患患者1人を受け持ち、看護過程を展開することによって精神を病む人とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。精神科の受け持ち患者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、看護問題を抽出し、計画を立案・実践する。社会復帰のための支援施設へ通う人たちと接し、精神障害を持ちながら地域で生活する人への支援のあり方を知る。

この授業をとおして、精神疾患患者や家族のニーズを知り、看護過程の展開を通して、精神疾患患者に対する、安全・安楽かつ自立に向けた看護を実施する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	山本明弘 横谷知也	【精神科病棟】 病棟オリエンテーション 患者紹介・受け持ち患者の疾患の理解	予習：精神科病棟の 特徴について調べる 復習：受け持ち患者 の病態生理を整理し ておく
2 日 目	山本明弘 横谷知也	受け持ち患者担当の看護師へ随行実習 受け持ち患者の情報整理・アセスメント	予習：受け持ち患者 の情報を整理して、 アセスメントする 復習：受け持ち患者 への援助方法を振り 返る
3 日 目	山本明弘 横谷知也	受け持ち患者のケアを看護師の指導のもと実施 看護問題の明確化・看護計画の立案	予習：受け持ち患者 の看護上の問題を抽 出し看護計画を立て る 復習：受け持ち患者 の個別性をふまえた 計画になっているか 看護計画を見直して
4 日 目	山本明弘 横谷知也	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護 ケアを看護師とともに実施	予習：適切な介入方 法であるか見直して おく 復習：実施した援助 を振り返り、記録す る

5 日 目	山本明弘 横谷知也	自分が立案した受け持ち患者の看護計画に従って、看護ケアを看護師とともに実施・評価 最終カンファレンス（まとめ）	予習：まとめのカンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
6 日 目	山本明弘 横谷知也	【自立支援施設】 施設オリエンテーション 施設見学	予習：自立支援施設について調べる 復習：本日の学びを整理する
7 日 目	山本明弘 横谷知也	就労継続支援を受けている人に対する援助を、施設職員と一緒に実施する	予習：就労継続支援について調べる 復習：本日の学びを記録する
8 日 目	山本明弘 横谷知也	就労継続支援を受けている人に対する援助を、施設職員と一緒に実施する 職業訓練・作業訓練を見学する	予習：職業訓練・作業訓練について調べる 復習：本日の学びを記録する
9 日 目	山本明弘 横谷知也	生活介護（通所）を受けている人に対する援助を、施設職員と一緒に実施する 機能回復訓練を見学する	予習：生活介護事業について調べる 復習：本日の学びを記録する

10 日 目	山本明弘 横谷知也	生活介護（通所）を受けている人に対する援助を、施設職員と一緒に実施する スタッフの方参加のもと、まとめの会（実習での学びや反省点を発表し助言をもらう）	予習：まとめの会の発表内容を整理しておく 復習：本日の学びを記録する
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>			
<p>教科書</p> <p>なし 適宜参考図書を紹介する</p>			
オフィスアワー		実習記録及びカンファレンスにて対応する	
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>体調を整えて、実習に臨んでください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域・在宅看護学概論		
講義開講時期	前期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○池西和哉			授業形態	講義

到達目標

1. 日本の在宅看護をめぐる社会文化的背景の概要が説明できる。
2. 在宅看護の法的基盤とシステムが説明できる。
3. 在宅看護における看護過程の展開が説明できる。
4. 在宅看護における多職種連携の必要性が説明できる。
5. 在宅看護における倫理的課題が説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、地域・在宅看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につけることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、地域・在宅看護のために必要な基本概念を学び、対象者を身体的、心理的、社会的特徴から理解し、地域・在宅看護における理論・概念を用いて看護援助を修得する。訪問看護制度の確立と個別ケア展開の歴史、地域・在宅看護をめぐる社会文化的背景、地域・在宅における終末期の考え方、地域・在宅看護の法的基盤とシステム、居宅等における医行為の特徴と課題、退院支援のあり方と多職種連携、チームケアとマネジメント、在宅看護と他職種の連携について理解する。地域・在宅で療養する対象者の人権と安全を守りながら、健康状態に応じた日常生活や治療・検査に対する援助方法を修得する。

この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者の特徴を理解し、看護の実践に活用するための知識を身につける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	池西和哉	テーマ：日本の在宅看護の成立 内 容：在宅看護の概念 訪問看護制度の確立と個別ケア展開の歴史	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

2	池西和哉	テーマ：日本の在宅看護をめぐる社会文化的背景 内 容：日本の家族の変遷と現状	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
3	池西和哉	テーマ：日本の在宅看護をめぐる社会文化的背景 内 容：在宅における終末期の考え方	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
4	池西和哉	テーマ：在宅看護の法的基盤とシステム 内 容：介護保険制度	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
5	池西和哉	テーマ：在宅看護の法的基盤とシステム 内 容：地域包括ケアシステム	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
6	池西和哉	テーマ：在宅看護の法的基盤とシステム 内 容：訪問看護制度	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
7	池西和哉	テーマ：在宅看護における連携 内 容：退院支援のあり方と看護職どうしの連携	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
8	池西和哉	テーマ：在宅看護における連携 内 容：チームケアとマネジメント	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

9	池西和哉	テーマ：在宅看護における連携 内 容：在宅看護と他職種の連携	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
10	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：病状・病態の変化の予測と自立支援	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
11	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：在宅看護に求められるヘルスアセスメント	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
12	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：在宅療法と家族支援	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
13	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：在宅における看護過程の展開	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
14	池西和哉	テーマ：在宅看護の姿勢・考え方と看護過程の展開 内 容：在宅における看護過程の展開	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる
15	池西和哉	テーマ：在宅看護における倫理的課題 内 容：自己決定支援、権利擁護	予習：テキストの該当ページを読む 復習：授業内容をノートにまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

看護学テキストNiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして（南江堂）

オフィスアワー

毎週金曜日4限 14:40~16:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

地域・在宅看護学の実習に必要な内容です。しっかり予習・復習をして授業にのぞんでください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域・在宅看護学各論Ⅰ		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○池西和哉、鷺野貴子			授業形態	講義

到達目標

1. 療養を支援する看護技術について、目的と療養者の特徴、ヘルスアセスメントの方法、看護技術の方法が説明できる。

- (1) 口腔ケアと嚥下訓練 (2) 排泄支援 (3) 清潔ケア (4) 移動の援助
 (5) 肺炎予防 (6) 感染予防 (7) 心不全予防 (8) 低栄養予防

2. 医療を支援する看護技術について、目的と療養者の特徴、ヘルスアセスメントの方法、看護技術の方法が説明できる。

- (1) 服薬管理 (2) 在宅酸素療法 (HOT) (3) 在宅輸液療法
 (4) 在宅人工呼吸療法 (HMV) (5) 腹膜透析 (6) 経管栄養
 (7) 膀胱留置カテーテル (8) 呼吸リハビリテーション
 (9) 疼痛管理 (10) 褥瘡管理

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、地域・在宅看護の対象者に対して必要な看護技術について学び、療養者の特徴に合わせた看護方法について演習を行いながら修得することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、地域・在宅看護の対象者に対して必要な看護技術と支援方法について学ぶ。療養を支援する看護技術として、口腔ケアと嚥下訓練、排泄支援、清潔ケア、移動の援助、肺炎予防、感染予防、心不全予防、低栄養予防について、基礎知識を学び看護技術について方法を修得する。医療を支援する看護技術として、服薬管理、在宅酸素療法 (HOT)、在宅輸液療法、在宅人工呼吸療法 (HMV)、腹膜透析、経管栄養、膀胱留置カテーテル、呼吸リハビリテーション、疼痛管理、褥瘡管理について基礎知識を学び看護技術について方法を修得する。

この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者に対して、療養の特徴に応じた看護の支援技術を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	鷺野貴子	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：口腔ケアと嚥下訓練</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
2	鷺野貴子	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：排泄支援</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
3	鷺野貴子	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：清潔ケア</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
4	鷺野貴子	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：移動の援助</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
5	鷺野貴子	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：肺炎予防、感染予防</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>

6	鷺野貴子	<p>テーマ：療養を支援する看護技術</p> <p>内 容：心不全予防、低栄養予防 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
7	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：服薬管理 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
8	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：在宅酸素療法（HOT） 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
9	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：在宅輸液療法 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
10	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：在宅人工呼吸療法（HMV） 目的と療養者の特徴 ヘルスアセスメント 看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>

11	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：腹膜透析</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
12	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：経管栄養</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
13	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：膀胱留置カテーテル</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
14	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：呼吸リハビリテーション</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>
15	池西和哉	<p>テーマ：医療を支援する看護技術</p> <p>内 容：疼痛管理、褥瘡管理</p> <p>目的と療養者の特徴</p> <p>ヘルスアセスメント</p> <p>看護技術</p>	<p>予習：テキストの該当ページをまとめる</p> <p>復習：技術の手順・留意点を整理する</p>

成績評価方法及び基準

課題レポート20%、定期試験80%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

看護学テキストNiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして（南江堂）

オフィスアワー

毎週木曜日4限 14:40~16:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

在宅看護に必要な看護技術です。予習復習をしっかりと、授業に出席してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域・在宅看護学各論Ⅱ		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○池西和哉、鷺野貴子			授業形態	演習

到達目標

1. 地域・在宅看護の対象者の紙上事例について、対象者とその家族の健康レベル、療養環境、支援制度の利用状況を踏まえて看護過程の展開ができる。

- (1) 事例の病態生理が説明できる。
- (2) 事例についてアセスメントを実施できる。
- (3) 事例について看護問題を抽出し看護計画を立案できる。
- (4) 援助をシミュレーションによって実施する。
- (5) 実施した援助の評価を行う。

2. 看護技術を在宅で実施する上での工夫を説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、地域・在宅看護の対象者の紙上事例を用いて、地域・在宅看護の対象者とその家族の特徴、療養を支援する制度を踏まえた看護過程の展開ができることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、地域・在宅看護の対象者の紙上事例を用いて看護過程の展開を演習によって学ぶ。紙上事例について、病態生理の知識から学び、アセスメント・介入・評価の方法を、根拠をもって展開し、看護の支援技術をシミュレーションで実施する。要介護高齢者への在宅看護、認知症高齢者への在宅看護、がんの療養者への在宅看護、神経系難病の療養者への在宅看護、慢性感染症をもつ療養者への在宅看護、疾病や障害をもつ小児への在宅看護、精神疾患をもつ療養者への在宅看護、終末期の療養者への在宅看護について療養者の特徴を踏まえ、それらを解決するための看護方法を修得する。

この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者の健康レベルに応じた看護過程の展開ができる基礎的能力を身に付ける。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1 ・ 2	池西和哉 ・ 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：要介護高齢者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
3 ・ 4	池西和哉 ・ 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：認知症高齢者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
5 ・ 6	池西和哉 ・ 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：認知症高齢者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
7 ・ 8	池西和哉 ・ 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：がんの療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
9 ・ 10	池西和哉 ・ 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：がんの療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
11 ・ 12	池西和哉 ・ 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：神経系難病の療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
13 ・ 14	池西和哉 ・ 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：神経系難病の療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる

15 ・ 16	池西和哉 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：慢性感染症をもつ療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
17 ・ 18	池西和哉 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：慢性感染症をもつ療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
19 ・ 20	池西和哉 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：疾病や障害をもつ小児への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
21 ・ 22	池西和哉 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：疾病や障害をもつ小児への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
23 ・ 24	池西和哉 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：精神疾患をもつ療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす
25 ・ 26	池西和哉 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：精神疾患をもつ療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
27 ・ 28	池西和哉 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：終末期の療養者への在宅看護	予習：事例の情報を整理する 復習：アセスメントをみなおす

29 ・ 30	池西和哉 ・ 鷺野貴子	テーマ：事例を用いた看護過程の展開 内 容：終末期の療養者への在宅看護	予習：看護計画を立案する 復習：学びをまとめる
<p>成績評価方法及び基準</p> <p>演習への到達状況20%、課題レポート20%、定期試験60%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>			
<p>教科書</p> <p>看護学テキストNiCE 在宅看護論 自分らしい生活の継続をめざして（南江堂）</p>			
<p>オフィスアワー 毎週木曜日3限 13:00~14:30</p>			
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>実習に必要な演習を実施します。体調を整えて欠席しないように参加してください。</p>			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域・在宅看護学実習		
講義開講時期	後期・前期	学年	3・4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○池西和哉、鷺野貴子、林史子、吉村牧子			授業形態	実習

到達目標

1. 訪問看護の機能と役割を説明できる。
2. 訪問看護の必要性を説明できる。
3. 多職種協働の必要性とその意義が説明できる。
4. 2回目の訪問が可能な対象者1人について、訪問看護の計画立案が助言を受けて実施できる。
5. 2回目の訪問が可能な対象者1人について、2回目訪問時に立案した看護ケアを訪問看護師とともに実施する。
6. 在宅で行うケアの工夫について説明できる。
7. 生活している場を尊重したケアの工夫について説明できる。
8. 在宅療養者の身体的・心理的・社会的特性を説明することができる。
9. 他職種との連携・情報交換の必要性とその方法について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、訪問看護実習をとおして、在宅療養者の特徴、訪問看護の必要性と役割、多職種連携の必要性を理解し、在宅において看護支援を実践する能力を身に付けることを目指す科目である。

この授業では、訪問看護ステーションにおいて、訪問看護を受けている対象者を訪問することによって、在宅で療養する人とその家族について理解し、状況に応じた適切な看護を行うために必要な基礎的な看護実践能力を修得する。訪問する対象者に関する情報を収集し、アセスメントを行い、訪問看護計画の内容を理解する。訪問看護ステーションの機能とそこで働く看護職の役割および関係機関・多職種との連携の重要性を理解する。在宅療養を支える社会資源の意義と課題について学ぶ。

この授業をとおして、地域・在宅看護の対象者の健康レベルに応じて、安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する能力を養う。

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	池西和哉、 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	【訪問看護ステーション】 オリエンテーション 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場 所確認	予習：訪問看護につ いて調べる 復習：オリエンテー ションの内容を記録 する
2	池西和哉、 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	訪問看護師に同行する。 同行した患者の中で、次回訪問できる患者を紹介しても らい訪問時の計画を立案する 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場 所確認	予習：訪問目的の確 認 復習：学びの記録
3	池西和哉、 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	訪問看護師に同行する。 次回訪問時の計画について、訪問看護師に助言をもらう 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場 所確認	予習：訪問計画の立 案 復習：学びの記録
4	池西和哉、 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	訪問看護師に同行する。 次回訪問時の計画内容を見直す 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場 所確認	予習：訪問計画の見 直し 復習：学びの記録
5	池西和哉、 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	訪問看護師に同行する。 中間カンファレンス	予習：カンファレン スの準備 復習：学びの記録
6	池西和哉、 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	訪問看護師に同行する。 2回目の訪問患者に対して、自分が立案した看護計画に 従って、看護ケアを訪問看護師とともに実施 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場 所確認	予習：計画した援助 技術をみておく 復習：学びの記録
7	池西和哉、 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	訪問看護師に同行する。 2回目の訪問患者に対して立案実施した看護ケアについ て、訪問看護師からフィードバック 翌日訪問する患者の紹介・患者の情報収集・訪問先の場 所確認	予習：訪問目的の確 認 復習：学びの記録

8	池西和哉、 日 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	訪問看護師に同行する。 訪問看護における多職種連携について、リハビリテーションの専門職から説明を受ける	予習：多職種連携について調べる 復習：学びの記録
9	池西和哉、 日 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	最終カンファレンス（まとめ）	予習：カンファレンスの準備 復習：：学びの記録
10	池西和哉、 日 鷺野貴子、 目 林史子、 吉村牧子	学びの発表会 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う	予習：発表準備 復習：学びの記
成績評価方法及び基準 評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜参考図書を紹介する			
オフィスアワー		実習記録及びカンファレンスにて対応する	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	緩和ケア		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○堤かおり、温井由美			授業形態	講義

到達目標

1. 緩和ケアの基盤となる考え方について説明できる。
2. 緩和ケアの実践方法について説明できる。
3. 看取りのケアについて、家族へのケアも含めて説明できる。
4. 緩和ケアを要する紙上事例について、より良い緩和ケアのあり方について検討できる。
5. 緩和ケアの現状と課題の概要が説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる。」に基づき、緩和ケア実施に必要な知識を深め、緩和ケアへの興味を持ち、緩和ケアのあり方について探求する姿勢を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、緩和ケアの概念を理解し、看護実践を提供するための基礎知識を修得する。緩和ケアの基盤となる考え方、(意思決定を支えるケア、家族ケア、喪失と悲嘆のケア、スピリチュアルケア)、緩和ケアの実践方法、看取りのケア、看取りを迎える家族へのケアについて学ぶ。学生の臨地実習体験をふまえて、紙上事例について検討を行う。諸外国における緩和ケアの体制を学び、日本における緩和ケアの展望と課題について理解する。

この授業をとおして、緩和ケア実施に必要な基礎知識と今後の課題について学ぶ。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	堤かおり	テーマ：緩和ケアの基盤となる考え方 内 容：意思決定を支えるケア 家族ケア 喪失と悲嘆のケア スピリチュアルケア	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

2	堤かおり	テーマ：緩和ケアの実際 内 容：緩和ケアの実践方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	堤かおり	テーマ：緩和ケアの実際 内 容：看取りのケア	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	堤かおり	テーマ：緩和ケアの実際 内 容：看取りを迎える家族へのケア	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	温井由美	テーマ：紙上事例について検討 内 容：事例の説明、情報の理解	予習：事例を理解する 復習：学びをまとめる
6	温井由美	テーマ：紙上事例について検討 内 容：グループワーク	予習：グループワークの準備 復習：学びをまとめる
7	温井由美	テーマ：紙上事例について検討 内 容：グループ発表と討議	予習：グループ発表の準備 復習：学びをまとめる
8	温井由美	テーマ：緩和ケアの現状と課題 内 容：諸外国における緩和ケアの体制 日本における緩和ケアの展望と課題	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

毎週月曜日2限 10:40~12:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

グループワークも取り入れながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	災害看護論		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○西上あゆみ、北出千春			授業形態	講義

到達目標

1. 災害看護に関連する制度について説明できる。
2. 災害関係各機関の支援体制について説明できる。
3. 災害時の被災者および援助者の心理について説明できる。
4. 災害各期における看護活動について説明できる。
5. 在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅における看護について説明できる。
6. 病院における災害看護活動について説明できる。
7. 災害看護における倫理・教育・理論について説明できる。
8. 母性看護と災害をとりあげて示された事例について災害看護のあり方と課題を討論できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる。」に基づき、災害看護に必要な知識を深め、災害看護への興味を持ち、災害看護のあり方について探求する姿勢を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、災害看護の基礎的知識と実際場面での実践方法について理解する。災害看護に関する基礎的知識として、災害に関する制度（災害対策基本法・災害救助法・防災計画など）、災害関係各機関の支援体制、災害時の被災者および援助者の心理、災害各期における看護活動、在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅における看護、災害時に必要な技術、病院における災害看護、災害看護における倫理・教育・理論について学ぶ。実践方法として、対象別にみた災害看護の実践として、母性看護と災害をとりあげて、具体的な事例を示して検討することによって学ぶ。この授業をとおして、災害看護の基礎知識と実践する能力を養う。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	西上あゆみ	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害に関する制度（災害対策基本法・災害救助法・防災計画など）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	西上あゆみ	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害関係各機関の支援体制	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	西上あゆみ	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害時の被災者および援助者の心理	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	西上あゆみ	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害各期における看護活動 在宅療養・避難所・応急仮設住宅・災害公営住宅における看護	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	西上あゆみ	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害時に必要な技術、病院における災害看護	予習：事例を理解する 復習：学びをまとめる
6	西上あゆみ	テーマ：災害看護の基礎的知識 内 容：災害看護における倫理・教育・理論について	予習：グループワークの準備 復習：学びをまとめる
7	北出千春	テーマ：対象別にみた災害看護の実践例 内 容：母性看護と災害について	予習：グループ発表の準備 復習：学びをまとめる

8	北出千春	テーマ：対象別にみた災害看護の実践例 内 容：母性看護と災害についての取り組み	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
成績評価方法及び基準 定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜プリントを配布する			
オフィスアワー 毎週火曜日3限 13:00~14:30			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） グループワークも取り入れながら授業を実施します。積極的に参加してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護管理学		
講義開講時期	前期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子			授業形態	講義

到達目標

1. 看護マネジメントの定義、看護組織と管理について説明できる。
2. 看護提供方式とその特徴について説明できる。
3. 組織変革、看護管理プロセスについて説明できる。
4. 資源の獲得と配分、人的資源管理について説明できる。
5. キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランスについて説明できる。
6. 情報の管理について説明できる。
7. 管理行動（コミュニケーション、アサーション、指示、交渉、葛藤の解決）について説明できる。
8. 自己管理、医療連携、アウトカムマネジメントについて説明できる。
9. 安全管理、リスク管理、職場環境づくりについて説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、専門職としてより効果的・効率的なケアを実現するための方略の基盤となる看護管理を理解し、スタッフナースとしてのあり方について探求する姿勢を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護管理の基礎的知識と管理に必要な技術について理解する。基礎的知識として、看護管理学とは、マネジメントの定義、看護組織と管理、看護提供方式、組織変革、看護管理プロセスについて学ぶ。管理に必要な技術として、資源の獲得と配分、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランス、情報の管理、管理行動（コミュニケーション、アサーション、指示、交渉、葛藤の解決）、自己管理、医療連携、アウトカムマネジメント、安全管理、リスク管理、職場環境づくりについて学ぶ。

この授業をとおして、専門職としてより効果的・効率的なケアを実現するための方略の基盤を理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	關戸啓子	テーマ：看護管理の基礎的知識 内 容：看護管理学とは、マネジメントの定義	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	關戸啓子	テーマ：看護管理の基礎的知識 内 容：看護組織と管理、看護提供方式	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	關戸啓子	テーマ：看護管理の基礎的知識 内 容：組織変革、看護管理プロセス	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：資源の獲得と配分、人的資源管理	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：キャリアマネジメント ワーク・ライフ・バランス	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：情報の管理 管理行動（コミュニケーション、アサーション、指示、交渉、葛藤の解決）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：自己管理、医療連携 アウトカムマネジメント	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

8	關戸啓子	テーマ：看護管理に必要な技術 内 容：安全管理、リスク管理、職場環境づくり	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
成績評価方法及び基準 定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜プリントを配布する			
オフィスアワー 毎週月曜4限 14:40~16:10			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	感染看護学		
講義開講時期	後期	学年	2	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○貞岡美伸			授業形態	講義

到達目標

1. 市中感染および医療関連感染（院内感染）の定義、感染の3要素について説明できる。
2. 感染予防策の考え方の歴史的変化と標準予防策について説明できる。
3. 感染症法（1～5類感染症）、消毒と滅菌について説明できる。
4. 院内感染対策の方法として、サーベイランス、アウトブレイク、感染症法にかかわる届け出、トリアージについて説明できる。
5. 標準予防策と感染経路別予防策、医療廃棄物について説明できる。
6. 母子感染の事例について、感染看護のあり方を検討する。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、感染看護について感染予防の必要性を理解し、感染予防の方策、感染看護の方法に関する知識の獲得を目指す科目である。

授業概要

この授業では、感染看護の基礎的知識と感染予防に必要な技術について理解する。感染看護の基礎知識として、市中感染および医療関連感染（院内感染）の定義、感染の3要素、感染予防策の考え方の歴史的変化と標準予防策、感染症法（1～5類感染症）、消毒と滅菌について学ぶ。院内感染対策の方法として、サーベイランス、アウトブレイク、感染症法にかかわる届け出、トリアージ、標準予防策と感染経路別予防策、医療廃棄物について理解する。事例として母子感染をとりあげて検討する。

この授業をとおして、感染看護の基礎的知識を知り、感染予防が実践できる能力を養う。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	貞岡美伸	テーマ：感染看護の基礎知識 内容：市中感染および医療関連感染（院内感染）の定義	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

2	貞岡美伸	テーマ：感染看護の基礎知識 内 容：感染の3要素 感染予防策の考え方の歴史的変化と標準予防策	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	貞岡美伸	テーマ：感染看護の基礎知識 内 容：感染症法（1～5類感染症） 消毒と滅菌	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	貞岡美伸	テーマ：感染予防に必要な技術 内 容：サーベイランス、アウトブレイク	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	貞岡美伸	テーマ：感染予防に必要な技術 内 容：感染症法にかかわる届け出 トリアージ	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	貞岡美伸	テーマ：感染予防に必要な技術 内 容：標準予防策と感染経路別予防策 医療廃棄物	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	貞岡美伸	テーマ：母子感染の事例 内 容：事例説明・意見交換	予習：事例を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	貞岡美伸	テーマ：母子感染の事例 内 容：感染予防策について意見交換	予習：意見をまとめておく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

毎週金曜日 14:40~16:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護教育学		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、那須さとみ			授業形態	講義

到達目標

1. 専門職の特徴からみた日本の看護教育について説明できる。
2. 実践の学問としての看護学を教育する看護教育の特徴について説明できる。
3. 看護教育制度の歴史的変遷、看護教育制度の現状について説明できる。
4. カリキュラムの考え方、教育評価の方法について説明できる。
5. 多職種連携教育（IPE）、自己主導型学習について説明できる。
6. カリキュラム開発、カリキュラムデザイン、カリキュラム評価について説明できる。
7. 学習理論と学習方法、教育評価について説明できる。
8. 看護学教育における臨地実習の位置づけを知り、看護学生が臨地実習で直面しやすい問題について検討する。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、自分が受けてきた看護教育について振り返り、看護教育学として学びを深め、看護教育学への興味を高め、看護教育学のあり方について探求する姿勢を身に付けることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、わが国の看護教育制度、カリキュラムや教育評価など、看護学教育に関する基礎的な知識を学ぶ。看護教育学とは何か、専門職の特徴からみた日本の看護、実践の学問としての看護学、多職種連携教育（IPE）、看護制度・看護教育制度の歴史的変遷、看護教育制度の現状、看護学教育の基盤、自己主導型学習、カリキュラム開発、カリキュラムデザイン、カリキュラム評価、学習理論と学習方法、教育評価について学ぶ。臨地実習における教育と学習として、経験型実習教育の方法と看護学教育における臨地実習の位置づけを知り、看護学生が直面しやすい問題について検討する。

この授業をとおして、学生自らが受けている看護学教育について理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
---	------	------	---------------

1	關戸啓子	テーマ：看護教育学の基礎 内 容：看護教育学とは何か 専門職の特徴からみた日本の看護	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
2	關戸啓子	テーマ：看護教育の方法 内 容：実践の学問としての看護学 多職種連携教育（IPE）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	關戸啓子	テーマ：看護教育の制度 内 容：看護制度・看護教育制度の歴史的変遷、看護教育制度の現状	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	關戸啓子	テーマ：看護学教育の基盤 内 容：看護学教育の基盤、自己主導型学習	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	關戸啓子	テーマ：カリキュラムについて 内 容：カリキュラム開発、カリキュラムデザイン	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	關戸啓子	テーマ：カリキュラムについて 内 容：カリキュラム評価 学習理論と学習方法 教育評価	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	那須さとみ	テーマ：臨地実習における教育と学習 内 容：経験型実習教育の方法 看護学教育における臨地実習の位置づけ	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

8	那須さとみ	テーマ：臨地実習における教育と学習 内 容：看護学生が直面しやすい問題について検討	予習：意見をまとめておく 復習：学びをまとめる
成績評価方法及び基準 定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜プリントを配布する			
オフィスアワー			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護理論と実践		
講義開講時期	前期	学年	3	必修／選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、山本明弘、木野寛子			授業形態	講義

到達目標

1. 看護学と看護理論の関係について説明できる。
2. 看護理論の種類、看護理論の歴史と動向について説明できる。
3. 日本の看護学の発展と米国看護の及ぼした影響について説明できる。
4. 看護理論を実践に活かしている事例を、母性看護学の場合と、精神看護学の場合について学ぶ。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」に基づき、看護理論に対する学びを深めることによって、看護理論への興味を高め、看護理論の必要性と実践へ応用される意義について知ることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、看護理論の基礎的知識を学び、実践事例をとおして看護理論が実際に臨床現場で応用されていることを理解する。基礎的知識として、看護学と看護理論の関係、看護理論とは、看護理論の種類、看護理論の歴史と動向、日本の看護学の発展と米国看護の及ぼした影響について学ぶ。看護理論を実践に活かしている事例を、母性看護学の場合と、精神看護学の場合について学ぶ。

この授業をとおして、看護理論の必要性と実践へ応用される意義について理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	關戸啓子	テーマ：看護理論の基礎知識 内 容：看護学と看護理論の関係	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

2	關戸啓子	テーマ：看護理論の基礎知識 内 容：看護理論とは、看護理論の種類	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	關戸啓子	テーマ：看護理論の基礎知識 内 容：看護理論の歴史と動向	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	關戸啓子	テーマ：看護理論の基礎知識 内 容：日本の看護学の発展と米国看護の及ぼした影響	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	山本明弘	テーマ：看護理論を実践に活かしている事例 内 容：精神看護学の場合	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	山本明弘	テーマ：看護理論を実践に活かしている事例 内 容：精神看護学の場合	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	木野寛子	テーマ：看護理論を実践に活かしている事例 内 容：母性看護学の場合	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	木野寛子	テーマ：看護理論を実践に活かしている事例 内 容：母性看護学の場合	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

毎週木曜日 14:40~16:10

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

実例も紹介しながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	地域精神保健学		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	選択
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、横谷知也			授業形態	講義

到達目標

1. 周産期の精神の健康支援について説明できる。
2. 乳幼児期から学童期の精神の健康支援について説明できる。
3. 思春期と青年期の精神の健康支援について説明できる。
4. 成人期の精神の健康（メンタルヘルス上の問題、産業場面や福祉との連携、自殺予防）支援について説明できる。
5. 老年期の精神の健康（老年期うつ病、認知症）について説明できる。
6. 地域精神医療福祉の現状と課題について説明できる。
7. 精神の健康に関する普及啓発活動について説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる。」に基づき、地域精神保健についてライフサイクルに沿って学修を深めることによって、地域精神保健への興味を高め、地域における精神保健を探究する姿勢を養うことを目指す科目である。

授業概要

この授業では、地域精神保健について、ライフサイクルに沿って学修する。ライフサイクルと地域精神保健の課題、周産期の精神の健康、乳幼児期から学童期の精神の健康、思春期と青年期の精神の健康、成人期の精神の健康（メンタルヘルス上の問題、産業場面や福祉との連携、自殺予防）、老年期の精神の健康（老年期うつ病、認知症）について学ぶ。地域精神医療福祉の現状と課題と精神の健康に関する普及啓発活動について理解する。

この授業をとおして、地域精神保健の基礎的な知識と課題について理解する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	山本明弘	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：周産期の精神の健康	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

2	山本明弘	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：乳幼児期から学童期の精神の健康	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	山本明弘	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：思春期と青年期の精神の健康	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	山本明弘	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：成人期の精神の健康（メンタルヘルス上の問題、産業場面や福祉との連携、自殺予防）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	山本明弘	テーマ：ライフサイクルと地域精神保健 内 容：老年期の精神の健康（老年期うつ病、認知症）	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	山本明弘	テーマ：地域精神医療福祉について 内 容：地域精神医療福祉の現状と課題	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	横谷知也	テーマ：地域精神保健について 内 容：精神の健康に関する普及啓発活動	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	横谷知也	テーマ：地域精神保健について 内 容：今後の展望	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準

定期試験50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。

教科書

なし 適宜プリントを配布する

オフィスアワー

毎週木曜日3限 13:00~14:30

履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）

意見交換も行いながら授業を実施します。積極的に参加してください。

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護の統合Ⅰ（演習）		
講義開講時期	前期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、堤かおり、藤本由美子、貞岡美伸、下村明子、山本明弘、赤星 誠、池西和哉、高田美子、北出千春、木野寛子、那須さとみ、川村小千代、温井由美、市後昌代、羽畑正孝、鷺野貴子、横谷知也、大内由梨、林史子、吉村牧子			授業形態	演習

到達目標

1. 各領域が示す事例に従って、看護過程が展開できる。
2. シミュレーション環境下において、適切な臨床判断を行うことができる。
3. シミュレーション演習をとおして、適切な看護実践ができる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、臨地実習の学びを統合して、各領域における臨床判断を求められる事例に対してシミュレーション環境下で演習を行うことによって、看護実践能力を高めることを目指す科目である。

授業概要

この授業では、既修の知識・技術を統合し、与えられた紙上事例について、適切に看護過程を展開する能力を修得する。シミュレーションを用いて、高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力が求められる事例について、演習を行う。

この授業をとおして、高度な看護実践能力を育成する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 ・ 2		テーマ：成人看護学領域（慢性期）における事例展開 内 容：血糖値測定・インスリン自己注射の指導を受けている患者の事例を用いて、自己コントロールに向けて指導が必要な糖尿病患者の看護過程の展開を行う	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す

3 ・ 4	○關戸啓子 堤かおり 藤本由美子 貞岡美伸 下村明子 山本明弘	テーマ：成人看護学領域（慢性期）における事例展開 内 容：事例の中の1場面として、個室の病室を模したシミュレーション環境において、自己血糖測定、インスリン自己注射の指導を実施する。	予習：技術練習 復習：演習の振り返り
5 ・ 6	赤星 誠 池西和哉 高田美子 北出千春 木野寛子 那須さとみ 川村小千代 温井由美	テーマ：成人看護学領域（急性期）における事例展開 内 容：手術直後の事例を用いて、急性期にある患者の看護過程の展開を行う	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す
7 ・ 8	市後昌代 羽畑正孝 鷺野貴子 横谷知也 大内由梨 林史子 吉村牧子	テーマ：成人看護学領域（急性期）における事例展開 内 容：事例の中の1場面として、人工呼吸器を使用している手術直後を模したシミュレーション環境において、患者の観察を行い、その内容を看護師役の教員へ報告する演習を実施する	予習：技術練習 復習：演習の振り返り
9 ・ 10		テーマ：高齢者看護学領域における事例展開 内 容：食欲低下と嚥下困難がある高齢者の事例について看護過程の展開を行う	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す
11 ・ 12		テーマ：高齢者看護学領域における事例展開 内 容：事例の中の1場面として、個室の病室を模したシミュレーション環境において食事介助をしていたら、高齢者がむせて呼吸困難をきたした場合の対応を演習する。	予習：技術練習 復習：演習の振り返り

13 ・ 14	○關戸啓子 堤かおり 藤本由美子 貞岡美伸 下村明子 山本明弘 赤星 誠 池西和哉	テーマ：母性看護学領域における事例展開 内 容：出産直後の褥婦に対する事例について看護過程の展開を行う	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す
15 ・ 16	高田美子 北出千春 木野寛子 那須さとみ 川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝	テーマ：母性看護学領域における事例展開 内 容：事例の中の1場面として、出産直後を模したシミュレーション環境において、褥婦の観察を行い、その内容を看護師役の教員へ報告する演習を実施する	予習：技術練習 復習：演習の振り返り
17 ・ 18	鷺野貴子 横谷知也 大内由梨 林史子 吉村牧子	テーマ：小児看護学領域における事例展開 内 容：気管支喘息で入院している小児患者の事例で看護過程の展開を行う	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す
19 ・ 20		テーマ：小児看護学領域における事例展開 内 容：事例の中の1場面として、小児の病室を模したシミュレーション環境において、気管支喘息で入院している小児に食事を持って訪室したところ、喘息発作を起こしたため対応しようとしていたら、祖母がお見舞いに来て孫の様子を見てパニックを起こした場合の対応について演習を実施する	予習：技術練習 復習：演習の振り返り
21 ・ 22		テーマ：精神看護学領域における事例展開 内 容：拒薬傾向のある統合失調症患者の事例で看護過程の展開を行う	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す

23 ・ 24	○關戸啓子 堤かおり 藤本由美子 貞岡美伸 下村明子 山本明弘 赤星 誠 池西和哉	テーマ：精神看護学領域における事例展開 内 容：事例の中の1場面として、精神科病棟の病室を模したシミュレーション環境において、患者を訪室し、服薬介助を行う場面で服薬を拒否された場合の対応について演習を実施する	予習：技術練習 復習：演習の振り返り
25 ・ 26	高田美子 北出千春 木野寛子 那須さとみ 川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝	テーマ：地域・在宅看護学領域における事例展開 内 容：胃ろうによる栄養管理を行っている高齢の在宅療養患者の事例で看護過程の展開を行う	予習：事例の理解 復習：看護計画を見直す
27 ・ 28	鷺野貴子 横谷知也 大内由梨 林史子 吉村牧子	テーマ：地域・在宅看護学領域における事例展開 内 容：事例の中の1場面として、在宅療養の自宅を模したシミュレーション環境において、患者宅を訪問し、胃ろうによる栄養管理に関する観察、皮膚のケアを行う場面について演習を実施する	予習：技術練習 復習：演習の振り返り
29 ・ 30		テーマ：まとめの発表会 内 容：学びを発表し意見交換を行う	予習：発表準備 復習：学びをまとめる

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>課題レポート100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。</p>
<p>教科書</p> <p>なし 適宜プリントを配布する</p>
<p>オフィスアワー</p> <p>毎週月曜日5限 16:20~17:50</p>
<p>履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)</p> <p>シミュレーションを用いて臨床に近い形で演習を実施します。積極的に参加してください。</p>

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護の統合Ⅱ（演習）		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○赤星誠、關戸啓子、堤かおり、藤本由美子、貞岡美伸、下村明子、山本明弘、池西和哉、高田美子、北出千春、木野寛子、那須さとみ、川村小千代、温井由美、市後昌代、羽畑正孝、鷺野貴子、横谷知也、大内由梨、林史子、吉村牧子			授業形態	演習
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 領域ごとに与えられた事例に従って、看護実践に必要な技術が演習で実施できる。 2. 高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力の基礎を演習によって身に付ける。 3. 技能試験に合格できる。 <p>【ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「◎(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」に基づき、卒業前の集大成として、高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力が求められる事例について、技能試験を実施することによって、看護実践能力を高めることを目指す科目である。</p>					
<p>授業概要</p> <p>この授業では、既修の知識・技術を統合し、与えられた紙上事例について、適切に看護実践を行うことができるか、学生ひとりひとり技能試験を行う。そのため、事前にいくつか与えられた事例について、シミュレーションを用いて練習する期間を与える。高度な医療機器の操作、リスクマネジメント能力、多重課題、臨床判断能力が求められる事例について、技能試験を実施する。</p> <p>この授業をとおして、臨床で求められる看護実践能力の基礎を身に付ける。</p>					

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 2	○赤星誠 ・ 關戸啓子 堤かおり 藤本由美子 貞岡美伸 下村明子 山本明弘 池西和哉	テーマ：成人看護学領域（慢性期）における事例 内 容：シミュレーションを用いて技術練習 呼吸・循環に障害がある患者を想定して、呼吸音・心音の聴取ができ、正常と異常の判断について演習を実施する	予習：技術の手順の確認 復習：振り返り
3 4	高田美子 ・ 北出千春 木野寛子 那須さとみ 川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝	テーマ：成人看護学領域（急性期）における事例 内 容：シミュレーションを用いて技術練習 手術後酸素療法と心電図モニターをつけて、輸液ポンプによる点滴を受けている患者を想定して、検査室へ移送する場合の対応、点滴の交換方法について演習を行う	予習：技術の手順の確認 復習：振り返り
5 6	鷺野貴子 ・ 横谷知也 大内由梨 林史子 吉村牧子	テーマ：高齢者看護学領域における事例 内 容：シミュレーションを用いて技術練習 高齢で人工膝関節置換術を受けてリハビリテーションが開始された患者を想定して、転倒のリスクについて評価し、車いすでの移送、ベッドへの移動、病室の環境整備について演習を行う。	予習：技術の手順の確認 復習：振り返り
7 8		テーマ：小児看護学領域における事例 内 容：シミュレーションを用いて技術練習 1歳児で経管栄養を実施している患者が便秘で腹満があり、浣腸の指示が出た場合の手技について演習を行う。	予習：技術の手順の確認 復習：振り返り

9 ・ 10	○赤星誠 ・ 關戸啓子 堤かおり 藤本由美子 貞岡美伸 下村明子 山本明弘 池西和哉	テーマ：母性看護学領域における事例 内 容：シミュレーションを用いて技術練習 退院前の褥婦に、新生児の沐浴指導を行って いたら、褥婦が気分不快を訴えて座り込んでしまった事 例を用いて、沐浴指導の手技と褥婦への対応について演 習を行う。	予習：技術の手順の 確認 復習：振り返り
11 ・ 12	高田美子 ・ 北出千春 木野寛子 那須さとみ 川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝	テーマ：精神看護学領域における事例 内 容：シミュレーションを用いて技術練習 精神障害のある患者が、大量に服薬し意識消 失を起こして病室で倒れているのを発見した場合の対応 について演習を行う。	予習：技術の手順の 確認 復習：振り返り
13 ・ 14	鷺野貴子 ・ 横谷知也 大内由梨 林史子 吉村牧子	テーマ：地域・在宅看護学領域における事例 内 容：シミュレーションを用いて技術練習 在宅で人工呼吸器をつけて生活している難病 患者を訪問して、機器の確認を行い、臀部に出来ている 褥瘡の処置を実施する演習を行う。	予習：技術の手順の 確認 復習：振り返り
15 ・ 16		テーマ：高度な医療機器の操作 内 容：14回目までに練習した技術を組み合わせて用い る事例が試験では準備されているため、復習しておきた い医療機器の操作について、教員の指導のもと練習を行 う	予習：技術の手順の 確認 復習：振り返り
17 ・ 18		テーマ：リスクマネジメント・臨床判断能力 内 容：14回目までに練習した技術を組み合わせて用い る事例が試験では準備されているため、リスクマネジメ ント・臨床判断について復習を教員の指導のもと行う	予習：対応方法につ いて確認 復習：振り返り

19 ・ 20	○赤星誠 關戸啓子 堤かおり 藤本由美子 貞岡美伸 下村明子 山本明弘 池西和哉	テーマ：多重課題 内 容：14回目までに練習した技術を組み合わせて用いる事例が試験では準備されているため、多重課題が発生した場合の対応について、復習を教員の指導のもと行う	予習：対応方法について確認 復習：振り返り
21 ・ 22	高田美子 北出千春 木野寛子 那須さとみ 川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝	テーマ：事例に対する技能試験 内 容：シミュレーションを用いて事例に対応できるか試験を行う 試験後ひとりずつ振り返りを行う 試験後ひとりずつフィードバックを行う	予習：技術の練習 復習：振り返り
23 ・ 24	鷺野貴子 横谷知也 大内由梨 林史子 吉村牧子	テーマ：事例に対する技能試験 内 容：シミュレーションを用いて事例に対応できるか試験を行う 試験後ひとりずつ振り返りを行う 試験後ひとりずつフィードバックを行う	予習：技術の練習 復習：振り返り
25 ・ 26		テーマ：事例に対する技能試験 内 容：シミュレーションを用いて事例に対応できるか試験を行う 試験後ひとりずつ振り返りを行う 試験後ひとりずつフィードバックを行う	予習：技術の練習 復習：振り返り
27 ・ 28		テーマ：事例に対する技能試験 内 容：シミュレーションを用いて事例に対応できるか試験を行う 試験後ひとりずつ振り返りを行う 試験後ひとりずつフィードバックを行う	予習：技術の練習 復習：振り返り

29 ・ 30	同上	テーマ：まとめの会 内 容：技能試験での学びを共有する	予習：意見をまとめておく 復習：学びを整理する
成績評価方法及び基準 事例に対する技能試験結果50%、課題レポート50%の合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜プリントを配布する			
オフィスアワー 毎週水曜日5限 16:20~17:50			
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） シミュレーションを用いて臨床に近い形で技術を練習します。積極的に参加してください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護の統合Ⅰ（実習）		
講義開講時期	前期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	1	曜日		時限	
担当教員	○藤本由美子、那須さとみ、川村小千代、温井由美、市後昌代、羽畑正孝、鷺野貴子、横谷知也、林史子、吉村牧子			授業形態	実習
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院組織および看護組織についての概要が説明できる。 2. 看護組織の形態と機能について説明できる。 3. 病棟の組織や機能について説明できる。 4. 病棟師長が行っている看護管理について説明できる。 （病室管理、物品管理、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランス、情報の管理、医療連携、安全管理、リスク管理、職場環境づくり） <p>【ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を實踐できる。」「◎(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、看護管理について学修を深めることによって、看護マネジメントへの興味を高め、看護管理を探究する姿勢を養うことを目指す科目である。</p>					
<p>授業概要</p> <p>この授業では、病棟で病棟の看護管理者に随行し、看護管理の實際を学ぶ。看護管理者が行っている病室管理、物品管理、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ライフ・バランス、情報の管理、医療連携、安全管理、リスク管理、職場環境づくりの實際を学ぶ。</p> <p>この授業をとおして、看護管理の必要性和役割を理解する。</p>					

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	○藤本由美子 那須さとみ 川村小千代 温井由美 市後昌代	看護管理について看護部長よりオリエンテーション 病院組織および看護組織についての概要、および組織の 目標等の説明を受ける 病棟の管理について病棟師長よりオリエンテーション 病棟の組織や機能、特徴などについて説明を受ける	予習：看護管理につ いて調べる 復習：オリエンテー ション内容をまとめ る
2 日 目	羽畑正孝 鷺野貴子 横谷知也 林史子 吉村牧子	病棟看護師長とともに行動し、日常業務の中に含まれる マネジメント活動について観察する（病室管理、物品管 理、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ラ イフ・バランス、情報の管理、医療連携、安全管理、リ スク管理、職場環境づくり）	予習：実習目標を明 確にしておく 復習：実習の学びを 記録する
3 日 目		病棟看護師長とともに行動し、日常業務の中に含まれる マネジメント活動について観察する（病室管理、物品管 理、人的資源管理、キャリアマネジメント、ワーク・ラ イフ・バランス、情報の管理、医療連携、安全管理、リ スク管理、職場環境づくり）	予習：実習目標を明 確にしておく 復習：実習の学びを 記録する
4 日 目		病棟師長とカンファレンス、反省会 （看護管理について学んだこと、疑問を発表し討論す る。病棟師長から助言をもらう）	予習：カンファレン スの準備 復習：実習の学びを 記録する
5 日 目		まとめの発表会 実習終了後に、実習で体験したことをもとに報告会を行 い、体験の共有化をはかる	予習：まとめの発表 会の準備を行ってお く 復習：発表会からの 学びを整理しておく
成績評価方法及び基準 評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単 位を認定する。			
教科書 なし 適宜参考図書を紹介する			
オフィスアワー		実習記録及びカンファレンスにて対応する	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護の統合Ⅱ（実習）		
講義開講時期	前期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○赤星誠、關戸啓子、堤かおり、藤本由美子、貞岡美伸、下村明子、山本明弘、池西和哉、高田美子、北出千春、木野寛子、那須さとみ、川村小千代、温井由美、市後昌代、羽畑正孝、鷺野貴子、横谷知也、大内由梨、林史子、吉村牧子		授業形態	実習	
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生各自の実習課題を明確にする。 2. 課題にそって具体的な実習目標を設定できる。 3. 実習目標にそった実習計画が立てられる。 4. 目標達成に向けて、主体的に実習ができる。 5. 集大成の実習として、看護の実践能力を高めることができる。 <p>【ディプロマポリシーとの関連】</p> <p>学科のディプロマポリシー「(2) 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。」「(3) 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。」「◎(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、看護学生が実習で自分の課題として残っていることや、興味がありさらに充実したい内容、自分の将来のキャリアに向けて体験したい内容などに従って、主体的に実習を行い、自己研鑽の姿勢を養うことを目指す科目である。</p>					
<p>授業概要</p> <p>この授業では、実習の集大成として、既修の知識・技術・態度を統合し、看護学生が実習で自分の課題として残っていることや、興味がありさらに充実したい内容、自分の将来のキャリアに向けて体験したい内容などに従って、実習を学生が教員と相談しながら計画し実施する。</p> <p>この授業をとおして、臨床で求められる看護の実践能力を高める。</p>					

授業計画

日	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 日 目	○赤星誠 關戸啓子 堤かおり 藤本由美子 貞岡美伸 下村明子	病棟オリエンテーション 学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 実習計画書をもとに、教員・施設における指導者と打合せを行ない、計画の実行方法および倫理的配慮に関する確認を行なう。	予習：自分の実習目標と実習方法を明確にしておく 復習：実習の学びを記録する
2 日 目	山本明弘 池西和哉 高田美子 北出千春 木野寛子	学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 実習方法、実習中の学びについて、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
3 日 目	那須さとみ 川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝	学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 実習目標の達成状況について、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
4 日 目	鷲野貴子 横谷知也 大内由梨 林史子 吉村牧子	学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 実習目標の達成状況について、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
5 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 中間カンファレンス、実習目標達成を評価し、必要なら計画の見直し	予習：中間カンファレンスの準備を行っておく 復習：カンファレンスからの学びを整理しておく
6 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 教員とともに前週の実習の振り返りを行ない、今週の実習に生かせるように指導を受ける	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する

7 日 目	同上	学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 実習目標の達成状況について、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
8 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 実習目標の達成状況について、教員・施設における指導者から指導・助言を受ける。	予習：実習内容を計画する 復習：実習の学びを記録する
9 日 目		学生各自の実習目標に従って、学生が計画した実習を実施する。 最終カンファレンス カンファレンスでは主体的に計画して実施した実習を振り返り、意見交換と学びのまとめを行う	予習：最終カンファレンスの準備 復習：カンファレンスでの学びをまとめる
10 日 目		学びの発表会 実習グループごとに学びを発表し意見交換を行う 実習で体験したことをもとに報告会を行い、体験の共有化をはかる	予習：学びの発表の準備 復習：発表会での学びをまとめる
成績評価方法及び基準 評価表80%、実習の学びをまとめた総合レポート20%、合計100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。			
教科書 なし 適宜参考図書を紹介する			
オフィスアワー		実習記録及びカンファレンスにて対応する	
履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ） 体調を整えて、実習に臨んでください。			

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護研究Ⅰ		
講義開講時期	前期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○山本明弘、藤本由美子、池西和哉			授業形態	講義

到達目標

1. 看護研究に必要な文献検討の方法と必要性について説明できる。
2. 看護研究を行うために必要な一連のプロセスについて説明できる。
3. 看護研究計画書に記載する内容について説明できる。
4. 研究の倫理について説明できる。
5. 量的研究について調査方法が説明できる。
6. 量的研究について分析方法が説明できる。
7. 質的研究について調査方法が説明できる。
8. 質的研究について分析方法が説明できる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(1) 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。」「◎(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探求し自己研鑽できる。」に基づき、看護研究を行うために必要な知識を獲得することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、研究を行う一連の流れを学ぶ。看護研究のテーマの決定、テーマに関連する文献検索、研究論文のクリティーク、看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）について理解する。

この授業をとおして、看護研究に求められる研究の基礎的知識を修得する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1	山本明弘	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：看護研究のテーマの決定	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

2	山本明弘	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：テーマに関連する文献検索	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
3	山本明弘	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：研究論文のクリティーク	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
4	山本明弘	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：看護研究計画書の作成方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
5	山本明弘	テーマ：看護研究を進めるにあたって 内 容：看護研究計画書の作成方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
6	藤本由美子	テーマ：質的研究方法 内 容：調査方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
7	藤本由美子	テーマ：質的研究方法 内 容：調査方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
8	藤本由美子	テーマ：質的研究方法 内 容：分析手法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

9	藤本由美子	テーマ：質的研究方法 内 容：分析手法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
10	藤本由美子	テーマ：研究倫理について 内 容：看護研究を行う上での倫理	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
11	池西和哉	テーマ：量的研究方法 内 容：研究の枠組み	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
12	池西和哉	テーマ：量的研究方法 内 容：アンケート作成方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
13	池西和哉	テーマ：量的研究方法 内 容：アンケート作成方法	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
14	池西和哉	テーマ：量的研究方法 内 容：統計処理	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる
15	池西和哉	テーマ：量的研究方法 内 容：統計処理	予習：資料を読んでおく 復習：学びをまとめる

成績評価方法及び基準	
定期試験 50%、課題レポート 50%の合計 100%で評価し、60%以上の評価で単位を認定する。	
教科書	
なし 適宜プリントを配布する	
オフィスアワー	毎週月曜日 1限 9:00~10:30
履修に当たっての注意 (受講者へのメッセージ)	
卒業研究に必要な内容です。予習復習をして授業に出席してください。	

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科シラバス

講義コード		講義名	看護研究Ⅱ		
講義開講時期	後期	学年	4	必修／選択	必修
単位数	2	曜日		時限	
担当教員	○關戸啓子、高田美子、北出千春、木野寛子、那須さとみ、川村小千代、温井由美、市後昌代、羽畑正孝、鷺野貴子、横谷知也、大内由梨、吉村牧子			授業形態	演習

到達目標

1. 研究のプロセスを体験する。
2. 研究の成果を論文にまとめることができる。
3. 研究成果を大学内で発表し、質疑応答ができる。

【ディプロマポリシーとの関連】

学科のディプロマポリシー「(4) 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。」に基づき、研究のプロセス、論文作成、研究発表を体験することによって、今後看護を探究していくために必要な基礎的研究能力を獲得することを目指す科目である。

授業概要

この授業では、個人またはグループで卒業研究を実施する。看護研究のテーマの決定、テーマに関連する文献検索、研究論文のクリティーク、看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）について体験し、研究成果を卒業論文として作成し、大学内で発表を行う。

この授業をとおして、看護研究に求められる研究の基礎的実践力を育成する。

授業計画

回	担当教員	授業内容	予習・復習 及び課題
1 ・ 2		テーマ：研究のプロセス 内 容：看護研究のテーマの決定	予習：テーマについて考えておく 復習：学びをまとめておく

3 ・ 4	○關戸啓子 高田美子 北出千春 木野寛子 那須さとみ	テーマ：研究のプロセス 内 容：テーマに関連する文献検索	予習：文献検索の方法を確認しておく 復習：学びをまとめておく
5 ・ 6	川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝 鷺野貴子 横谷知也	テーマ：研究のプロセス 内 容：研究論文のクリティーク	予習：クリティークの方法を確認しておく 復習：学びをまとめておく
7 ・ 8	大内由梨 吉村牧子	テーマ：研究のプロセス 内 容：看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）	予習：研究計画書に必要な内容を確認しておく 復習：学びをまとめておく
9 ・ 10		テーマ：研究のプロセス 内 容：看護研究計画書の作成（研究の枠組み、研究デザイン、量的研究方法と質的研究方法、看護研究を行う上での倫理）	予習：研究倫理について確認しておく 復習：学びをまとめておく
11 ・ 12		テーマ：研究の実施 内 容：調査の実施	予習：調査方法について確認しておく 復習：学びをまとめておく
13 ・ 14		テーマ：研究の実施 内 容：調査の実施	予習：調査結果を見直す 復習：学びをまとめておく
15 ・ 16		テーマ：研究の実施 内 容：分析	予習：分析方法を確認しておく 復習：学びをまとめておく

17 ・ 18	○關戸啓子 高田美子 北出千春 木野寛子 那須さとみ	テーマ：研究の実施 内 容：分析	予習：分析結果を見直す 復習：学びをまとめておく
19 ・ 20	川村小千代 温井由美 市後昌代 羽畑正孝 鷲野貴子 横谷知也	テーマ：論文作成 内 容：結果の作成	予習：結果の書き方を見直しておく 復習：学びをまとめておく
21 ・ 22	大内由梨 吉村牧子	テーマ：論文作成 内 容：考察の作成	予習：考察の書き方を見直しておく 復習：学びをまとめておく
23 ・ 24		テーマ：論文作成 内 容：全文を作成	予習：論文の書き方を見直しておく 復習：学びをまとめておく
25 ・ 26		テーマ：卒業研究発表会 内 容：発表会の準備	予習：発表内容を検討する 復習：学びをまとめておく
27 ・ 28		テーマ：卒業研究発表会 内 容：発表・質疑応答	予習：発表の準備 復習：学びをまとめておく
29 ・ 30		テーマ：卒業研究発表会 内 容：発表・質疑応答	予習：意見をまとめておく 復習：学びをまとめておく

<p>成績評価方法及び基準</p> <p>研究のプロセス全般、完成した論文、発表内容について、評価表を用いて評価を行う。60%以上の評価で単位を認定する。</p>	
<p>教科書</p> <p>なし 適宜プリントを配布する</p>	
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週火曜日3限 13:00~14:30</p>
<p>履修に当たっての注意（受講者へのメッセージ）</p> <p>大学の集大成です。意欲的に取り組んでください。</p>	

【資料3】
様式第2号 (その2)

教育課程と指定規則との対比表

(看護師学校) (宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科)

指定規則の教育内容 教育課程						別表3 (看護師課程)														計							
						基礎分野		専門基礎分野			専門分野						臨地実習										
						科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学		地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
区分	授業科目	配当年次	単位数 必修 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	14	16	6	11	6 (4)	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	102 (100)			
一般教養科目	哲学	1前	2	15		○																					
	東洋思想論	1前	2	15		○																					
	日本の文化	1後	2	15		○																					
	文化人類学	1後	2	15		○																					
	日本国憲法	1前	2	15		○																					
	社会と法	1後	2	15		○																					
	社会福祉学	1前	2	15		○																					
	わかやま未来学	1後	2	15		○																					
	統計学	1前	2	15		○																					
	数学	1前	2	15		○																					
	物理学	1後	2	15		○																					
	化学	1前	2	15		○																					
	生物学	1後	1	30		○																					
	外国語科目	英語	1前	1	30	必修科目として、学部共通科目から14単位、専門基礎科目から24単位、専門科目から75単位、合計113単位を修得し、全ての選択科目から12単位以上(専門科目から2単位以上)を修得し、合計125単位以上を修得すること。	○																				
医学英語 I		1後	1	30	○																						
医学英語 II		2後	1	30	○																						
英会話	1後	1	30	○																							
情報処理	情報処理演習 I	1前	1	30	○																						
	情報処理演習 II	1後	1	30	○																						
スポーツ・健康科学	健康と体力づくり	2前	2	15	○																						
	スポーツトレーニング学	3前	2	15	○																						
	健康トレーニング演習	2後	1	30	○																						
	体育実技 I	1後	1	30	○																						
	体育実技 II	2前	1	30	○																						
総合科目	コミュニケーション演習	1後	1	30	○																						
	心理学	2後	2	15	○																						
	医療経営学	4後	2	15	○																						
	メディカツリズム論	2前	2	15	○																						
	伝統医療論	1前	2	15	○																						
	基礎ゼミナール	1前	1	30	○																						
小計						-	-				-																

必修14+
(学部共通科目および専門基礎科目から選択10)

指定規則の教育内容 教育課程					別表3 (看護師課程)																計					
					基礎分野		専門基礎分野			専門分野						臨地実習										
					科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学		老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
区分	授業科目	配当年次	単位数 必修 選択	1単位数当りの時間数	履修方法及び卒業要件	14	16	6	11	6 (4)	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	102 (100)		
人体と機能および疾病と回復 専門基礎科目	解剖学Ⅰ	1前	1	30																						
	解剖学Ⅱ	1後	1	30																						
	生理学	1後	1	30																						
	生化学	1後	1	30																						
	臨床栄養学	1後	1	30																						
	薬理学	2前	1	30																						
	病理学	1後	1	30																						
	微生物学	1後	1	30																						
	看護物理学	2前	1	30							○															
	病態生理・治療学Ⅰ (成人急性期)	2前	2	15																						
	病態生理・治療学Ⅱ (成人慢性期)	2前	2	15																						
	病態生理・治療学Ⅲ (老年)	2後	1	30																						
	病態生理・治療学Ⅳ (小児)	2後	1	30																						
	病態生理・治療学Ⅴ (母性)	2後	1	30																						
	病態生理・治療学Ⅵ (精神)	2後	1	30																						
	病態生理・治療学Ⅶ (リハビリテーション)	2後	1	30																						
	公衆衛生学	2前	1	30																						
	疫学	2前	1	30																						
	関係法規	1後	1	30																						
	社会保障制度	2前	2	15																						
医療情報学	1後	1	30																							
人間関係論	1前	1	30																							
カウンセリング論	2前	1	30																							
小計						-	-																			

必修24+
(学部共通科目および専門基礎科目から選択10)

指定規則の教育内容 教育課程					別表3 (看護師課程)																計					
					基礎分野		専門基礎分野			専門分野						臨地実習										
					科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践	基礎看護学	地域・在宅看護論	成人看護学		老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	看護の統合と実践
区分	授業科目	配当年次	単位数 必修 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	14	16	6	11	6(4)	6	4	4	4	4	4	3	2	4	2	2	2	2	102 (100)		
看護の展開科目 専門科目	精神看護学各論Ⅰ	2後	1	30	必修											○										
	精神看護学各論Ⅱ	3前	1	30	必修											○										
	精神看護学実習	3後・4前	2	45	必修																		○			
	地域・在宅看護学概論	2前	2	15	必修							○														
	地域・在宅看護学各論Ⅰ	2後	2	15	必修							○														
	地域・在宅看護学各論Ⅱ	3前	2	30	必修							○														
	地域・在宅看護学実習	3後・4前	2	45	必修												○									
	緩和ケア	4後	1	15	必修							○	○	○												
	災害看護論	4後	1	15	必修							○	○	○	○	○	○									
	看護管理学	4前	1	15	必修							○					○									
感染看護学	2後	1	15	必修							○	○	○	○	○	○										
看護教育学	4後	1	15	必修							○															
看護理論と実践	3前	1	15	必修							○	○	○	○	○	○										
地域精神保健学	4後	1	15	必修							○		○			○										
国際看護論	4後	1	15	必修							○	○	○	○	○	○										
看護の統合Ⅰ(演習)	4前	2	30	必修												○										
看護の統合Ⅱ(演習)	4後	2	30	必修												○										
看護の統合Ⅰ(実習)	4前	1	45	必修																			○			
看護の統合Ⅱ(実習)	4前	2	45	必修																			○			
看護研究Ⅰ	4前	2	15	必修												○										
看護研究Ⅱ	4後	2	30	必修												○										
小計						-	-			-																
卒業要件単位数						14	24			52								23							125	
						選択12 (うち専門科目から2以上)																				
指定規則に対する増単位数						0	2			7									0							23
						選択12 (うち専門科目から2以上)																				

【資料4】

履修モデル

【看護学科(看護師の国家試験受験資格を取得する場合)】

区分	1年次 前期		1年次 後期		2年次 前期		2年次 後期		3年次 前期		3年次 後期		4年次 前期		4年次 後期		合計 卒業要件に 必要とする 単位	
	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位	授業科目名	単位		
全学 共通科目 14単位 以上	哲学	2	◎ 医学英語 I	1			◎ 心理学	2	スポーツトレーニング学	2								
	◎ 日本国憲法	2	物理学	2														
	◎ 社会福祉学	2	◎ 体育実技 I	1														
	◎ 統計学	2	◎ コミュニケーション演習	1														
	◎ 英語	1	伝統医療論	2														
	◎ 情報処理演習 I	1																
	◎ 基礎ゼミナール	1																
小計	11	小計	7	小計	0	小計	2	小計	2	小計	0	小計	0	小計	0	小計	0	22
専門 基礎科目 24単位 以上	◎ 解剖学 I	1	◎ 解剖学 II	1	◎ 病態生理・治療学 I (成人急性期)	2	◎ 病態生理・治療学 III(老年)	1	◎ カウンセリング論	1								
	人間関係論	1	◎ 生理学	1	◎ 病態生理・治療学 II (成人慢性期)	2	◎ 病態生理・治療学 IV(小児)	1	◎ 公衆衛生学	1								
			◎ 生化学	1	◎ 社会保障制度	2	◎ 病態生理・治療学 V(母性)	1	◎ 疫学	1								
			◎ 臨床栄養学	1			◎ 病態生理・治療学 VI(精神)	1										
			◎ 薬理学	1			◎ 病態生理・治療学 VII (リハビリテーション)	1										
			◎ 病理学	1			看護物理学	1										
			◎ 微生物学	1														
			◎ 関係法規	1														
			◎ 医療情報学	1														
	小計	2	小計	9	小計	6	小計	6	小計	3	小計	0	小計	0	小計	0	小計	0
専門 科目 75単位 以上	◎ 看護学概論	2	◎ 基礎看護技術学 II	2	◎ 基礎看護技術学 III	2	◎ 基礎看護技術学 IV	1	◎ 成人看護学各論 I B(急性期・救急看護・クリティカルケア)	1	◎ 成人・高齢者看護学実習 I(急性期)	2	◎ 看護管理学	1				
	◎ 基礎看護技術学 I	2	◎ 基礎看護学実習 I	1	◎ ヘルスアセスメント	1	◎ 看護過程論	1	◎ リハビリテーション看護学	1	◎ 成人・高齢者看護学実習 II(慢性期)	2	◎ 地域精神保健学	1				
			◎ 看護倫理学	1	◎ 成人看護学概論	2	◎ 基礎看護学実習 II	2	◎ 高齢者看護学各論 II	1	◎ 成人・高齢者看護学実習 III(リハビリ期)	2	◎ 国際看護論	1				
					◎ 高齢者看護学概論	2	◎ 成人看護学各論 I A (急性期・周手術期)	1	◎ 小児看護学各論 II	1	◎ 成人・高齢者看護学実習 IV(生活支援)	2	◎ 看護の統合 II(演習)	2				
					◎ 小児看護学概論	2	◎ 成人看護学各論 II(慢性期)	1	◎ 母性看護学各論 II	1	◎ 成人・高齢者看護学実習 V(地域連携)	1	◎ 看護研究 II	2				
					◎ 母性看護学概論	2	◎ 高齢者看護学各論 I	1	◎ 精神看護学各論 II	1	◎ 小児看護学実習	2						
					◎ 精神看護学概論	2	◎ 小児看護学各論 I	1	◎ 地域・在宅看護学各論 II	2	◎ 母性看護学実習	2						
					◎ 地域・在宅看護学概論	2	◎ 母性看護学各論 I	1	◎ チーム医療論	1	◎ 精神看護学実習	2						
							◎ 精神看護学各論 I	1			◎ 地域・在宅看護学実習	2						
							◎ 地域・在宅看護学各論 I	2			◎ 看護の統合 I(演習)	2						
							◎ 感染看護学	1			◎ 看護の統合 I(実習)	1						
											◎ 看護の統合 II(実習)	2						
											◎ 看護研究 I	2						
											◎ 看護管理学	1						
	小計	4	小計	4	小計	15	小計	13	小計	9	小計	0	小計	25	小計	7	小計	77
合計	125	卒業要件に必要とする単位数	17	卒業要件に必要とする単位数	20	卒業要件に必要とする単位数	21	卒業要件に必要とする単位数	21	卒業要件に必要とする単位数	14	卒業要件に必要とする単位数	0	卒業要件に必要とする単位数	25	卒業要件に必要とする単位数	7	125

◎は、卒業に必要な必修科目を示す

【資料5】

履修系統図(カリキュラムマップ)

科目群		1年次				2年次				3年次				4年次				
		前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	前期	単位	後期	単位	
学部共通科目	一般教育科目	人文	東洋思想論	2	日本の文化	2												
			哲学	2	文化人類学	2												
		社会	日本国憲法	2	社会と法	2												
			社会福祉学	2	わかやま未来学	2												
		自然	統計学	2	物理学	2												
	数学		2	生物学	1													
			化学	2														
	外国語科目	英語	1	医学英語Ⅰ	1			医学英語Ⅱ	1									
					英会話	1												
	情報処理	情報処理演習Ⅰ	1	情報処理演習Ⅱ	1													
スポーツ・健康科学			体育実技Ⅰ	1	健康と体づくり	2	健康トレーニング演習	1	スポーツトレーニング学	2								
					体育実技Ⅱ	1												
総合教養科目	基礎ゼミナール	1	コミュニケーション演習	1	メディカルツーリズム論	2	心理学	2							医療経営学	2		
			伝統医療論	2														
専門基礎科目	人体の構造と機能および疾病と回復	解剖学Ⅰ	1	薬理学	1	病態生理・治療学Ⅰ (成人急性期)	2	看護物理学	1									
				解剖学Ⅱ	1	病態生理・治療学Ⅱ (成人慢性期)	2	病態生理・治療学Ⅲ (老年)	1									
				生理学	1			病態生理・治療学Ⅳ (小児)	1									
				生化学	1			病態生理・治療学Ⅴ (母性)	1									
				臨床栄養学	1			病態生理・治療学Ⅵ (精神)	1									
				病理学	1			病態生理・治療学Ⅶ (リハビリテーション)	1									
				微生物学	1													
	健康支援と制度	人間関係論	1	関係法規	1	社会保障制度	2			カウンセリング論	1							
				医療情報学	1					公衆衛生学	1							
										疫学	1							
専門科目	看護の基礎科目	看護学概論	2	基礎看護技術学Ⅱ	2	基礎看護技術学Ⅲ	2	基礎看護技術学Ⅳ	1									
		基礎看護技術学Ⅰ	2	基礎看護学実習Ⅰ	1	ヘルスアセスメント	1	看護過程論	1									
				看護倫理学	1			基礎看護学実習Ⅱ	2									
	看護の展開科目					成人看護学概論	2	成人看護学各論ⅠA (急性期・周手術期)	1	成人看護学各論ⅠB (急性期・救急看護・クリティカルケア)	1	成人・高齢者看護学実習Ⅰ (急性期)	2	緩和ケア	1			
						高齢者看護学概論	2	成人看護学各論ⅠB (慢性期)	1	リハビリテーション看護学	1	成人・高齢者看護学実習Ⅱ (慢性期)	2	災害看護論	1			
						小児看護学概論	2	高齢者看護学各論Ⅰ	1	高齢者看護学各論Ⅱ	1	成人・高齢者看護学実習Ⅲ (リハビリ期)	2	看護教育学	1			
						母性看護学概論	2	小児看護学各論Ⅰ	1	小児看護学各論Ⅱ	1	成人・高齢者看護学実習Ⅳ (生活支援)	2	地域精神保健学	1			
						精神看護学概論	2	母性看護学各論Ⅰ	1	母性看護学各論Ⅱ	1	成人・高齢者看護学実習Ⅴ (地域連携)	1	国際看護論	1			
						地域・在宅看護学概論	2	精神看護学各論Ⅰ	1	精神看護学各論Ⅱ	1	小児看護学実習	2	看護の統合Ⅱ (演習)	2			
								地域・在宅看護学各論Ⅰ	2	地域・在宅看護学各論Ⅱ	2	母性看護学実習	2	看護研究Ⅱ	2			
						感染看護学	1	看護理論と実践	1	精神看護学実習	2							
								チーム医療論	1	地域・在宅看護学実習	2							
										看護の統合Ⅰ (演習)	2							
										看護の統合Ⅰ (実習)	1							
										看護の統合Ⅱ (実習)	2							
										看護研究Ⅰ	2							
										看護管理学	1							
必修計		14	16	21	20	12	25	5										
合計		23	31	26	23	15	25	11										

【履修系統図について】

- 開講科目がどのような分野に配置されているかがわかります。
- 各科目が学年進行のどこに位置しているかがわかります。
- 4年間で開講する全ての授業科目が記載されています。
- 下線のある授業科目は必修科目を表します。
- 科目毎のディプロマポリシーとの関係は色で示しています。

【看護学科 ディプロマポリシー】

- 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理感・道徳心を身に付けている。
- 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。
- 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる。
- 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。

*それぞれの項目に対応授業科目が同じ色で示されています。

【資料6】

時間割表

中之島校舎 前期時間割

曜日	学科	学年	1限目			2限目			3限目			4限目			5限目			6限目		
			9:00~10:30			10:40~12:10			13:00~14:30			14:40~16:10			16:20~17:50			18:00~19:30		
			科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
月	理学	1	基礎ゼミナール	中田	中講義室	解剖学	上	基礎医学実習室	日本国憲法	徳野	メディア	評価学総論	小林	中講義室						
		2	健康と体力づくり	川端	メディア	義肢装具学	上西	中講義室	小児科学	柳川	中講義室									
		3	呼吸・循環理学療法学実習①	森木、小林	治療室	呼吸・循環理学療法学実習②	森木、小林	治療室	トレーナー実習	川端	レクリエーション室	運動器障害理学療法学実習①	浅枝、上西	機能訓練室	運動器障害理学療法学実習②	浅枝、上西	機能訓練室			
		4																		
	作業	1	情報処理演習 I	大西	404教室	基礎ゼミナール	中田	401教室	日本国憲法	徳野	メディア									
		2	健康と体力づくり	川端	メディア	小児科学	柳川	402教室												
		3	老年期障害作業療法学総論	中井	403教室	生活環境学演習	加賀谷	403教室	トレーナー実習	川端	レクリエーション室									
		4																		
	看護	1	解剖学 I	上	基礎医学実習室	数学	松尾	201教室	日本国憲法	徳野	メディア									
		2	健康と体力づくり	川端	メディア	体育実技 II	川端	運動場	病態生理・治療学 I (成人急性期)	春山	基礎医学実習室	病態生理・治療学 II (成人慢性期)	水越	基礎医学実習室						
		3																		
		4																		
火	理学	1	哲学	中田	201教室	化学	松尾	202教室	英語① 情報処理演習 I ②	中田 大西	201教室 404教室	英語② 情報処理演習 I ①	中田 大西	201教室 404教室						
		2	リハビリテーション医学	田島	中講義室	運動学実習	大西	機能訓練室	画像診断学	園村	中講義室									
		3	評価学各論	浅枝、大西	基礎医学実習室	臨床検査学	井原	中講義室	脊髄障害理学療法学実習①	浅枝、森木	治療室	脊髄障害理学療法学実習②	浅枝、森木	治療室	物理療法学	國吉	中講義室			
		4																		
	作業	1	哲学	中田	201教室	化学	松尾	202教室												
		2				リハビリテーション医学	田島	402教室	運動学実習	加賀谷	機能訓練室	画像診断学	園村	中講義室						
		3	発達障害作業療法学総論	奥田	403教室	老年期障害作業療法学実習	中井	作業療法実技室	臨床検査学	井原	403教室									
		4																		
	看護	1	哲学	廣田	201教室	化学	松尾	202教室												
		2																		
		3																		
		4																		

時間割表

中之島校舎 前期時間割

水	理学	1	東洋思想論	中田	201教室	体育実技①	川端	運動場	体育実技②	川端	運動場	解剖学演習 I	上	基礎医学実習室					
		2	検査測定実習Ⅱ①	伊藤、大西	検査・評価室	検査測定実習Ⅱ②	伊藤、大西	検査・評価室	メディカルツーリズム論	清水	202教室								
		3	病理学演習	中村	基礎医学実習室	薬膳食養概論	中村	403教室	精神医学	鶴飼	中講義室	高齢者理学療法実習	岡本	検査・評価室					
		4																	
	作業	1	東洋思想論	中田	201教室	解剖学	上	基礎医学実習室	生理学	上	基礎医学実習室	英語	中田	401教室					
		2				身体障害作業療法学総論	福本	402教室	メディカルツーリズム論	清水	202教室								
		3	身体障害作業療法実習	福本	作業療法実習室	薬膳食養概論	中村	403教室	発達障害作業療法実習	奥田	作業療法実習室	精神医学	鶴飼	403教室					
		4																	
	看護	1	東洋思想論	廣田	201教室	統計学	松尾	中講義室	情報処理演習 I	山脇	メディア								
		2							メディカルツーリズム論	清水	202教室								
		3																	
		4																	
木	理学	1	統計学	松尾	404教室	社会福祉学	岡本	メディア	生理学	上	基礎医学実習室	リハビリテーションの理念	上西	中講義室					
		2				整形外科	木下	基礎医学実習室	運動発達学	三上	中講義室								
		3	保健医療福祉概論	岡本	203教室	神経系障害理学療法学	岸本	中講義室	発達障害理学療法実習①	浅枝、岸本	治療室	発達障害理学療法実習②	浅枝、岸本	治療室					
		4																	
	作業	1	統計学	松尾	404教室	社会福祉学	岡本	メディア	評価学総論	福本	401教室	リハビリテーションの理念	上西	中講義室					
		2	整形外科	木下	基礎医学実習室	運動発達学	三上	402教室	神経内科学	岸岡	402教室	生理学演習Ⅱ	上	基礎医学実習室					
		3	精神障害作業療法治療実習	林	作業療法実習室	病理学演習	中村	403教室	保健医療福祉概論	岡本	403教室								
		4																	
	看護	1	英語	鄭	中講義室	社会福祉学	岡本	メディア											
		2																	
		3																	
		4																	

時間割表

中之島校舎 前期時間割

金	理学	1	数学	松尾	404教室													
		2				生理学演習Ⅱ	中村	基礎医学 実習室	神経内科学	岸岡	基礎医学 実習室							
		3	スポーツトレーニング学	川端	メディア	薬理学	岸岡	大講義室	栄養学	中村	大講義室	バイオメカニクス	川端	中講義室				
		4																
	作業	1	数学	松尾	404教室	体育実技Ⅰ	川端	運動場				解剖学演習Ⅰ	上	基礎医学 実習室				
		2				精神障害作業療法評価学	林	402教室										
		3	スポーツトレーニング学	川端	メディア	薬理学	岸岡	大講義室	栄養学	中村	大講義室	バイオメカニクス	川端	中講義室				
		4																
	看護	1																
		2																
		3	スポーツトレーニング学	川端	メディア	公衆衛生学	笠松	中講義室	疫学	笠松	中講義室							
		4																

時間割表

中之島校舎 後期時間割

曜日	学科	学年	1限目			2限目			3限目			4限目			5限目			6限目		
			9:00~10:30			10:40~12:10			13:00~14:30			14:40~16:10			16:20~17:50			18:00~19:30		
			科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
月	理学	1	医学英語Ⅰ① 検査測定実習Ⅰ②	中田 大西、伊藤	201教室	医学英語Ⅰ② 検査測定実習Ⅰ①	中田 大西、伊藤	201教室 検査・評価室	解剖学演習Ⅱ	上	基礎医学 実習室	生理学演習Ⅰ	中村	基礎医学 実習室	理学療法概論	小林	中講義室			
		2	心理学	宮地	203教室	内科学① 理学療法研究の基礎②	岡田 森木	202教室 203教室	内科学② 理学療法研究の基礎①	岡田 森木	202教室 203教室	発達障害理学療法	岸本	中講義室						
		3	チーム医療論	小林	中講義室	病態運動学演習① 日常生活動作学実習②	上西 岡本	機能訓練室 日常動作室	医療情報学演習	伊藤	404教室	病態運動学演習② 日常生活動作学実習①	上西 岡本	機能訓練室 日常動作室						
		4	老年医学	中田	204教室	応用運動器障害理学療法学演習	上西 浅枝	機能訓練室												
	作業	1	運動学	加賀谷	401教室	解剖学演習Ⅱ	上	基礎医学 実習室	リスクマネージメント論	福本	401教室	情報処理演習Ⅱ	大西	404教室	日常生活活動学	福本	日常動作室			
		2	心理学	宮地	203教室	生体活動計測・分析法演習	福本	402教室	内科学	岡田	402教室	発達障害作業療法評価学	奥田	402教室						
		3	チーム医療論	小林	中講義室	高次脳機能障害作業療法評価学	山中	403教室	医療情報学演習	伊藤	404教室	応用身体障害作業療法治療学演習	山中	403教室						
		4	老年医学	中田	204教室															
	看護	1																		
		2	病態生理・治療学Ⅲ（老年）	水越	基礎医学実習室	病態生理・治療学Ⅵ（精神）	篠崎	中講義室	病態生理・治療学Ⅶ（リハビリテーション）	田島	中講義室									
		3																		
		4																		
火	理学	1	物理学	松尾	中講義室	体育実技Ⅱ	川端	運動場	情報処理演習Ⅱ①	大西	404教室	情報処理演習Ⅱ②	大西	404教室						
		2	健康トレーニング演習	川端	運動場	神経内科学演習	岸岡	検査・評価室	生理学演習Ⅲ① 義肢装具学実習②	中村 上西、森木	基礎医学 実習室 義肢装具室	生理学演習Ⅲ② 義肢装具学実習①	中村 上西、森木	基礎医学 実習室 義肢装具室						
		3	管理運営学	岸本	201教室	理学療法管理学	大西	検査・評価室	レクリエーション演習	伊藤	レクリエーション室									
		4	医療経営学	澤山	401教室										理学療法研究法演習Ⅱ	複数教員	教員の指示による			
	作業	1	生理学演習Ⅰ	中村	基礎医学実習室	医学英語Ⅰ	中田	401教室	体育実技Ⅱ	川端	運動場	物理学	松尾	401教室						
		2	健康トレーニング演習	川端	運動場	生理学演習Ⅲ	中村	基礎医学実習室	神経内科学演習	岸岡	402教室	作業療法研究の基礎	中井	402教室						
		3	管理運営学	加賀谷	403教室	応用評価学演習	加賀谷	403教室	応用精神障害作業療法治療学演習	林	403教室	地域とくらしの健康	加賀谷	403教室						
		4	医療経営学	澤山	401教室										作業療法研究法演習Ⅱ	複数教員	教員の指示による			
	看護	1	情報処理演習Ⅱ	山脇	メディア	物理学	花本	201教室	コミュニケーション演習	廣田	中講義室	生化学	松尾	中講義室	解剖学Ⅱ	上	基礎医学実習室			
		2	健康トレーニング演習	川端	運動場	病態生理・治療学Ⅴ（母性）	長尾	中講義室	看護物理学	關戸	201教室									
		3																		
		4	医療経営学	長尾	メディア															

時間割表

中之島校舎 後期時間割

水	理学	1	社会と法	徳野	メディア	英会話	澤山	201教室	コミュニケーション演習	中田	レクリエーション室	人間発達学	上條	検査・評価室	わかやま未来学	信時	メディア		
		2	医学英語Ⅱ	澤山	404教室	生体活動計測・分析法演習①	大西	404教室	生体活動計測・分析法演習②	大西	404教室	運動器障害理学療法学	上西	治療室					
		3	救急措置法演習①	上野	中講義室	救急措置法演習②	上野	中講義室	地域理学療法学演習	岡本	201教室				理学療法研究法演習Ⅰ	複数教員	教員の指示による		
		4	予防医学	岸岡	基礎医学実習室	臨床理学療法学演習Ⅰ	國吉	機能訓練室	臨床理学療法学演習Ⅱ	國吉	機能訓練室								
	作業	1	社会と法	徳野	メディア	英会話	澤山	201教室	人間発達学	上條	401教室	解剖学演習Ⅲ	上	基礎医学実習室	わかやま未来学	信時	メディア		
		2	医学英語Ⅱ	澤山	404教室	作業療法管理学	福本	402教室	義肢装具学	中井	402教室								
		3	発達障害作業療法治療学各論	奥田	403教室	老年期障害作業療法治療学各論	中井	403教室	救急措置法演習	上野	403教室	応用老年期障害作業療法治療学演習	中井	403教室	作業療法研究法演習Ⅰ	複数教員	教員の指示による		
		4				予防医学	岸岡	204教室											
	看護	1	社会と法	徳野	メディア	英会話	鄭	メディア	薬理学	岸岡	基礎医学実習室	体育実技Ⅰ	川端	運動場	わかやま未来学	信時	メディア		
		2	医学英語Ⅱ	鄭	メディア	病態生理・治療学Ⅳ（小児）	上田	基礎医学実習室	心理学	宮地	メディア								
		3																	
		4																	
木	理学	1	リスクマネジメント論	大西	中講義室	生物学	松尾	201教室	文化人類学	森本	メディア	運動学	大西	中講義室					
		2	解剖生理学実習①	上	基礎医学実習室	解剖生理学実習②	上	基礎医学実習室	病理学	中村	基礎医学実習室	呼吸・循環障害理学療法学Ⅰ	小林	機能訓練室					
		3				健康スポーツ科学演習	川端	203教室	神経筋疾患理学療法学	岡本	中講義室	生活環境学演習	國吉	日常動作室	呼吸・循環理学療法学実Ⅱ	上西	中講義室		
		4				応用神経系障害理学療法学演習	森木、國吉	204教室	応用呼吸・循環障害理学療法学演習	小林	204教室								
	作業	1	コミュニケーション演習	中田	401教室	生物学	松尾	201教室	文化人類学	森本	メディア	作業療法概論	福本	401教室					
		2				病理学	中村	402教室	精神障害作業療法学総論	林	402教室								
		3	精神障害作業療法治療学各論	林	403教室	健康スポーツ科学演習	川端	203教室	身体障害作業療法治療学各論	山中	403教室	地域作業療法学演習	中井	403教室					
		4	臨床作業療法学演習Ⅰ	山中	404教室	臨床作業療法学演習Ⅱ	山中	404教室											
	看護	1	生物学	松尾	201教室	医学英語Ⅰ	鄭	中講義室	文化人類学	森本	メディア	医療情報学	關戸啓人	201教室	生理学	中村	基礎医学実習室		
		2																	
		3																	
		4																	

時間割表

中之島校舎 後期時間割

金	理学	1	日本の文化	北川	メディア	伝統医療論	小原	201教室	解剖学演習Ⅲ①	上	基礎医学 実習室	解剖学演習Ⅲ②	上	基礎医学 実習室	運動療法学概論	國吉	中講義室				
		2	公衆衛生学	笠松	中講義室	整形外科学演習	木下	基礎医学実 習室	脊髄障害理学療法学	森木	大講義室										
		3	呼吸・純化障害理学療法学Ⅱ	上西	機能訓練室	代謝疾患理学療法学	伊藤	中講義室	応用評価学演習① 神経系障害理学療法学実習②	伊藤、浅枝 國吉、岸本	検査・評価 室 機能訓練室	応用評価学演習② 神経系障害理学療法学実習①	伊藤、浅枝 國吉、岸本	検査・評価 室 機能訓練室							
		4				応用発達障害理学療法学演習	岸本、國吉	204教室													
	作業	1	日本の文化	北川	メディア	伝統医療論	小原	201教室	身体障害作業療法評価学	福本	401教室										
		2	解剖生理学実習	上	基礎医学 実習室	公衆衛生学	笠松	大講義室	整形外科学演習	木下	402教室										
		3	レクリエーション演習	奥田	レクリエー ション室	応用発達障害作業療法学演習	奥田	403教室													
		4																			
	看護	1	日本の文化	北川	メディア	伝統医療論	小原	201教室	関係法規	徳野	中講義室	病理学	中村	中講義室	微生物学	雑賀	基礎医学 実習室				
		2																			
		3																			
		4																			

時間割表

西庄校舎 前期時間割

曜日	学科	学年	1限目			2限目			3限目			4限目			5限目			6限目		
			9:00~10:30			10:40~12:10			13:00~14:30			14:40~16:10			16:20~17:50			18:00~19:30		
			科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
月	看護	1																		
		2																		
		3	成人看護学各論ⅠB(急性期:救急看護・クリティカルケア)	堤・温井	看護学実習室(成人)	リハビリテーション看護学	堤・高田	看護学実習室(成人)	精神看護学各論Ⅱ	山本・横谷	看護学実習室(基礎)									
		4				看護研究Ⅰ	山本・藤本・池西	教室D	看護管理学	關戸	教室D									
火	看護	1																		
		2							基礎看護技術学Ⅲ	關戸・那須・大内	看護学実習室(基礎)	基礎看護技術学Ⅲ	關戸・那須・大内	看護学実習室(基礎)						
		3	高齢者看護学各論Ⅱ	高田・市後・川村・吉村	看護学実習室(成人)	母性看護学各論Ⅱ	貞岡・北出・木野	看護学実習室(母性)	カウンセリング論	赤星	教室B									
		4																		
水	看護	1																		
		2																		
		3																		
		4																		
木	看護	1																		
		2	小児看護学概論	下村	教室B	ヘルスアセスメント	關戸	看護学実習室(基礎)	精神看護学概論	山本	教室B	社会保障制度	岡本・赤星・吉村	教室B						
		3	看護理論と実践	山本・木野・關戸	教室C	地域・在宅看護学各論Ⅱ	池西・鷺野	在宅看護学実習室	小児看護学各論Ⅱ	下村・羽畑	看護学実習室(成人)	チーム医療論	關戸	教室C						
		4																		
金	看護	1	基礎ゼミナール	關戸・堤・高田・那須・大内	教室A	基礎看護技術学Ⅰ	關戸・那須・大内	看護学実習室(基礎)	基礎看護技術学Ⅰ	關戸・那須・大内	看護学実習室(基礎)	看護学概論	關戸	教室A	人間関係論	赤星	教室A			
		2	母性看護学概論	貞岡	教室C	高齢者看護学概論	藤本・高田	教室B	地域・在宅看護学概論	池西	教室B	成人看護学概論	堤	教室B						
		3																		
		4																		

時間割表

西庄校舎 後期時間割

曜日	学科	学年	1限目			2限目			3限目			4限目			5限目			6限目		
			9:00~10:30			10:40~12:10			13:00~14:30			14:40~16:10			16:20~17:50			18:00~19:30		
			科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
月	看護	1	看護倫理学	貞岡	教室A	臨床栄養学	関戸	教室A	基礎看護技術学Ⅱ	那須・関戸・大内	看護学実習室(基礎)	基礎看護技術学Ⅱ	那須・関戸・大内	看護学実習室(基礎)						
		2																		
		3																		
		4	緩和ケア	堤・温井	教室D															
火	看護	1																		
		2																		
		3																		
		4	災害看護論	西上・北出	教室D	看護研究Ⅱ	関戸・他19名	教員の指示による												
水	看護	1																		
		2																		
		3																		
		4							看護の統合Ⅰ(演習)	関戸・他全員	教員の指示による	看護の統合Ⅱ(演習)	赤星・他全員	教員の指示による						
木	看護	1																		
		2	基礎看護技術学Ⅳ	那須・関戸・大内	看護学実習室(基礎)	看護過程論	那須・関戸・大内	看護学実習室(基礎)	成人看護学各論ⅠA(急性期・周手術期)	堤・温井	看護学実習室(成人)	成人看護学各論Ⅱ(慢性期)	堤	看護学実習室(成人)	地域・在宅看護学各論Ⅰ	池西・鷺野	在宅看護実習室			
		3																		
		4				地域精神保健学	山本・横谷	教室D												
金	看護	1																		
		2	高齢者看護学各論Ⅰ	藤本・市後・川村・吉村	看護学実習室(成人)	小児看護学各論Ⅰ	下村・羽畑	看護学実習室(成人)	母性看護学各論Ⅰ	貞岡・北出・木野	看護学実習室(母性)	精神看護学各論Ⅰ	山本・横谷	看護学実習室(基礎)	感染看護学	貞岡	教室D			
		3																		
		4	国際看護論	下村	教室D	看護教育学	関戸・那須	教室D												

【資料7】

入学者選抜の評価方法と学力の3要素及びアドミッションポリシーとの関係

◎：強い関係がある

○：関係がある

入試種別	入試区分	評価方法	学力の3要素		
			知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度
			学力の3要素に対応するアドミッションポリシー・学力の3要素につながる基礎的な学力を備えている人 ・看護職として社会に貢献したい人	学力の3要素に対応するアドミッションポリシー・看護職にとって重要なコミュニケーション能力の基礎となる素養を持っている人 ・思いやりと優しさを備え、協調性に富む人	学力の3要素に対応するアドミッションポリシー ・自主的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持つ人 ・看護について強い関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢のある人
総合型選抜	AO基礎能力試験A・専願型	基礎能力試験	◎	◎	
		面接		◎	◎
		書類審査※	○	◎	○
		課題レポート		○	◎
	AO基礎能力試験B・専願型	基礎能力試験	◎	◎	
		面接		◎	◎
		書類審査※	○	◎	○
	AO基礎能力試験C・併願型	基礎能力試験	◎	◎	
面接			◎	◎	
書類審査※		○	◎	○	
学校推薦型選抜	指定校推薦入試	小論文	○	◎	○
		面接		◎	◎
		書類審査※	○	○	◎
一般選抜	一般入試	学科試験	◎	○	
		面接		◎	○
		書類審査※	○	○	◎
	共通テスト利用入試	学科試験	◎	○	
		面接		◎	○
		書類審査※	○	○	◎
社会人入学試験	-	小論文	○	◎	○
		面接		◎	◎

※書類審査：調査書・志望理由書・活動報告書による

基礎看護学実習 I 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
病院の施設見学	①病院の持つ設備の役割が説明できる。		(15)
	②病院にある部門の役割・機能が説明できる。		
病棟の見学	①病院の持つ設備の役割が説明できる。		(15)
	②患者の病室における療養環境が説明できる。		
看護師ヘシヤド ウイング	①患者が受けている看護援助の実際について説明できる。		(50)
	②看護師間の連携の実際について説明できる。		
	③他職種間の連携の実際について説明できる。		
	④見学した患者を通して、患者の気持ちについて説明できる。		
	⑤見学した患者を通して、患者のニーズについて説明できる。		
看護学生としての 態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(20)
	②実習から自己の学習課題を明確にする。		
	③患者・家族のプライバシーを守る。		
	④医療者・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
総合評点			
担当教員氏名：			

【達成段階】 A：とても良くできている

B：良くできている

C：できている

D：少し努力を要する

E：努力を要する

基礎看護学実習Ⅱ 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
情報収集 アセスメント 看護問題の明確化	①患者の病態から治療の必要性が理解できる。		(15)
	②看護に必要な情報を収集できる。		
	③患者の情報を整理・分類できる。		
	④患者の情報の分析から、看護問題を抽出できる。		
	⑤情報の関連性から、看護問題を表現することができる。		
	⑥看護問題の優先順位を決定できる。		
看護計画の立案	①看護問題に基づき看護目標を立案できる。		(15)
	②患者の状態にあった具体的な看護計画を立案できる。		
看護の実施	①立案した計画に基づいて、看護師の指導のもと看護実践できる。		(40)
	②患者の安全・安楽・自立に基づいて、看護師の指導のもと看護実践できる。		
看護の評価	①毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		(15)
	②患者の状態に応じて計画の追加・修正ができる。		
看護学生としての態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(15)
	②患者・家族のプライバシーを守る。		
	③患者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④医療者・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
担当教員氏名：	総合評点		

【達成段階】 A：とても良くできている

B：良くできている

C：できている

D：少し努力を要する

E：努力を要する

成人・高齢者看護学実習Ⅰ（急性期） 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
情報収集 アセスメント 看護問題の抽出	①患者の病態から手術の必要性が理解できる。		(15)
	②患者の手術の術式と術後の経過の予測が理解できる。		
	③手術療法が患者にどのような影響を与えるかを予測することができる。		
	④看護に必要な情報を収集できる。		
	⑤患者の情報を整理・分類できる。		
	⑥患者の退院後を視野に入れた情報のアセスメントができる。		
	⑦患者の情報の分析から、看護問題を抽出できる。		
	⑧情報の関連性から、看護問題を適切に表現することができる。		
	⑨看護問題の優先順位を決定できる。		
看護計画の立案	①看護問題に基づき具体的で達成可能な看護目標を立案できる。		(15)
	②科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。		
	③患者の状態と個性を考慮した看護計画を立案できる。		
	④現実的で実現可能な具体的な看護計画を立案できる。		
看護の実施 ※実施は看護師の 指導のもと行う	①立案した計画に基づいて看護実践できる。		(30)
	②患者の安全・安楽・自立に基づいて看護実践できる。		
	③術前には、手術への不安を緩和することを考慮した援助ができる。		
	④手術後には、回復を促進することを考慮した援助ができる。		
	⑤退院後の社会復帰に向けたADL拡大と自立への援助ができる。		
	⑥チーム医療の一員として、看護援助を考えることができる。		
	⑦退院後に自己管理できるように家族を含めての教育を計画し実施できる。		
看護の評価	①毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		(15)
	②患者の状態に応じて計画の追加・修正・再評価ができる。		
	③受け持ち最終日に、患者への看護を振り返り、実習中に行った看護の評価ができる。		
見学実習	①手術室の見学をとおして、手術室における看護援助がわかる。		(10)
	②ICUの見学をとおして、ICUにおける看護援助がわかる。		
	③ICUの見学をとおして、ICUにおける患者への治療環境がわかる。		
看護学生としての 態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(15)
	②患者・家族のプライバシーを守る。		
	③患者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④医療者・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
総合評点			
担当教員氏名：			

【達成段階】 A：とても良くできている

B：良くできている

C：できている

D：少し努力を要する

E：努力を要する

成人・高齢者看護学実習Ⅱ（慢性期） 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
情報収集 アセスメント 看護問題の抽出	①患者の病態から治療の必要性が理解できる。		(15)
	②患者の治療方針と退院までの経過の予測が理解できる。		
	③慢性疾患が患者にどのような影響を与えるかを予測することができる。		
	④看護に必要な情報を収集できる。		
	⑤患者の情報を整理・分類できる。		
	⑥患者の退院後を視野に入れた情報のアセスメントができる。		
	⑦患者の情報の分析から、看護問題を抽出できる。		
	⑧情報の関連性から、看護問題を適切に表現することができる。		
	⑨看護問題の優先順位を決定できる。		
看護計画の立案	①看護問題に基づき具体的で達成可能な看護目標を立案できる。		(15)
	②科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。		
	③患者の状態と個別性を考慮した看護計画を立案できる。		
	④現実的で実現可能な具体的な看護計画を立案できる。		
看護の実施 ※実施は看護師の 指導のもと行う	①立案した計画に基づいて看護実践できる。		(40)
	②患者の安全・安楽・自立に基づいて看護実践できる。		
	③チームアプローチの実際を見学し、チーム医療の重要性がわかる。		
	④治療の効果を観察し、回復を促進することを考慮した援助ができる。		
	⑤退院後の社会復帰に向けたADL拡大と自立への援助ができる。		
	⑥チーム医療の一員として、看護援助を考えることができる。		
	⑦退院後に自己管理できるように家族を含めての教育を計画し実施できる。		
看護の評価	①毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		(15)
	②患者の状態に応じて計画の追加・修正・再評価ができる。		
	③受け持ち最終日に、患者への看護を振り返り、実習中に行った看護の評価ができる。		
看護学生としての 態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(15)
	②患者・家族のプライバシーを守る。		
	③患者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④医療者・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
担当教員氏名：	総合評点		

【達成段階】 A：とても良くできている

B：良くできている

C：できている

D：少し努力を要する

E：努力を要する

成人・高齢者看護学実習Ⅲ（リハビリテーション期） 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項 目	評 価 内 容	段 階	得 点
情報収集 アセスメント 看護問題の抽出	①患者の病態からリハビリテーションの必要性が理解できる。		(15)
	②患者のリハビリテーション方針と退院までの経過の予測が理解できる。		
	③看護に必要な情報を収集できる。		
	④患者の情報を整理・分類できる。		
	⑤患者の退院後を視野に入れた情報のアセスメントができる。		
	⑥患者の情報の分析から、看護問題を抽出できる。		
	⑦情報の関連性から、看護問題を適切に表現することができる。		
	⑧看護問題の優先順位を決定できる。		
看護計画の立案	①看護問題に基づき具体的で達成可能な看護目標を立案できる。		(15)
	②科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。		
	③患者の状態と個別性を考慮した看護計画を立案できる。		
	④現実的で実現可能な具体的な看護計画を立案できる。		
看護の実施 ※実施は看護師の 指導のもと行う	①立案した計画に基づいて看護実践できる。		(40)
	②患者の安全・安楽・自立に基づいて看護実践できる。		
	③リハビリテーションの専門職とのチームアプローチの実際を見学し、連携の重要性がわかる。		
	④リハビリテーションを行っている高齢者に特徴的な課題について、援助を計画し実施できる。		
	⑤退院後の社会復帰に向けたADL拡大と自立への援助ができる。		
	⑥チーム医療の一員として、看護援助を考えることができる。		
看護の評価	①毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		(15)
	②患者の状態に応じて計画の追加・修正・再評価ができる。		
	③受け持ち最終日に、患者への患者を振り返り、実習中に行った看護の評価ができる。		
看護学生としての 態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(15)
	②患者・家族のプライバシーを守る。		
	③患者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④医療者・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
総合評点			
担当教員氏名：			

- 【達成段階】 A：とても良くできている
 B：良くできている
 C：できている
 D：少し努力を要する
 E：努力を要する

成人・高齢者看護学実習Ⅳ（生活支援） 実習評価表

学籍番号： 氏名：

項目	評価内容	段階	得点
【介護老人保健施設】			
情報収集 アセスメント 生活上の問題 の抽出	①高齢者の施設入所目的が理解できる。		(10)
	②ケアに必要な情報を収集できる。		
	③情報を整理・分類できる。		
	④アセスメントができる。		
	⑤情報の分析から、生活上の問題を抽出できる。		
ケア計画の立案	①ケア計画を立案できる。		(5)
	②高齢者の生活機能と個別性を考慮した計画を立案できる。		
ケアの実施・評価 ※実施は指導者の 指導のもと 行う	①立案した計画に基づいてケアが実践できる。		(15)
	②高齢者の安全・安楽・自立に基づいてケアが実践できる。		
	③機能訓練の実際を見学し、連携の重要性がわかる。		
	④介護保険制度を理解し、社会復帰への援助を学ぶ。		
	⑤毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		
施設・スタッフ の役割	①看護職の役割を理解できる。		(10)
	②介護職の役割を理解できる。		
	③施設の環境面での配慮について理解できる。		
看護学生とし ての態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(10)
	②利用者・家族のプライバシーを守る。		
	③利用者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④施設スタッフ・利用者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
【介護老人福祉施設】			
情報収集 アセスメント 生活上の問題 の抽出	①ケアに必要な情報を収集できる。		(10)
	②情報を整理・分類できる。		
	③アセスメントができる。		
	④情報の分析から、生活上の問題を抽出できる。		
ケア計画の立案	①ケア計画を立案できる。		(5)
	②高齢者の生活機能と個別性を考慮した計画を立案できる。		
ケアの実施・評価 ※実施は指導者の 指導のもと 行う	①立案した計画に基づいてケアが実践できる。		(15)
	②高齢者の安全・安楽・自立に基づいてケアが実践できる。		
	③施設スタッフの連携の重要性がわかる。		
	④毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		
施設・スタッフ の役割	①看護職の役割を理解できる。		(10)
	②介護職の役割を理解できる。		
	③施設の環境面での配慮について理解できる。		
看護学生とし ての態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(10)
	②利用者・家族のプライバシーを守る。		
	③利用者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④施設スタッフ・利用者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
担当教員氏名：		総合評点	

- 【達成段階】 A：とても良くできている
B：良くできている
C：できている
D：少し努力を要する
E：努力を要する

成人・高齢者看護学実習Ⅴ（地域連携） 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
情報収集 アセスメント 看護問題の明確化	①患者の病態から治療の経過が理解できる。		(10)
	②退院支援に必要な情報を収集できる。		
	③患者の情報を整理・分類できる。		
	④患者の情報の分析から、退院支援に向けての看護問題を抽出できる。		
看護計画の立案	①退院支援に向けての看護目標を立案できる。		(10)
	②退院支援に向けての具体的な看護計画を立案できる。		
看護の実施・評価	①立案した計画に基づいて、退院後を想定した自立を促す援助を工夫して、看護師の指導のもと実施する。		(30)
	②看護師の指導のもと、退院に向けての指導を実施する。		
	③毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		
見学実習（患者支援センター）	①患者支援センターの必要性が説明できる。		(10)
	②患者支援センターの役割・機能が説明できる。		
見学同行実習 （退院支援・地域連携活動）	①退院調整看護師が行う退院支援・地域連携活動の必要性が説明できる。		(30)
	②退院調整看護師が行う退院支援・地域連携活動の役割が説明できる。		
	③ソーシャルワーカーの退院支援・地域連携活動に関わる必要性が説明できる		
	④ソーシャルワーカーの退院支援・地域連携活動に関わる役割が説明できる		
看護学生としての態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(10)
	②患者・家族のプライバシーを守る。		
	③患者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④医療福祉スタッフ・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
総合評点			
担当教員氏名：			

- 【達成段階】 A：とても良くできている
 B：良くできている
 C：できている
 D：少し努力を要する
 E：努力を要する

小児看護学実習 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
【幼稚園・保育所】			
健康な小児の理解と援助	①健康な小児の成長・発達、発達課題について説明できる。		
	②小児同士の関係性・スタッフとの関係形成から社会性の発達について解釈できる。		
	③小児の成長・発達に応じた日常生活の援助を実施できる。		
	④小児の成長・発達に応じたコミュニケーションを図ることができる。		
施設的环境	①小児の健康を守る施設的环境面での配慮について説明できる。		(20)
【支援学校】			
障害のある子どもへの支援	①支援学校の役割について説明できる。		(10)
	②支援学校に通う子どもたちへの支援の実際を説明できる。		
施設的环境	①支援学校に通う子どもたちの健康を守る施設的环境面での配慮について説明できる。		
【小児病棟】（優先順位の高い看護問題について、計画を立案し実施する）			
情報収集 アセスメント 看護問題の抽出	①患者の病態から治療の必要性が理解できる。		(15)
	②患者の治療方針と退院までの経過の予測が理解できる。		
	③疾患が小児の成長・発達にどのような影響を与えるかを予測することができる。		
	④看護に必要な情報を収集できる。		
	⑤患者の情報を整理・分類できる。		
	⑥患者の退院後を視野に入れた情報のアセスメントができる。		
	⑦患者の情報の分析から、看護問題を抽出できる。		
	⑧情報の関連性から、看護問題を適切に表現することができる。		
	⑨看護問題の優先順位を決定できる。		
看護計画の立案	①看護問題に基づき具体的で達成可能な看護目標を立案できる。		(10)
	②科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。		
	③患者・家族の状態と個別性を考慮した看護計画を立案できる。		
	④患者の成長・発達段階に応じた具体的な看護計画を立案できる。		
看護の実施 ※実施は看護師の指導のもと行う	①立案した計画に基づいて看護実践できる。		(20)
	②患者の安全・安楽・自立に基づいて看護実践できる。		
	③患者の成長・発達段階と家族のニーズを考慮した看護実践ができる。		
	④退院後の生活を考慮に入れた看護実践ができる。		
	⑤チーム医療の一員として、看護援助を考えることができる。		
看護の評価	①毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		(10)
	②患者の状態に応じて計画の追加・修正・再評価ができる。		
【実習をとおして】			
看護学生としての態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(15)
	②患者・家族のプライバシーを守る。		
	③患者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④施設職員・医療者・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
担当教員氏名：	総合評点		

- 【達成段階】 A：とても良くできている
B：良くできている
C：できている
D：少し努力を要する
E：努力を要する

母性看護学実習 実習評価表

学籍番号： 氏名：

項目	評価内容	段階	得点
【病棟】			
情報収集 アセスメント ケアニーズの 明確化	①周産期にある対象者の生理的な身体状況を理解できる。		(15)
	②周産期にある対象者の退院までの経過の予測が理解できる。		
	③周産期にある対象者の入院が家族に与える影響を予測することができる。		
	④看護に必要な情報を収集できる。		
	⑤情報を整理・分類できる。		
	⑥情報のアセスメントができる。		
	⑦情報の分析から、ケアニーズを抽出できる。		
	⑧ウェルネスの視点を適切に取り入れることができる。		
	⑨ケアニーズの優先順位を決定できる。		
看護計画の立案	①具体的で達成可能な看護目標を立案できる。		(15)
	②科学的根拠に基づいた看護計画を立案できる。		
	③対象者（出産後は新生児）・家族の状態と個別性を考慮した看護計画を立案できる。		
	④対象者の退院後の育児を見越した、指導計画を立案できる。		
看護の実施 ※実施は看護職 の指導のもと 行う	①立案した計画に基づいて看護実践できる。		(30)
	②対象者（出産後は新生児）の安全・安楽・自立に基づいて看護実践できる。		
	③対象者（出産後は新生児）の生理的な変化に対応した看護実践ができる。		
	④退院後の生活を考慮に入れた指導が実践できる。		
	⑤チーム医療の一員として、看護援助を考えることができる。		
看護の評価	①毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		(10)
	②対象者の状態に応じて計画の追加・修正・再評価ができる。		
【産婦人科外来】			
	①妊娠期の正常な経過と生活に及ぼす影響を説明できる。		(15)
	②妊娠期の異常の早期発見、治療について説明できる。		
	③産婦人科外来の看護専門職の役割を説明できる。		
【実習をとおして】			
看護学生とし ての態度	①生命の尊厳に触れて、生命の大切さが実感できる。		(15)
	②学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		
	③対象者・家族のプライバシーを守る。		
	④対象者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	⑤対象者・家族と、看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑥看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑦記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑧自己の健康管理ができる。		
総合評点			
担当教員氏名：			

- 【達成段階】 A：とても良くできている
 B：良くできている
 C：できている
 D：少し努力を要する
 E：努力を要する

精神看護学実習 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
【病棟】			
情報収集 アセスメント 看護問題の明確化	①患者の病態から治療の必要性が理解できる。		(15)
	②患者の治療方針と退院までの経過の予測が理解できる。		
	③精神科疾患が患者にどのような影響を与えるかを予測することができる。		
	④看護に必要な情報を収集できる。		
	⑤患者の情報を整理・分類できる。		
	⑥患者の退院後を視野に入れた情報のアセスメントができる。		
	⑦患者の情報の分析から、看護問題を抽出できる。		
	⑧情報の関連性から、看護問題を適切に表現することができる。		
	⑨看護問題の優先順位を決定できる。		
看護計画の立案	①具体的で達成可能な看護目標を立案できる。		(10)
	②個別性を考慮した看護計画を立案できる。		
	③生活上の困難に対して、必要とされる支援を計画できる。		
	④社会復帰に必要な社会資源利用について立案できる。		
看護の実施 ※実施は看護師の指導のもと行う	①立案した計画に基づいて看護実践できる。		(20)
	②生活上の困難に対して、必要とされる支援を患者とともに考えて実施する。		
	③患者とのかかわりをおして、反応を確かめながら看護計画を実施する。		
	④社会復帰に必要な社会資源について、チームで考えることができる。		
	⑤チーム医療の一員として、看護援助を考えることができる。		
看護の評価	①毎日の記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		(10)
	②患者の日々の状態に応じて計画の追加・修正・再評価ができる。		
【自立支援施設】			
施設の役割	①自立支援施設の必要性・役割・機能について説明できる。		(30)
	②就労継続支援を受けている人に対する援助について説明できる。		
支援の実際	①生活介護（通所）を受けている人に対する援助を、施設職員と一緒に実施できる。		
	②生活介護（通所）を受けている人に対する機能回復訓練を見学し、その役割について説明できる。		
	③生活上の困難を抱えながら地域で生活する対象者への支援状況を知る。		
【実習をとおして】			
看護学生としての態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(15)
	②患者・家族のプライバシーを守る。		
	③患者・家族の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④医療者・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
総合評点			
担当教員氏名：			

- 【達成段階】** A：とても良くできている
 B：良くできている
 C：できている
 D：少し努力を要する
 E：努力を要する

地域・在宅看護学実習 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
【学生が看護計画を立案して訪問する事例】			
情報収集 アセスメント 看護問題の明確化	①訪問する対象者の現在までの経過が理解できる。		(10)
	②訪問看護が必要な状況が理解できる。		
	③訪問看護以外に利用している支援が理解できる。		
	④介護者・家族の状況が理解できる。		
	⑤対象者の情報の分析から、看護問題を抽出できる。		
	⑥情報の関連性から、看護問題を適切に表現することができる。		
看護計画の立案	①次回の訪問で実施する具体的で達成可能な看護目標を立案できる。		(10)
	②次回の訪問で実施する看護計画を、助言のもと立案できる。		
看護の実施・評価	①立案した計画に基づいて、訪問看護師とともに看護実践できる。		(15)
	②在宅で使用可能な物品を利用して、実施できる。		
	③生活している場を尊重した方法を工夫して実施できる。		
	④記録のなかで、看護を振り返り評価ができる。		
【訪問看護師に同行する事例】			
事前情報把握	①訪問する対象者の現在までの経過の概要が理解できる。		(10)
	②対象者に対する訪問看護の目的が理解できる。		
	③訪問看護以外に利用している支援が理解できる。		
	④介護者・家族の状況の概要が理解できる。		
	⑤訪問看護で実施する予定の内容について把握しておく。		
訪問	①訪問看護師の計画に基づいて、一緒にケアを実施する。		(10)
	②在宅で行うケアの工夫を理解する。		
	③生活している場を尊重した方法の工夫を理解する。		
	④対象者・介護者とのコミュニケーションの取り方について理解する。		
訪問後	①訪問看護記録の書き方について理解する。		(10)
	②次回の訪問計画の立て方について理解する。		
	③他職種との連携・情報交換の方法について理解する。		
【実習をとおして】			
在宅療養者の理解・支援機能	①在宅療養者の身体的・心理的・社会的特性を説明することができる。		(20)
	②訪問看護の必要性を説明できる。		
	③地域包括ケアシステムにおける訪問看護の機能と役割が説明できる。		
	④多職種協働の必要性とその意義が説明できる。		
	⑤多職種協働の中におけるリハビリテーションの専門職の必要性とその意義・役割が説明できる。		
看護学生としての態度	①学習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(15)
	②対象者・家族・介護者のプライバシーを守る。		
	③対象者・家族・介護者の気持ちや感情を理解し、尊重して関わる。		
	④訪問看護ステーションの職員・対象者・家族・介護者と、看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
担当教員氏名：	総合評点		

【達成段階】 A：とても良くできている

B：良くできている

C：できている

D：少し努力を要する

E：努力を要する

看護の統合 I (実習) 実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
全体の把握	①病院組織および看護組織についての概要が理解できる。		(20)
	②看護組織の形態と機能について理解できる。		
	③病棟の組織や機能について理解できる。		
看護管理者の役割	①看護管理者が行っている病室管理の方法について説明できる。		(60)
	②看護管理者が行っている物品管理の方法について説明できる。		
	③看護管理者が行っている人的資源管理の方法について説明できる。		
	④看護管理者が行っているキャリアマネジメントについて説明できる。		
	⑤看護管理者が行っているワーク・ライフ・バランスの支援方法について説明できる。		
	⑥看護管理者が行っている情報の管理について説明できる。		
	⑦看護管理者が行っている医療連携について説明できる。		
	⑧看護管理者が行っている安全管理について説明できる。		
	⑨看護管理者が行っているリスク管理の方法について説明ができる。		
	⑩看護管理者が行っている、職場環境づくりの実際を学ぶ。		
看護学生としての態度	①学修習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(20)
	②患者・家族のプライバシーを守る。		
	③カンファレンスで適切な意見が述べられる。		
	④医療者・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
総合評点			
担当教員氏名：			

- 【達成段階】 A：とても良くできている
 B：良くできている
 C：できている
 D：少し努力を要する
 E：努力を要する

看護の統合Ⅱ（実習）実習評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
実習準備	①学生各自の実習課題を明確にする。		(20)
	②課題にそって具体的な実習目標を設定できる。		
	③実習目標にそった実習計画が立てられる。		
主体的な実習の実施	①実習計画書をもとに、教員・施設における指導者と打合せを行ない、計画の実行方法および倫理的配慮に関する確認を行なう。		(30)
	②目標達成に向けて、主体的に実習ができる。		
	③中間カンファレンスにおいて、実習目標達成を評価し、必要に応じて計画を見直し、実習計画を修正する。		(30)
	④最終カンファレンスでは、主体的に計画して実施した実習を振り返り、意見交換と学びのまとめを行う。		
	⑤集大成の実習として、看護の実践能力を高めることができる。		
看護学生としての態度	①学修習意欲を持ち積極的に実習に取り組むことができる。		(20)
	②患者・家族のプライバシーを守る。		
	③カンファレンスで適切な意見が述べられる。		
	④医療者・患者・家族と看護学生として適切なコミュニケーションを図れる。		
	⑤看護学生であることを認識して、報告・連絡・相談ができる。		
	⑥記録用紙や課題レポートは専門用語を用いて記述し、期限を厳守して提出できる。		
	⑦自己の健康管理ができる。		
総合評点			
担当教員氏名：			

- 【達成段階】 A：とても良くできている
 B：良くできている
 C：できている
 D：少し努力を要する
 E：努力を要する

看護研究Ⅱ 評価表

学籍番号：

氏名：

項目	評価内容	段階	得点
研究のプロセス	①看護に資する研究テーマを決定できた。		(30)
	②研究テーマに関連する文献検索を行い文献検討ができた。		
	③倫理的に配慮された研究計画が作成できた。		
	④研究目的にそって調査が実施できた。		
	⑤結果を整理することができた。		
卒業研究論文	①【理解】卒業研究の研究目的・意義を理解し、考察ができています。		(50)
	②【分析】統計的もしくは質的な方法論の基礎に基づいて、研究目的にそった分析ができています。		
	③【表現】論理的でわかりやすい表現で書かれています。		
	④【形式性】論文の形式に従って作成されています。		
	⑤【成長性】卒業研究論文作成をとおして、興味・関心が広がった。		
発表会	①発表会の準備・当日の役割が果たせた。		(20)
	②発表の準備を行い、わかりやすく、研究のプレゼンが実施できた。		
	③質問に適切に対応できた。		
	④他者の研究にも興味を持ち、疑問については質問を行った。		
担当教員氏名：		総合評点	

【達成段階】 A：とても良くできている

B：良くできている

C：できている

D：少し努力を要する

E：努力を要する

【資料 9】

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・人材養成像・3つのポリシー

【建学の精神】

徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもち有徳の人材を育成する

【和歌山保健医療学部看護学科の教育理念】

人間性豊かな幅広い教養、生命を尊重する高い倫理観、高い創造性論理的思考力、問題発見・解決の能力、強い使命感と責任感を有し生涯にわたり学び続ける意志と能力を持った看護職者を養成することおよびそれを通じて、医療チームの一員として他職と協同しながら、医療・保健・健康・福祉の向上および地域医療への貢献に資することを目的とする

【養成する人材像】

1. 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけた人材
2. 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材
3. 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる人材
4. 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる人材

【学位授与の方針】ディプロマポリシー

本学科では大学の目的、学科の教育理念、養成する人材像を踏まえ、必要な単位を取得し以下の能力を有すると認められた者に学位を授与する

1. 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている。
2. 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけている。
3. 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を实践できる。
4. 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる。

【教育課程の編成方針】カリキュラムポリシー

教育課程は授業科目を学部共通科目、専門基礎科目、専門科目の3区分に分け体系的に配置する。本学の理念である「徳義の涵養と人間性尊厳の実践」を基盤に看護専門職として総合的な能力を有し、社会に貢献できる人材を育成するために、

- ・ 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成
- ・ 社会の要請に応える看護師としての知識と技術の育成
- ・ 修得した看護学の知識・技術をもとに、論理的判断に基づいて看護実践ができる能力の育成
- ・ 看護を探究し続ける高い創造性と問題発見・解決できる基礎的能力の育成

の4つの方針に従って策定し、カリキュラム全体をとおして看護専門職にふさわしい人間性と倫理観を持ち、社会の要請に応えられる社会人を育成する。

1. 幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心の育成

学部共通科目は、地域への理解、幅広い教養と医療人として必要な高い倫理観・道徳心を身につけることを目的とした科目で構成され、主に1年次から2年次において開講する。

2. 質の高い看護実践に必要な科学的な知識・技術・態度を身につけた人材の育成

専門基礎科目は、看護専門職として必要な人体構造・機能、疾病論、保健・福祉・情報関係の基礎を学び、看護師として必要な基盤となる知識を身につけることを目的として配置する。

専門科目は、社会の要請に応えるとともに看護専門職として必要な知識及び技術を身につけることを目的とし、2年次から3年次前期において開講する。

3. 論理的思考力、問題発見・解決の能力を持ち看護を実践できる能力の育成

看護師として必要な基盤となる知識、看護学の専門領域の知識と技術をもとに論理的判断に基づいて看護実践ができる能力の育成を目的として、3年次後期から4年次前期に臨地実習科目を配置する。

4. 看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる能力の育成

専門科目のうち、4年次後期開講科目・看護の統合科目・看護研究は、発展的・統合的な科目群であり、看護を探究し自己研鑽できる能力、高い創造性と問題発見・解決できる基礎的能力を育成することを目的に配置する。

【入学者受入の方針】アドミッションポリシー

ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを踏まえ、以下の適性・意欲・能力を有する学生を受け入れることとする。

1. 看護について強い関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢のある人。
2. 思いやりと優しさを備え、協調性に富む人。
3. 看護職として社会に貢献したい人。
4. 看護職にとって重要なコミュニケーション能力の基礎となる素養を持っている人
5. 自主的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考能力を持つ人。
6. 学力の3要素につながる基礎的学力を備えている人

【資料10】

宝塚医療大学和歌山保健医療学部看護学科の教育理念・3つのポリシー関連図

【建学の精神】

徳義の涵養と人間性尊厳の実践を理念とし、医療人たる社会的責務を自覚せしめ、国際社会に伍して恥じぬ恒心をもつ、有徳の人材を育成する

【和歌山保健医療学部看護学科の教育理念】

人間性豊かな幅広い教養、生命を尊重する高い倫理観、高い創造性論理的思考力、問題発見・解決の能力、強い使命感と責任感を有し生涯にわたり学び続ける意志と能力を持った看護職者を養成することおよびそれを通じて、医療チームの一員として他職と協同しながら、医療・保健・健康・福祉の向上および地域医療への貢献に資することを目的とする

ディプロマポリシー

幅広い教養と看護師として必要な高い倫理観・道徳心を身につけている

質の高い看護実践に必要な知識・技術・態度を身につけている

論理的思考力、問題発見・解決の能力をも持ち、看護を実践出来る

看護師として社会に貢献することに強い使命感と責任感を有し、生涯にわたり看護を探究し自己研鑽できる

カリキュラムポリシー

学部共通科目は、地域への理解、幅広い教養と医療人として必要な高い倫理観・道徳心を身につけることを目的とした科目で構成され、主に1年次から2年次において開講する。

専門基礎科目は、看護専門職として必要な人体構造・機能、疾病論、保健・福祉・情報関係の基礎を学び、看護師として必要な基盤となる知識を身につけることを目的として配置する。
専門科目は、社会の要請に応えるとともに看護専門職として必要な知識及び技術を身につけることを目的とし、2年次から3年次前期において開講する。

看護師として必要な基盤となる知識、看護学の専門領域の知識と技術をもとに論理的判断に基づいて看護実践ができる能力の育成を目的として、3年次後期から4年次前期に隣地実習科目を配置する

専門科目のうち、4年次後期開講科目・看護の統合科目・看護研究科は、発展的・統合的な科目群であり、看護を探究し自己研鑽できる能力、高い創造性と問題発見・解決できる基礎的能力を育成することを目的に配置する。

アドミッションポリシー

看護について強い関心を持ち、何事にも意欲的に取り組む姿勢のある人

思いやりと優しさを備え、協調性に富む人

看護職として社会に貢献したい人

学力の3要素につながる基礎的学力を備えている人

看護職にとって重要なコミュニケーション能力の基礎となる素養を持っている人

自主的に学ぶ姿勢と、論理的で柔軟な思考力を持つ人